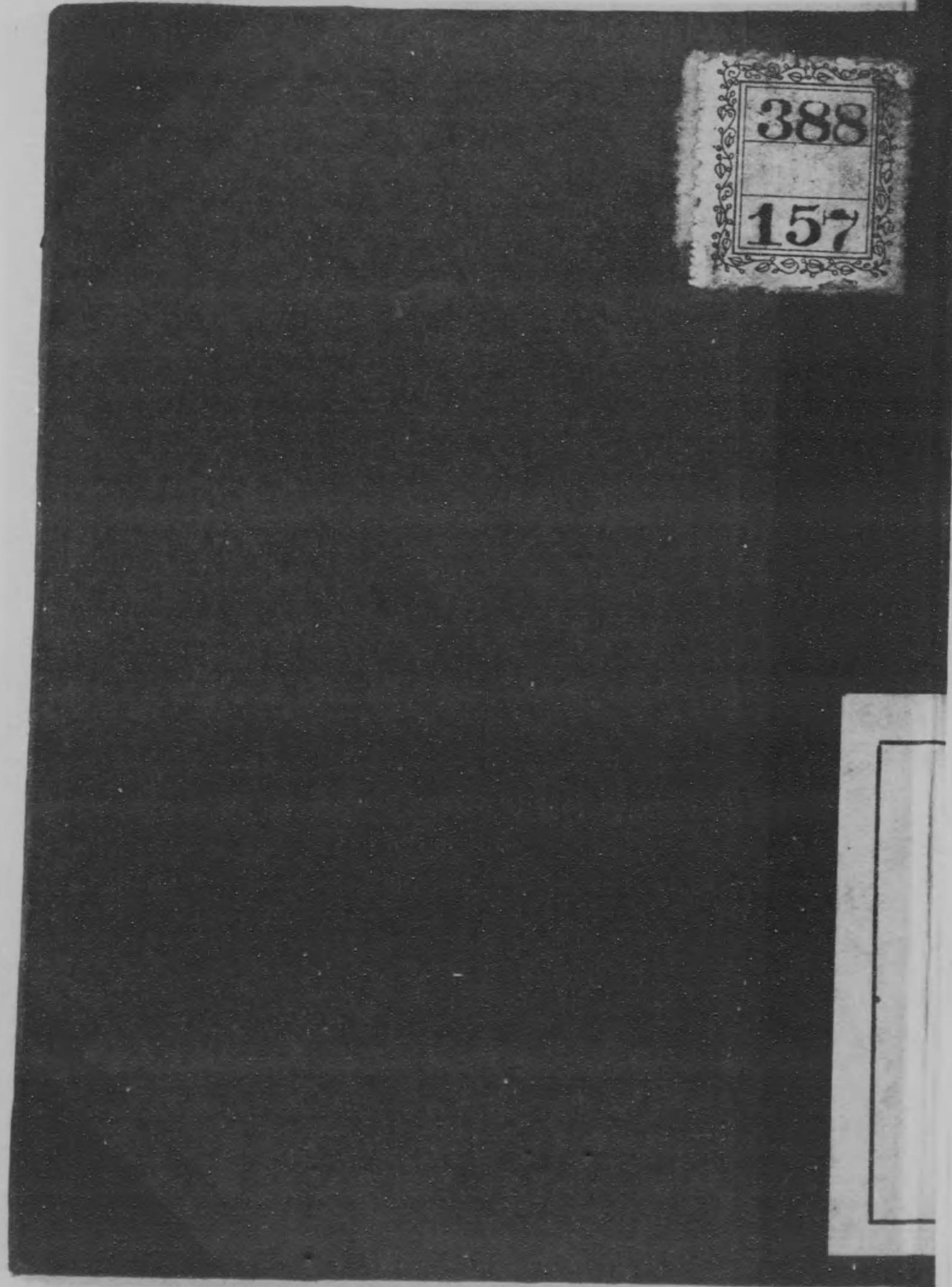


始



388
157



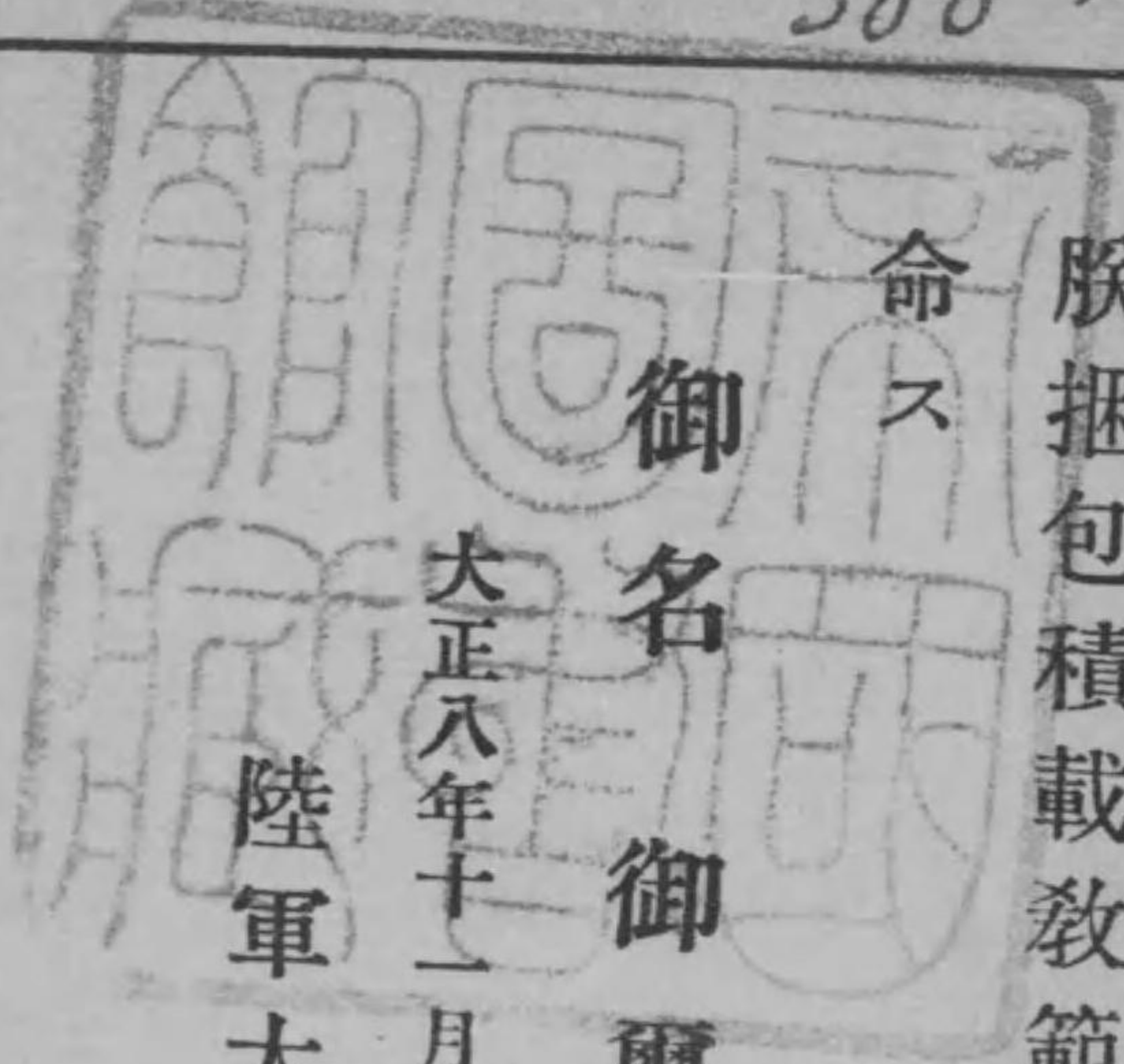


捆包積載教範



388-157

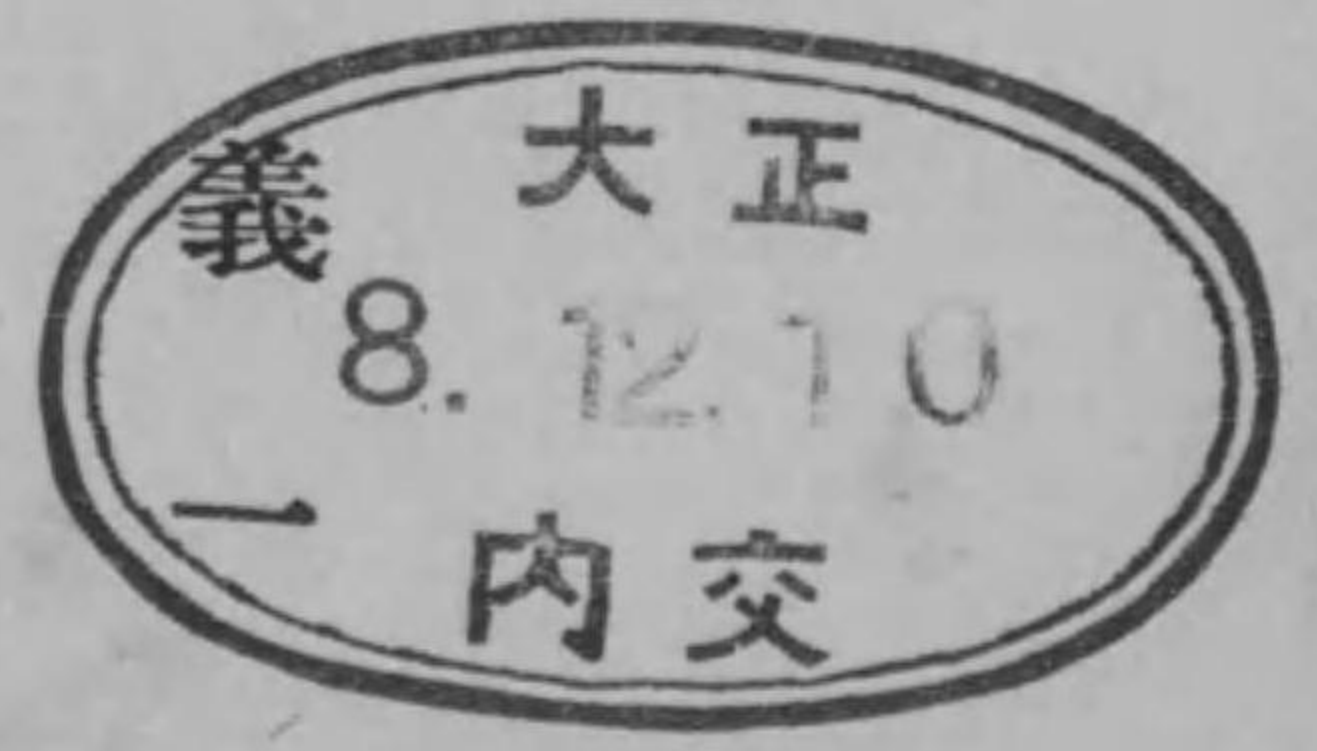
朕摺包積載教範ヲ改定シ之カ施行ヲ  
命ス



御名 御璽

大正八年十一月二十九日

陸軍大臣 田中





軍令陸第二十七號

捆包積載教範





# 捆包積載教範目次

總則

第一章 捆包

要則

捆包一般ノ方法

各種兵器物品ノ捆包

箱

步兵通信器材

步兵小行李衛生材料及器具

一頁

六六

八

十七

十七

十八

二十

目次

一



工兵小行李器材	二十五
大行李物品	二十六
衛生隊小行李物品	三十
電信隊器材	三十三
架橋縱列器材	三十四
第二章 馱載	三十六
要則	三十六
馱載一般ノ方法	三十九
各種兵器物品ノ馱載	四十二
步兵通信器材	四十三

步兵小行李衛生材料、彈藥及器具  
工兵小行李器材

第三章 車載

要則	四十七
車載一般ノ方法	四十七
各種兵器物品ノ車載	四十九
箱	五十七
大行李物品	五十七
電話隊器材	五十九
衛生隊小行李衛生材料	六十三
	六十四



野戰病院衛生材料	六十五
步兵彈藥縱列彈藥	六十七
砲兵彈藥縱列彈藥	六十七
電信隊器材	六十八
架橋縱列器材	七十八
附錄	
第一章 馱馬具及輓馬具ノ裝脫並積載卸下ノ爲	
馱馬、輓馬ノ保持	九十五
馱馬具ノ裝脫	九十五
輓馬具ノ裝脫	百

積載卸下ノ爲馱馬、輓馬ノ保持

第二章 部隊捆包

第三章 車載品ヲ馱載スル爲ノ捆包及馱載

捆包

大行李物品

衛生隊小行李物品

步兵彈藥縱列彈藥

電信隊器材

架橋縱列器材(舊式)

馱載

百二
百三
百五
百五
百五
百七
百八
百九
百九
百十八



箱	百十八
大行李物品	百二十一
衛生隊小行李物品	百二十三
歩兵彈藥縱列彈藥	百二十六
電信隊器材	百二十六
架橋縱列器材(舊式)	百二十八
第四章 自動貨車ニ積載スル兵器物品ノ梱包及積載	百三十五

### 梱包積載教範目次終

## 梱包積載教範

### 總則

第一 梱包ハ軍需諸品ノ積載ヲ便ナラシムルト共ニ其破損紛失ヲ防キ積載ノ力輸送ヲ確實且容易ナラシムルヲ以テ目的トス

第二 梱包積載ヲ爲スヘキ兵器物品ハ其種類頗ル多シ而シテ本教範ニ掲タル方法ハ一般ノ基準トナルヘキモノナルヲ以テ十分之ヲ訓練シ各種ノ場合ニ應用スヘキモノトス

第三 本教範ニ示ス梱包積載ハ兵卒各個ニ之ヲ教育スルノ精神ヲ失ハサル如ク行フヲ要ス



第四 捆包積載ハ確實ニシテ簡易ナルヘク其動作ハ敏速ニシテ  
 靜肅ナルヲ要ス而シテ之カ教育ニ方リテハ先ツ確實ヲ主トシ漸  
 次敏速ヲ求ムルノ順序ニ依ラサルヘカラス

第五 捆包積載一般ノ方法ハ作業ノ基礎トナルヘキモノナルヲ  
 以テ最モ綿密ニ實施スルヲ要ス

第六 捆包積載ノ教育ニ在リテハ兵卒ヲシテ教育上基礎トナル  
 ヘキ兵器物品捆包ニ在リテハ箱、步兵小行李隊醫級、同器具罐、電柱及板、馱  
 在リテハ箱、吹、行李、彈藥箱、電柱、鐵舟及板トス但演習材  
 料ノ關係ニ依リ要スレハ他ノ類似ノ兵器物品ヲ用フルコトヲ得ニ就キ十分練磨  
 セシメ漸次各種兵器物品ノ捆包積載ニ及ホスヲ要ス

第七 兵卒前條ノ作業ニ習熟スルニ至レハ應用作業ノ教育ヲ始

ムヘシ而シテ此教育ハ主トシテ制式品ニ就キテ行ヒ應用品ニ關  
 スルモノハ輻重ノ本務ニ鑑ミテ品種ヲ定メ時機ヲ求メテ實習セ  
 シムヘシ

第八 捆包積載ハ夜間之ヲ實施セサルヘカラサルコト多シ故ニ  
 兵卒晝間ノ作業ニ習熟スルニ至レハ夜間作業ノ教育ヲ始メ之ヲ  
 練習セシムルヲ要ス

第九 捆包積載ノ教育ニ在リテハ兵卒ニ模範ヲ示シ且簡單適切  
 ニ要點ノ説明ヲ爲シ各自ニ之ヲ實施セシメ以テ其要領ヲ十分會  
 得セシムルヲ要ス而シテ兵卒ノ動作特ニ要點ノ實施ニ注意シ過  
 誤ヲ發見セハ直ニ之ヲ矯正スヘシ是一タヒ作業完成セハ其過誤



ヲ修正スルコト困難ナレハナリ尙作業完成後ニ於テモ所要ノ檢査ヲ行ヒ要スレハ兵器物品ヲ搖リ動カシ或ハ馱馬、輓馬ヲ行進セシムル等ノ手段ニ依リ作業ノ缺點ヲ了解セシムルコトヲ勉ムヘシ

捆包積載ノ教育ニ伴ヒ兵器物品ノ名稱及用途ノ大要ヲ教育シ且其尊重心ヲ養成スルコトヲ勉ムヘシ

第十 捆包積載ノ教育ニ在リテハ兵卒ヲシテ精神氣力ヲ籠メ作業ニ従事セシムルト共ニ軍紀ノ涵養ニ勉メ又二人以上一組ニテ作業ヲ行フトキハ協同動作ヲ確實ナラシムルヲ要ス

第十一 教育ノ進歩ト共ニ兵器物品ノ種類、形態、重量等ヲ視

察シ直ニ其組合セ及作業ノ方法ヲ判別實施シ得シムル如ク其識力ヲ養成シ且漸次臂力ヲ發達セシメ以テ作業ニ對スル自信力ヲ増進セシムルヲ要ス

第十二 捆包積載教育ノ爲演習材料トシテ兵器物品ノ模造品ヲ用フルトキハ其形態、重量等ヲ概ネ制式品ト同一ナラシムヘシ

第十三 捆包ニ在リテハ作業ヲ容易ニシ積載ニ在リテハ兵器物品ヲ集積スル爲要スレハ枕木ヲ用フルモノトス

第十四 捆包積載教育ノ爲服裝、馬裝及車輛ノ裝備ハ教育ノ進度ニ應シ適宜之ヲ定ムヘシ但軍刀ヲ帶フル者ハ作業中之ヲ除カシムルコトヲ得



第十五 本教範ニ示ス諸課目及其要求程度ハ兵科ノ必要ニ鑑ミ之ヲ取捨斟酌スヘキモノトス

### 第一章 捆包

#### 要則

第十六 捆包作業ノ要ハ兵器物品ノ組合セヲ順序正シク整ヘ其要部ヲ結束スルニ在リ

第十七 兵器物品ヲ捆包スルニハ積載ノ要求ニ基キ其種類、形態、重量等ニ應シ組合セ及捆包ノ方法ヲ定ムルヲ要ス

第十八 兵器物品ヲ組ミ合セ之ヲ包ミ又ハ箱、袋等ニ收ムルト

キハ各品互ニ密接シテ安定ヲ得特ニ破損シ易キモノニ在リテハニツクリツナ荷造綱又ハ繩ノ經路ヲ避ケテ位置セシムルモノトス

第十九 荷造綱又ハ繩ヲ以テ兵器物品ヲ結束スルニハ通常二周マハリ以上之ヲ纏フモノトス

第二十 捆包用ノ繩ハ兵器物品ノ種類、形態、重量等ニ應シ其太サヲ定ムルヲ要ス而シテ教育ノ初期ニ在リテハ豫メ所要ノ長サニ切斷スルモ習熟スルニ至レハ長キ儘之ヲ使用スルモノトス

第二十一 兵器物品ニ横繩及縦繩ヲ掛クルニハ各、二周ノ爲横繩ハ横圍ノ約二倍半、縦繩ハ縦圍ノ約三倍ノ長サヲ要スルモノトス



第二十二 捆包ハ通常一人ニテ行フモ二箇所以上同時ニ結フヲ要スルカ大形又ハ重量大ナル兵器物品ニ在リテハ二人以上ニテ之ヲ行フモノトス

第二十三 捆包ヲ解クニハ概ネ捆包ト反對ノ順序ニ行フモノトス

### 捆包一般ノ方法

第二十四 捆包スヘキ兵器物品及捆包材料ハ作業前豫メ作業ノ順序ヲ顧慮シテ之ヲ整置ス此際長側短側ノ區分アルモノハ其短側ヲ又長キモノハ其兩端ヲ前後ト爲ス如クスルモノトス

第二十五 捆包ヲ行フニハ兵卒ヲ兵器物品ノ後方ニ位置二人以上ナルトキ

ハ二列ニ整列セシムセシメタル後「捆包用意」ノ號令ヲ下ス此號令ニテ兵卒

ハ駈歩ヲ以テ兵器物品ノ所ニ到リ定位兵器物品ノ右側ニ歩ニシテ一人ナルトキハ後端二人ナルトキ

ハ前後兩端ニ分レテ位置ス三人以上ナルトキハ上記ノ要領ニ從ヒ兵器物品ノ兩側ニ位置スニ就ク

次ニ「始メ」ノ號令ヲ下ス此號令ニテ兵卒ハ作業ヲ始メ作業終レ

ハ「捆包用意」ノ定位ニ復スルモノトス

第二十六 捆包ヲ行フニハ通常兵器物品ノ右側ニ於テス但組合セ等ヲ要スルトキハ先ツ之ヲ爲シタル後上記ノ位置ニ移ルモノトス

第二十七 捆包ヲ行フニハ適宜足ヲ踏ミ開キ通常腰ヲ下クルコトナク確實ニ體ヲ構フルヲ要ス



第二十八●荷造網又ハ繩ヲ角形ノ兵器物品ニ掛クルニハ其端ヲ荷造網ニ在リテハ四握程ニギリヘビツチ蛇口共約繩ニ在リテハ二握程出タシテ左手ニ握リ掌ノ膨ノ所ニテ兵器物品ノ前方上角ニ當テ堅ク之ヲ押サヘ右手ヲ以テ網又ハ繩ヲ逆ニ取り兵器物品ニ直交スル如ク導キテ緊張シ角ニ托シテ締メ逐次此ノ如クシテ兵器物品ヲ一周シ左手ノ所ニ持チ來タシ爾後同要領ニテ既ニ纏ヒタル網又ハ繩ノ右側ニ密接シテ纏ヒ前方上角ノ稍、下ニテ角結ト爲スモノトス

第二十九 荷造網又ハ繩ヲ角形ナラサル兵器物品ニ掛クルニハ一周纏フ毎ニ之ヲ引キ締ムル外概ネ前條ニ準シテ行フモノトス

第三十 兵器物品ノ種類ニ依リ其構造、内容等妨ナキモノニ限

リ掛ケタル荷造網又ハ繩ノ緊締ヲ確實ナラシムル爲兵器物品ヲ搖リ若ハ其重量ヲ利用シテ引キ締メ又要スレハ脚ヲ用フルコトアリ

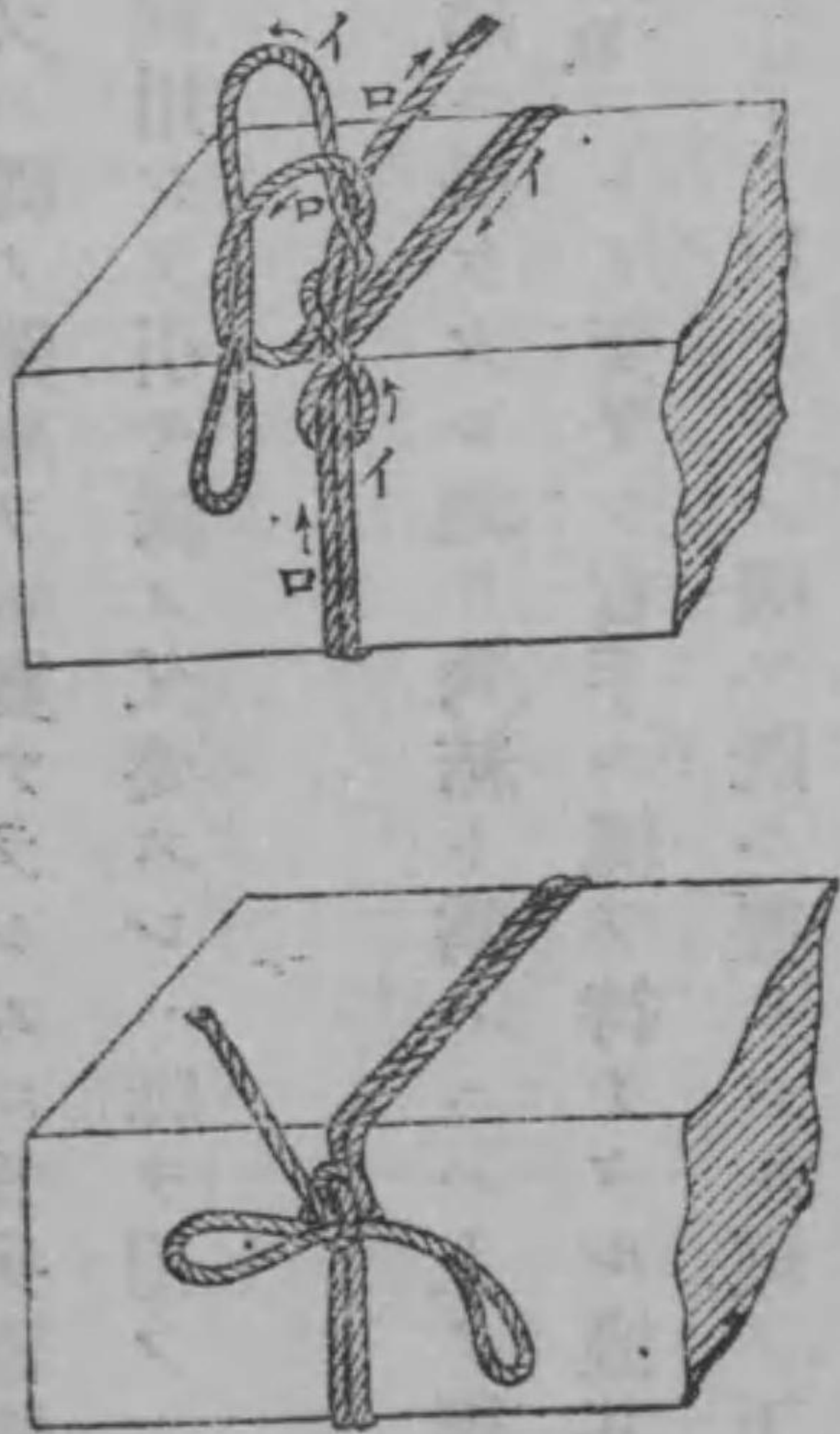
第三十一 兵器物品ニ掛ケタル繩ヲ角結ト爲スニハ上ノ繩左手ニ取リタルモノト下ノ繩右手ニ取リタルモノトヲ交叉シ右手ニ繩ヲ持チタル儘其手ニテ交叉點ヲ押サヘ左手ヲ以テ上ノ繩ヲ既ニ纏ヒタル繩ノ下ニ通シ交叉點ニ對シテ引キ締ム次ニ左手ニ下ノ繩ヲ持チ換ヘ拇指ト食指トニテ交叉點ニ就キ繩ノ根ヲ堅ク持チ右手ヲ以テ其繩ヲ適宜ノ環ト爲シ根ト共ニ左手ニ保チ上ノ繩ヲ環ノ中ニ在ラシム次ニ右手ヲ以テ環ノ中ニ在ル繩ヲ取り環ノ根ニ沿ヒ右ヨリ一回適



度ニ引キ締メツツ廻ハシ再ヒ環ノ中ニ通シ左手ノ拇指ニテ弛マサル如ク其根ヲ壓シ右手ニテ環ト爲シタル繩ノ端ヲ引キ締ム荷造網ヲ用フル場合ニ在リテハ環ノ中ニ在ラシムル網ヲ引解ト爲シ置クモノトス(第一圖)

第一圖  
角結

イ 上ノ網  
ロ 下ノ網



品種ニ依リ上ノ繩又ハ荷造網ヲ既ニ纏ヒタル繩又ハ網ノ下ニ通スコト能ハサルトキハ此操作ヲ省クコトアリ

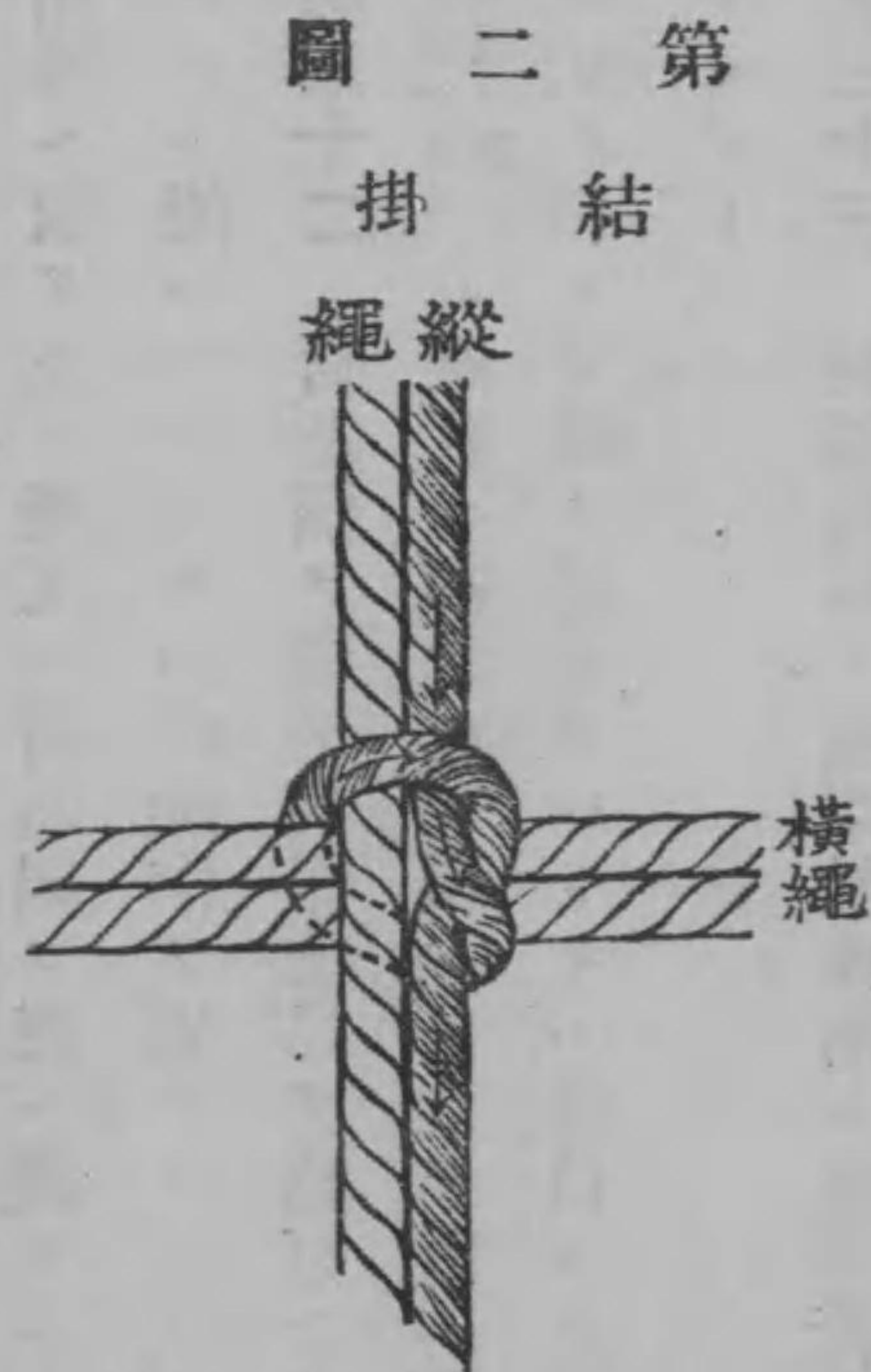
第三十二 荷造網ヲ以テ兵器物品ヲ結束シタルトキハ其餘端ト爲シタル引解餘端ヲ除クハ確實ニ纏メ成シ得レハ之ヲ既ニ纏ヒタル網ノ下ニ挿ムモノトス又繩ヲ用ヒタルトキハ結目ムスビノヨリ一握程ノ所ニ於テ切ルモノトス

第三十三 兵器物品ノ横圍數箇所ニ逐次荷造網又ハ繩ヲ掛クルトキハ先ツ中央部ヨリ始メテ兩端ニ及ホシ又其結目ハ之ヲ同方側ニ在ラシメ且之ヲ同高ナラシムルモノトス

第三十四 繩ヲ縦横ニ交叉シテ捆包スル爲縦繩ヲ掛クルニハ兵



器物品ニ所要ノ横繩ヲ掛ケタル後先ツ縦繩ヲ掛ケ始ムヘキ方ヲ  
 上ニシテ置キ第二十八又ハ第二十九ニ準シ繩ヲ一周纏ヒ左手ノ  
 所ニ持チ來タシタル繩ヲ弛マサル如ク其手ニテ押サヘ右手ニテ



繩ヲ前ニ掛ケタル  
 繩ノ右側ニ沿ヒ最  
 初ノ横繩ヲ越エテ  
 導キ前ニ掛ケタル  
 繩及横繩ノ下ヲ經  
 テ左上方ニ出タシ  
 次ニ之ヲ右方ニ取

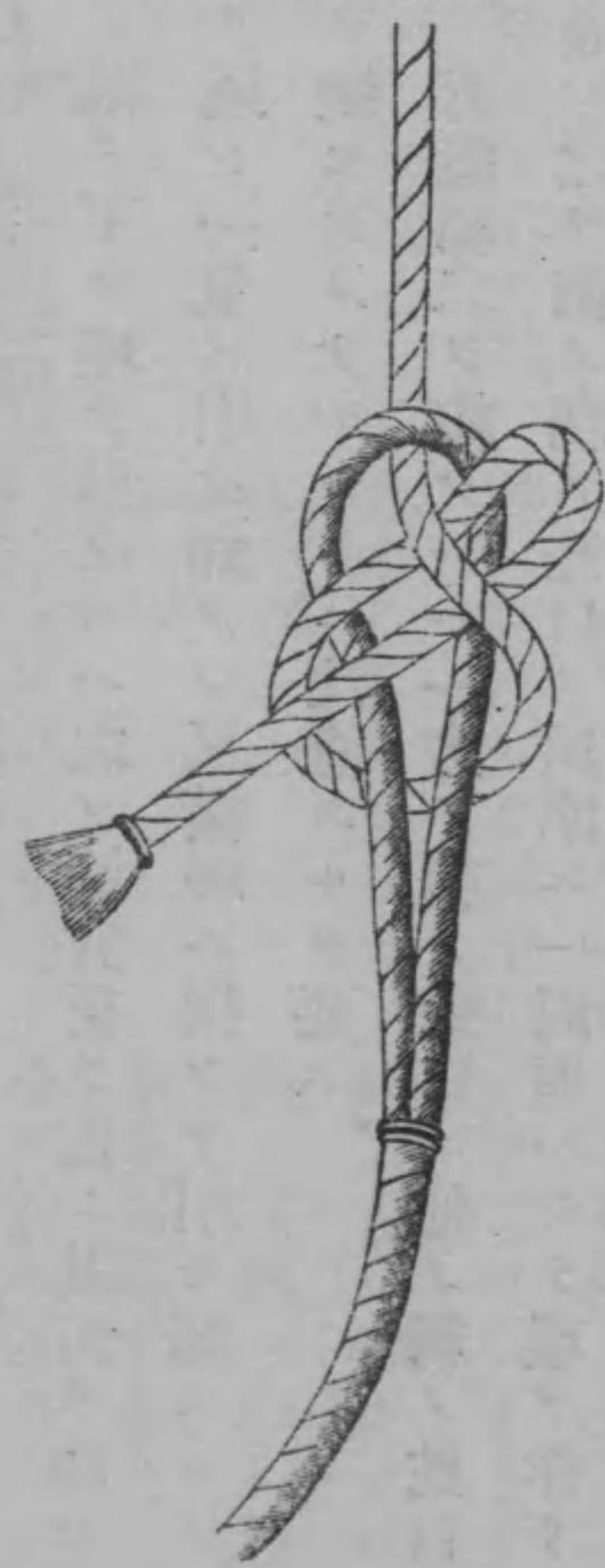
リ後ニ掛ケタル繩ノ右ヨリ其下ヲ潜ラシ後方ニ向ヒ引キ締ム逐  
 次此ノ如クシテ兵器物品ヲ一周シ前方上角ノ稍、後ニテ角結ト  
 爲ス之ヲ結掛ト謂フ(第二圖)

縦繩ヲ他ノ繩ノ下ヲ經テ導クニハ之ヲ適宜折り返シ其折リ曲ケ  
 タル所ヨリ通シ一氣ニ引ク如クシ又横繩ニ掛ケテ引キ締ムルニ  
 ハ其位置ヲ變セシメサルコトニ注意スルヲ要ス

第三十五 荷造綱ニヲ繼クニハ一方ノ綱ノ蛇口ニ他ノ綱ノ蛇口  
 ナキ端ヲ通シ之ヲ前ノ綱ノ蛇口ノ周圍ニ一周廻ハシテ環ヲ作り  
 之ト蛇口トノ間ニ端ヲ折り返シテ通シ引解ト爲シ然ル後引キ締  
 ムルモノトス(第三圖)

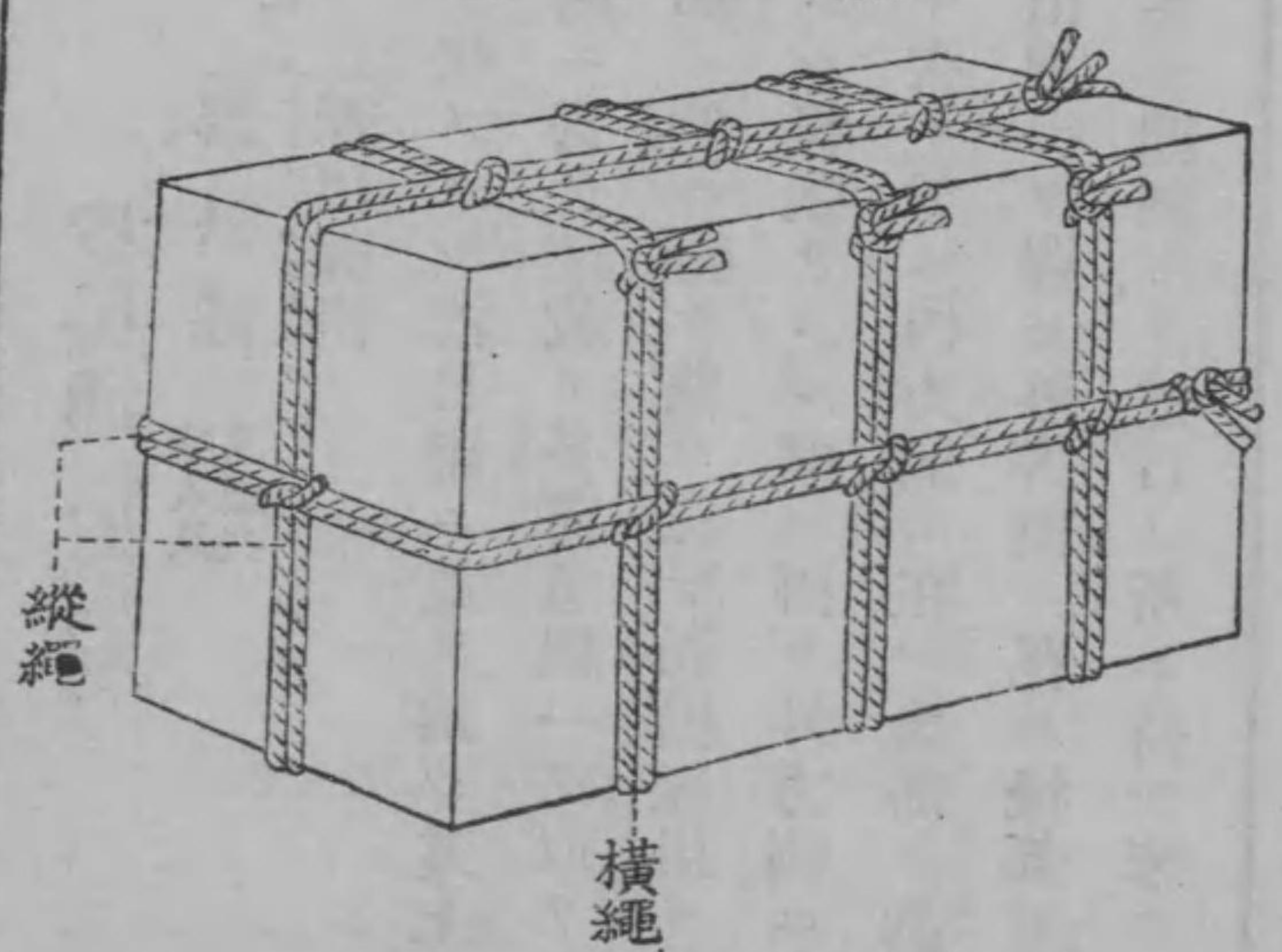


第三圖  
荷造網ノ方繼



繩ノ繼キ足シヲ要スルトキハ其部ノ燃<sup>ヨ</sup>リヲ二握程戻シ藁ヲ補足シテ更ニ燃ルモノトス

第四圖  
箱ノ捆包



各種兵器物  
品ノ捆包

箱

第三十六 箱ヲ  
捆包スルニハ通  
常横繩ヲ三箇所  
ニ、縦繩ヲ二箇  
所ニ掛ク(第四  
圖)



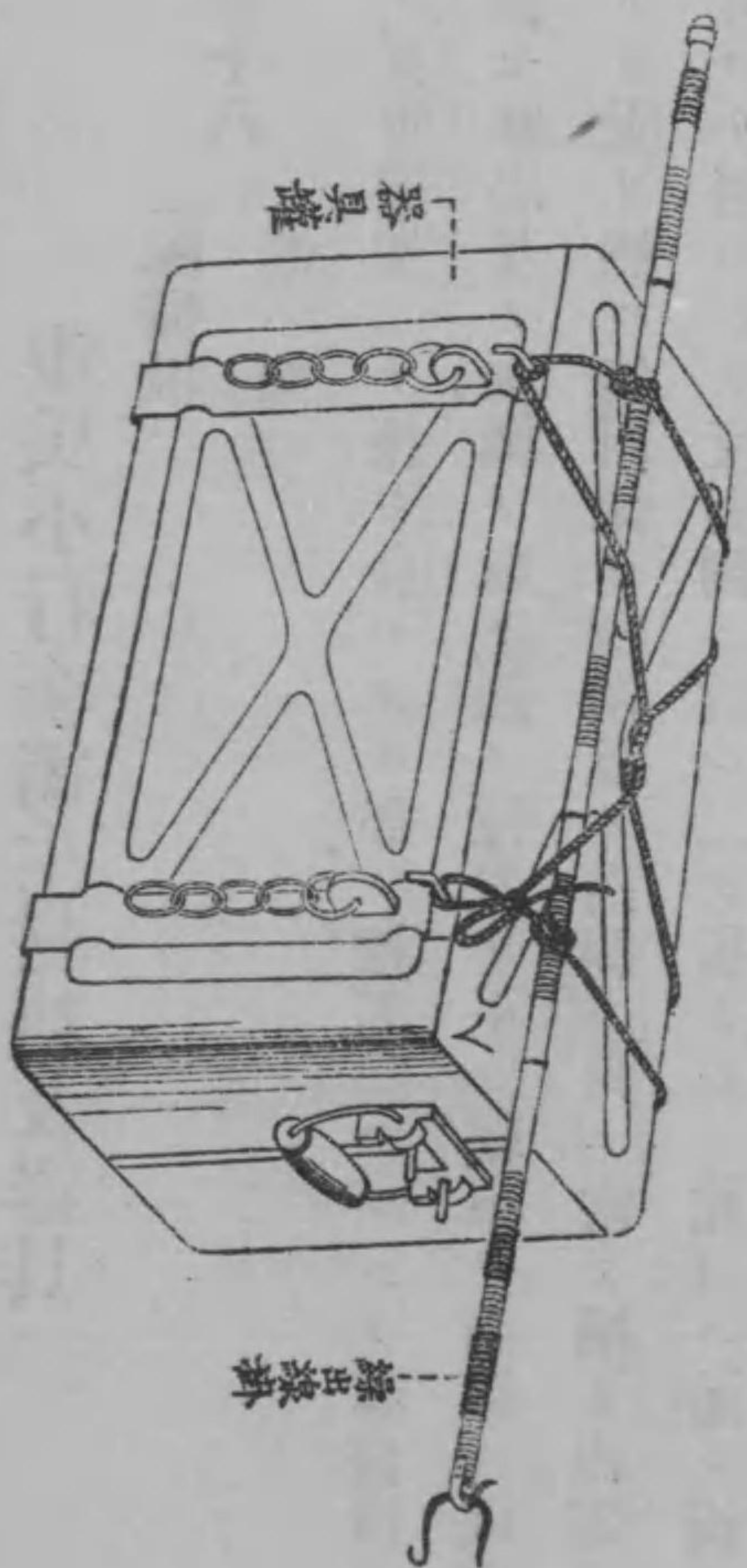
### 步兵通信器材

第三十七  
 器具罐 收入品 及蓋共  
 線出線掛

收入品ヲ收メタル器具罐ニ蓋ヲ爲シ其上ニ線出線掛ヲ鑄<sup>イシツキ</sup>ヲ後方ニシ内側ニ寄セテ載セ長荷造網<sup>チャウ</sup>一ヲ取り其蛇口ヲ罐ノ内方側ニ在ル前部ノ鉤<sup>カキ</sup>ニ掛ケ網ヲ以テ線出線掛ヲ二回纏ヒ内方側ニ向ヒテ締メタル後張りタル網ニ掛ケ外方側ニ在ル前部ノ鉤ニ導キテ一回捲キ次ニ斜ニ内方側ニ在ル後部ノ鉤ニ導キ爾後前ト同要領ニテ線出線掛ヲ纏ヒ外方側ニ在ル後部ノ鉤ニ掛ケ既ニ掛ケタル斜ノ網ニ一回纏ヒテ蛇口ノ所ニ持チ來タシ荷造網ニ掛ケテ引解

ニ結フ(第五圖)

第五圖 包捆ノ掛線出線及罐具器





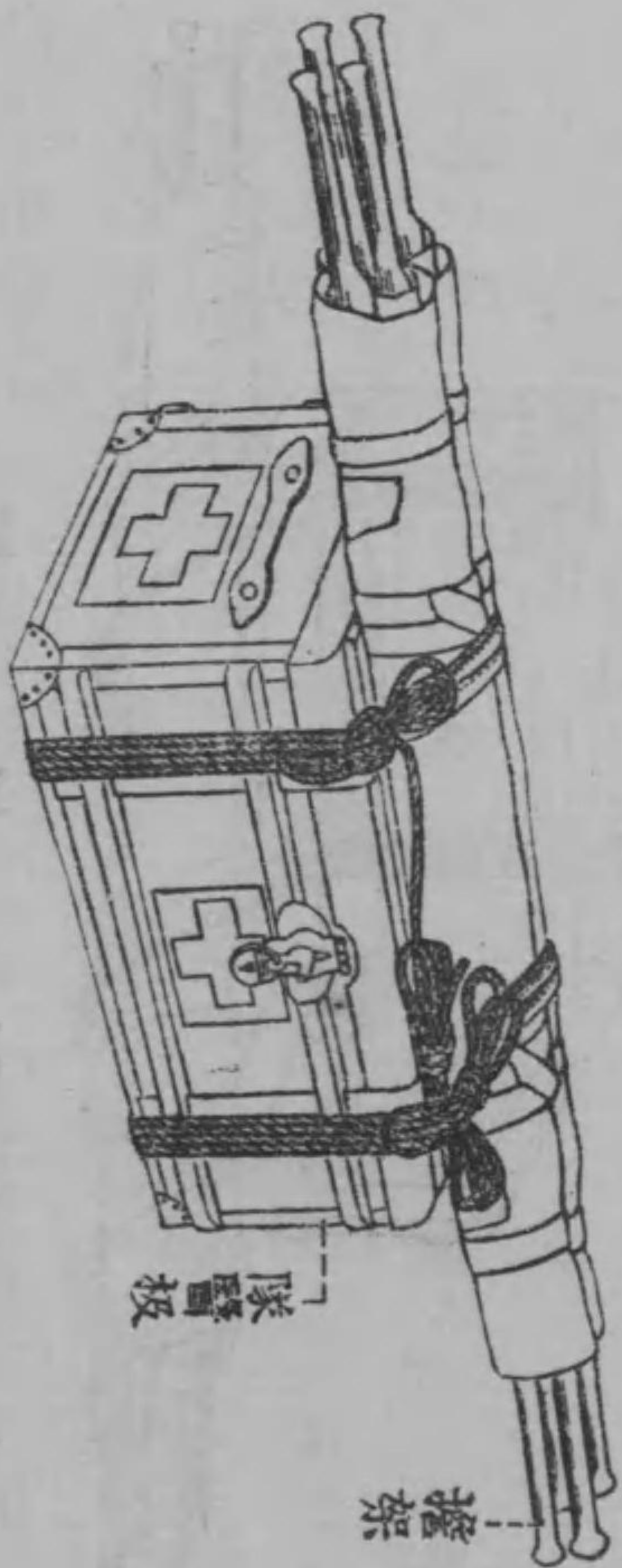
### 步兵小行李衛生材料及器具

#### 第三十八 隊醫板 擔架

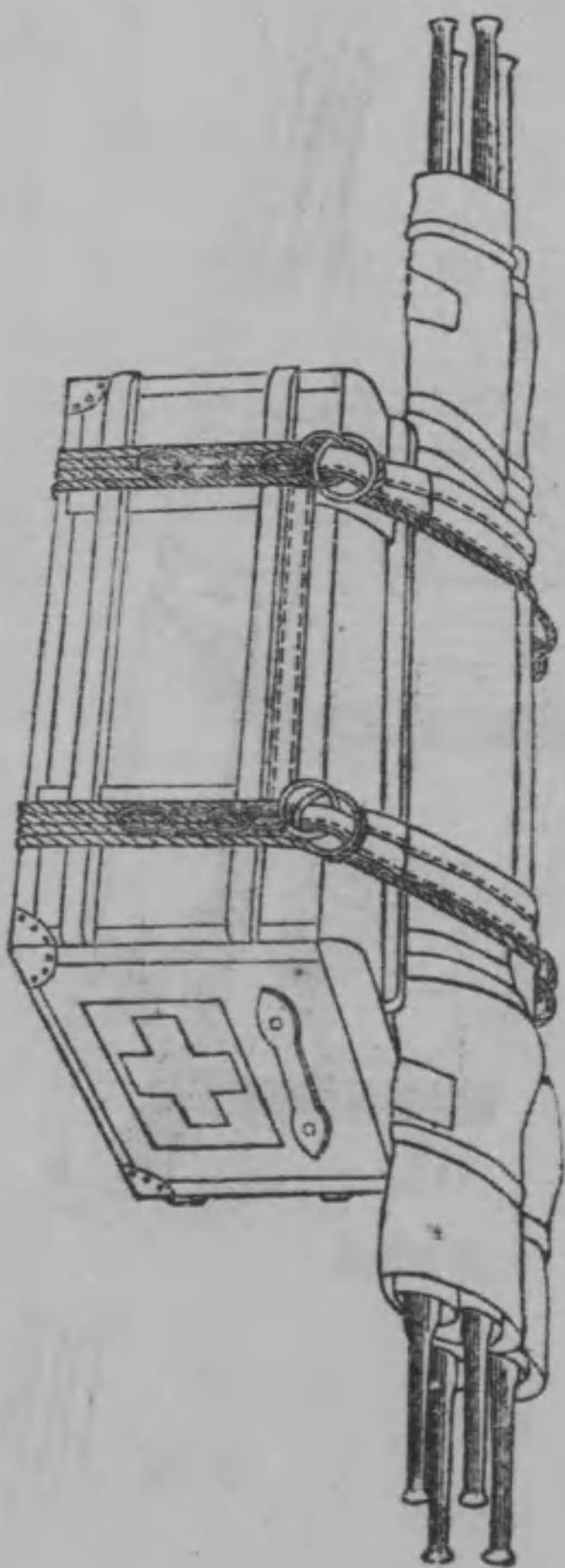
一 二

收メタル擔架ニテ捲キ合セタル部ヲ相對向セシメテ隊醫板ノ上ニ載セ駄馬具ノ縮網ヲ取り鑲ノ位置ヲ正シ繫革ヲ兩鑲ニ近接セシメテ張リ然ル後兩鑲ヲ隊醫板ノ內側上角ニ當テ網ヲ內側ヲ經下方ヨリ廻ハシテ反對側ニ致シ二ツ折トシテ蛇口ニ通シ折り返シテ鑲ノ所ニ持チ來タシ其上ヨリ掛ケテ縮網ノ端ヲ引キ縮メ更ニ一周纏ヒタル後蛇口ノ所ニ致シ折り返シタル網ニ掛ケテ引解ニ結フ(第六圖)

第六圖 隊醫板及擔架ノ捆包 外側圖







擔架ヲ收ムルニハ横鐵ノ關節ヲ有セサル轆ノ柄ニ嵌メタル前後  
ノ負紐ノ端ヲ脱シ各横鐵ノ螺子ヲ戻シテ横鐵ヲ轆ヨリ脱シ横鐵  
ヲ床ノ上ニ廻ハシ先ツ負紐ヲ床ノ上ニ縦ニ展ヘ其上ニ横鐵ヲ置

キ横鐵ノ關節ヲ有スル轆ノ方ヨリ負紐及横鐵ト共ニ床ヲ損セザ  
ル如ク捲キ帶紐ヲ纏ヒテ美錠ニテ止ム

器具罐  
下敷  
共

第三十九

鶴嘴

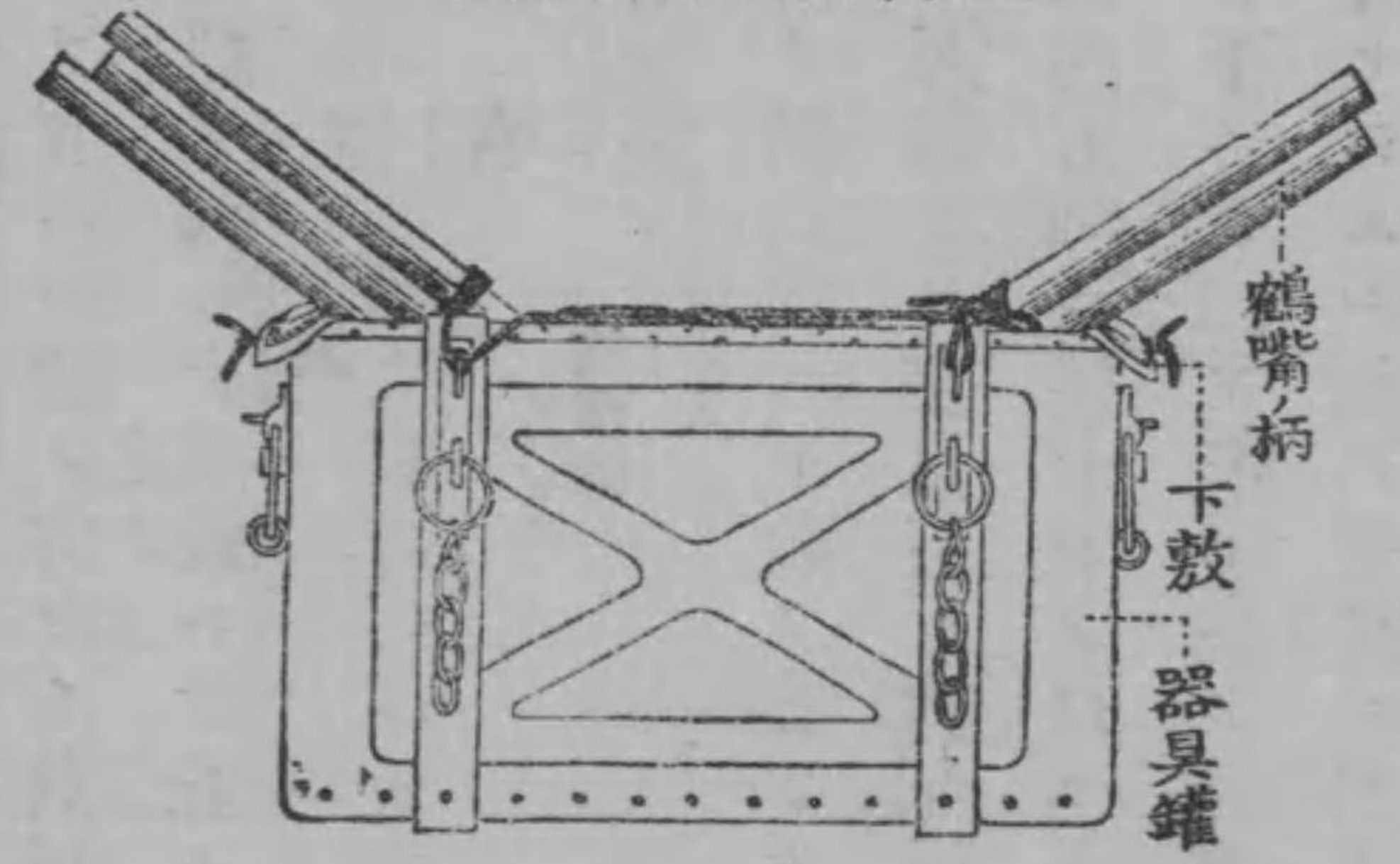
七號袋  
一號鐵條  
鉄六入

一 五 一

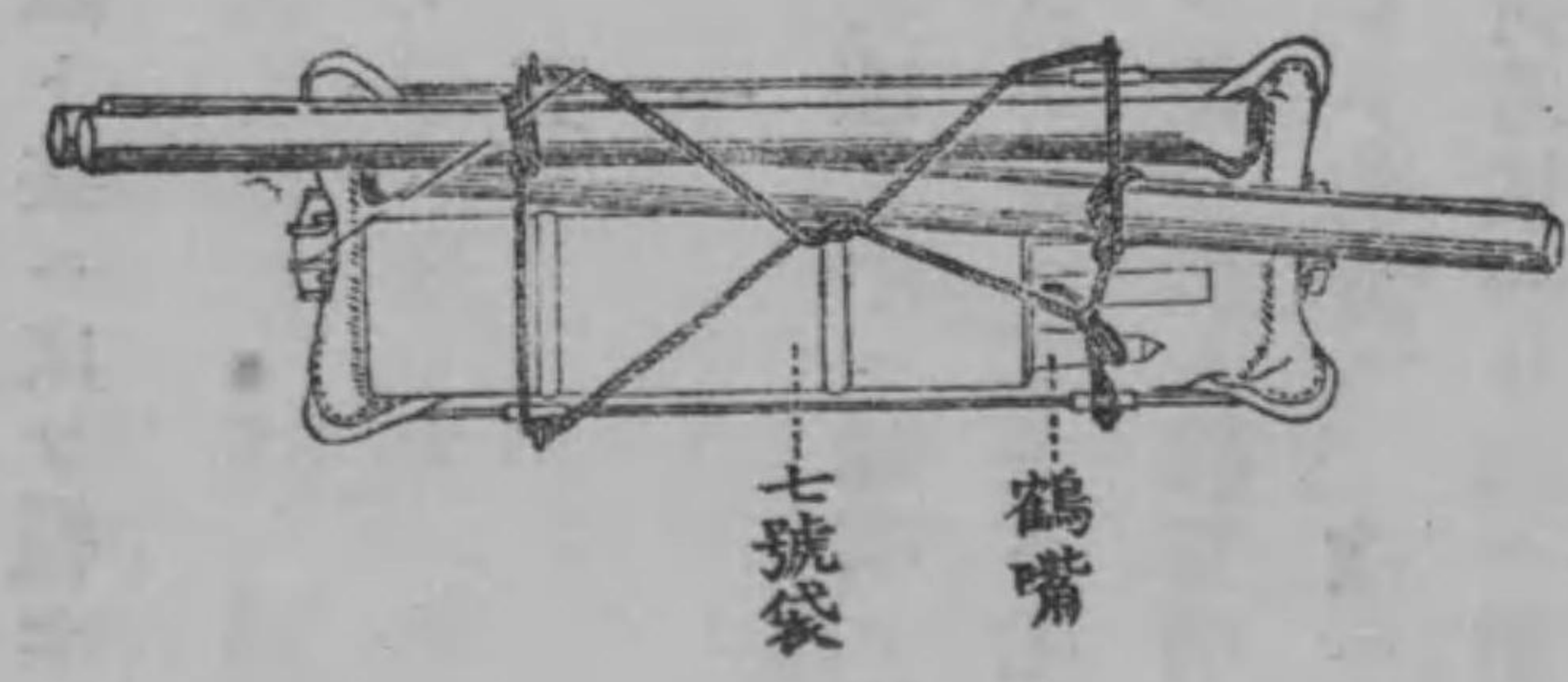
先ツ鶴嘴ノ柄ヲ脱シ次ニ下敷ヲ装シタル器具罐ノ中ニ鶴嘴ノ鐵  
部五ヲ尖部ト及部トヲ交互ニシ其側面ヲ接シテ竝ヘ其上ニ七號  
袋ヲ罐ノ後部内方側ニ接セシメ口ヲ上ニシテ置キ然ル後鶴嘴ノ  
柄ヲ其頭部ヲ下ニシニ七號袋ノ外側ニ接シテ前方ニ、次ニ三  
ヲ後方ニ位置セシムル如ク交叉シテ入レ長荷造綱一ヲ以テ第三



第七圖  
包捆ノ袋號七及嘴鶴  
圖面側側內荷左



圖面平荷左



十七ノ網徑ニ依リ前後ノ柄ヲ内方側ニ引キ付クル如ク纏ヒ結フ  
(第七圖)

工兵小行李器材

第四十  
器具罐  
圓匙  
鶴嘴

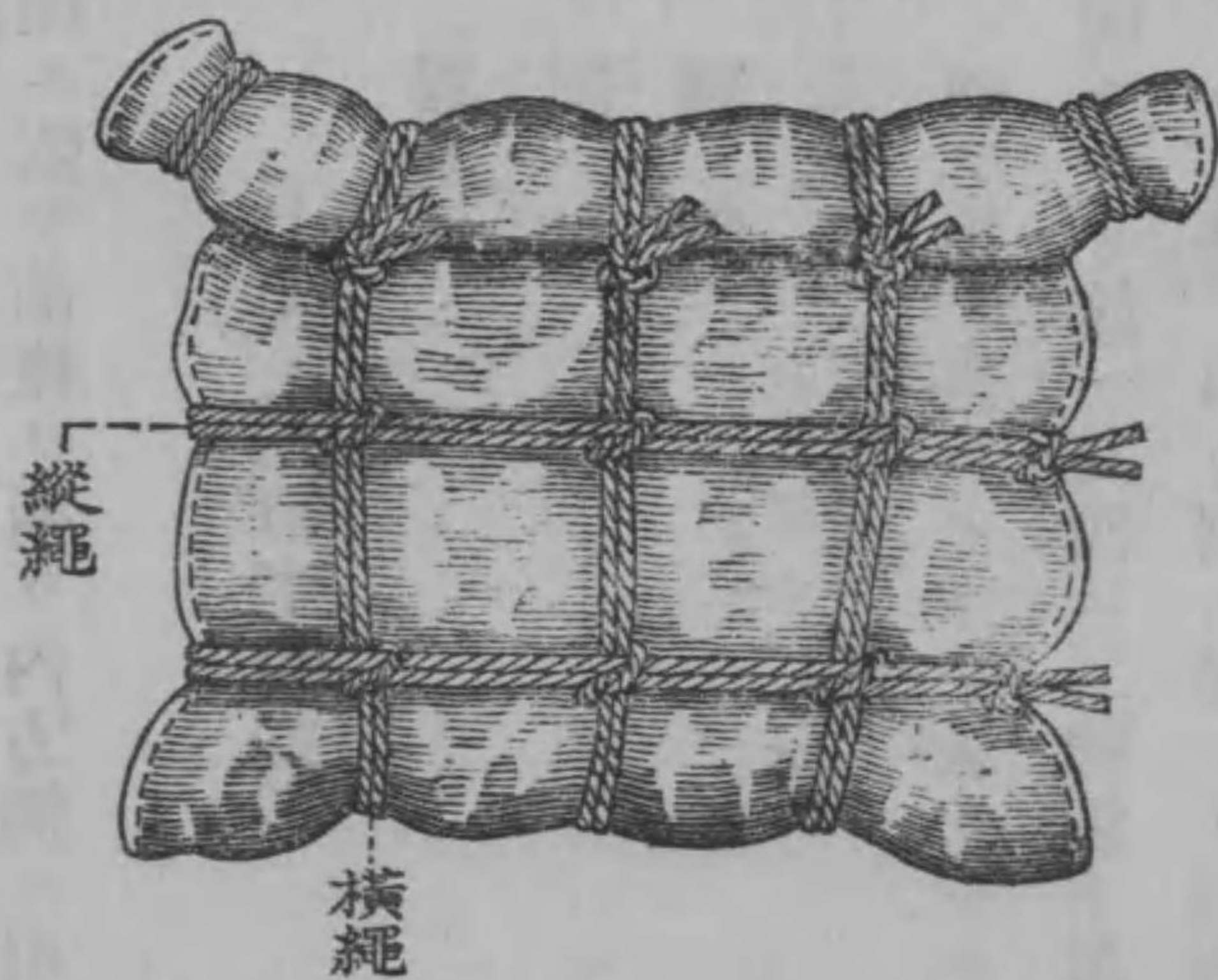
下敷 共  
六寸 送六、六寸  
手違 送四入

一 三 六 一

先ツ鶴嘴ノ柄ヲ脱シ次ニ下敷ヲ装シタル器具罐ノ中ニ鶴嘴ノ鐵  
部三ヲ横向ニシテ竝ヘ其側ニ二號袋ヲ置キ然ル後鶴嘴ノ柄三ヲ  
其頭部ヲ下ニシ罐ノ内方側ニ接シテ前方ニ、次ニ圓匙六ヲ其鐵



第八圖  
吹ノ捆包



部ヲ下ニシ後方ニ位置  
セシムル如ク交叉シテ  
入レ長荷造綱一ヲ以テ  
前條ニ準シ捆包ス

大行李物品

第四十一 吹ノ捆包ス  
ルニハ先ツ收入品ノ安  
定ヲ求メ口ヲ堅ク捲キ  
込ミ耳繩ヲ纏ヒ其餘端  
ヲ互ニ結ヒ口ヲ捲キ込

ミタル中ニ收メ概ネ箱ノ捆包ニ準シ形態ヲ整ヘツツ繩ヲ掛ケ結  
フ(第八圖)  
耳繩ヲ纏フニハ吹ノ口ヲ捲キ込ミタル後耳ノ形ヲ整ヘ耳繩ノ端  
ヲ内ニシ根ノ方ノ繩ヲ以テ耳ヲ二、三回堅ク捲キ端ヲ引キ締ム  
ルモノトス

飯包	飯運袋	米揚	鍊鐵平釜	粽格網
二五ツ括ト爲ス	四ツ折ト爲ス	一	ナカガマ共釜	一
二五〇	五	一	一	一

第四十二



飯斗 ハカリ 二  
 飯 メシ 一  
 雨覆 アホヒ 十六折 一  
 雨 アマ ト爲ス

棕栲網ノ上ニ鍊鐵平釜ヲ置キ其中ニ中釜ヲ入レ中釜ニ米揚策其  
 他ノ收入品ヲ前記ノ順序ニ入レ蓋ヲ爲シ棕栲網ヲ覆ヒ網ノ口ヲ  
 締緒ニテ捲リ結フ若網ノ口弛キトキハ締緒ヲ適當ノ網目ニ掛ケ  
 捲ルモノトス

棕栲網

第四十三

- 二ツ組米洗桶 コメアラヒバケ 一
- 三ツ組湯桶 ユケ 一
- 蓋共 一

棕栲網ノ上ニ二ツ組米洗桶ヲ置キ其中ニ三ツ組湯桶ノ蓋三ツ竝

へ次ニ湯桶ヲ倒ニシ最後ノ湯桶ノ底部ヲ概ネ米洗桶ノ口ノ所ニ  
 在ラシムル如ク重ネ前條ニ準シ棕栲網ヲ覆ヒ結フ

第四十四 棕栲網 鐵竈

- 鐵竈 一

棕栲網ノ上ニ鐵竈ヲ重ネ揃へテ置キ連接裝置ヲ保護スル如ク正  
 シク棕栲網ヲ覆ヒ結フ

- 雜器袋 ザツキ 一
- 箒 カガリ 一
- 鐵網杓子 カネアミジャクシ 一
- 大杓子 オホジャクシ 一



第四十五

- 大柄杓 オホビシヤク 一
- 薪割 マキワリ 一
- 鎌 カマ 一
- 庖丁包 ハウチヤウツツミ 一
- 提灯 チヤウチン 一
- 粽栂 シユロ 二

庖丁三、クワンキリ 鐘切  
二、小杓子四入

袋共

雜器袋ニ箒臺其他ノ收入品ヲ入レ鐵網杓子、大杓子及大柄杓ハ其柄ヲ袋ノ口ノ方ニ在ラシメ締緒ヲ以テ結フ

衛生隊小行李物品

〔天幕體〕

一

第四十六

方錐形天幕

柱

〔囊〕 甲、乙二

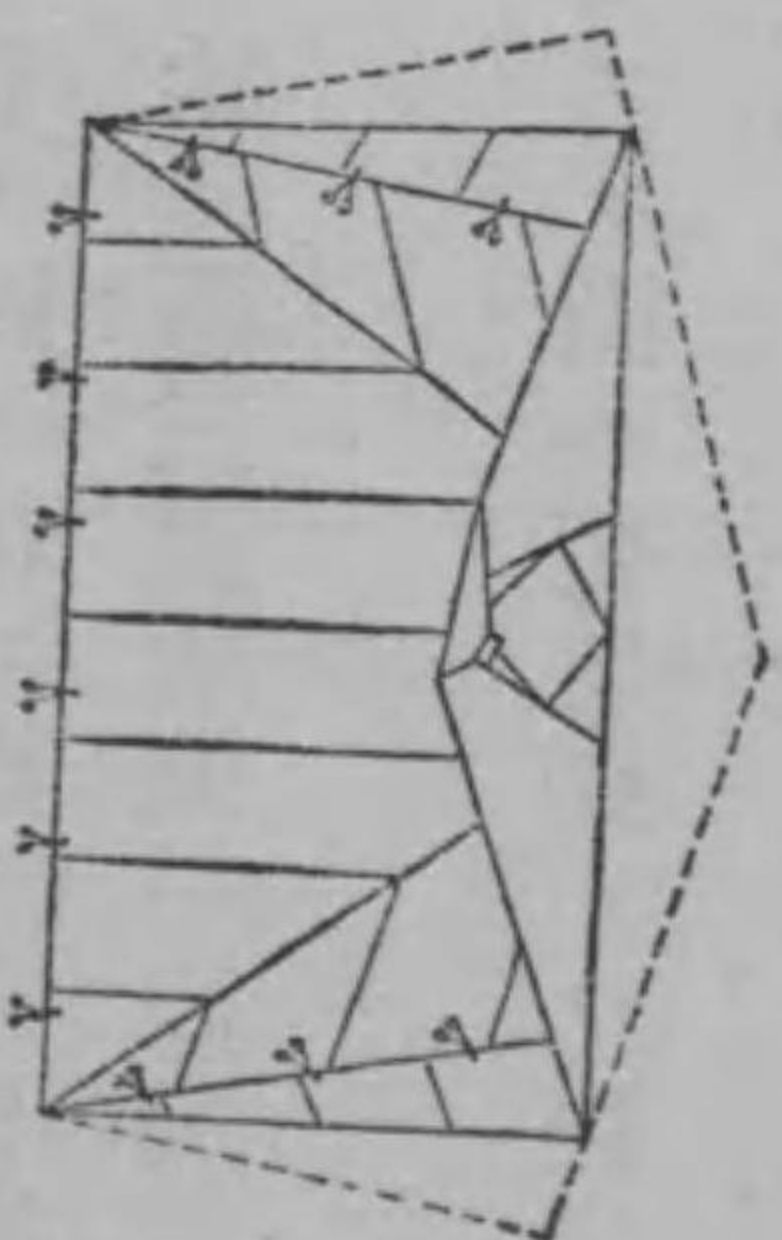
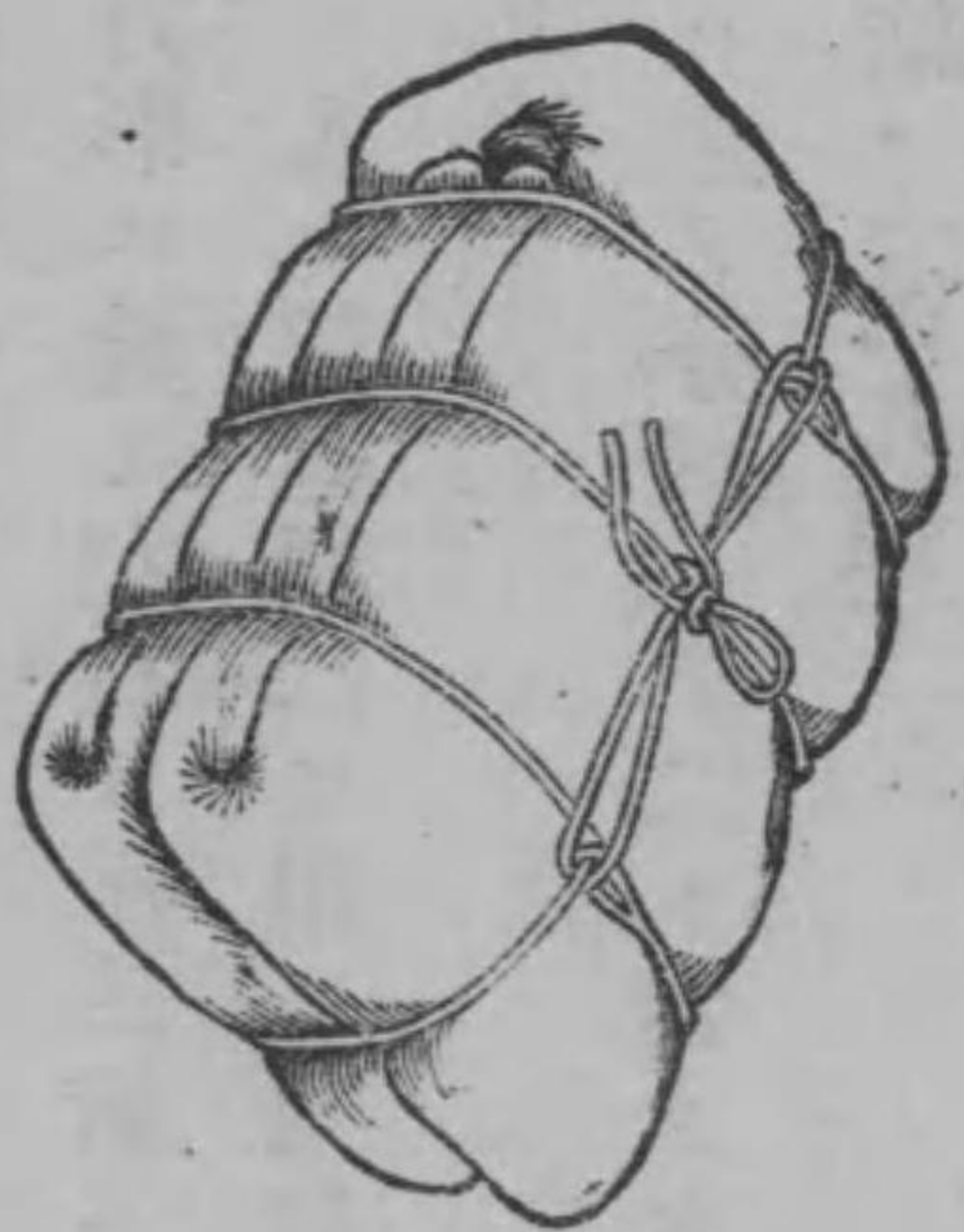
甲ハ大杭四、オホグヒ 中杭二、チウグヒ 支臺一入  
乙ハ小杭二、コグヒ 四、ツチ 鐘、ケイシツナ 經始綱各一入

天幕體ハ出入口ヲ有セサル兩面ヲ正シク合セ底邊ヲ一邊トスル長方形ニ疊ミ左右ヲ十二折ニ、上下ヲ四ツ折ニ疊ミ其内部ニ囊二ヲ入レ荷造綱ニ用ヒ兩端ヨリ始メ横三箇所縦一箇所ヲ纏フ如ク結フ

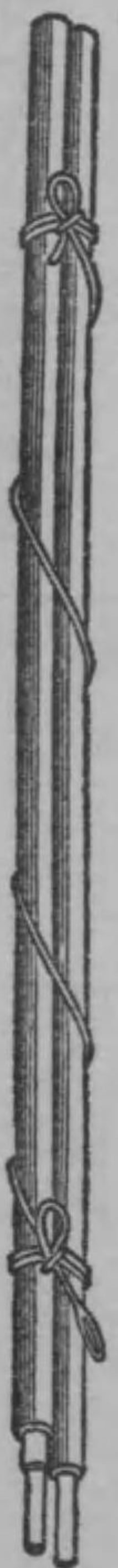
柱ハ之ヲ分解シテ二ト爲シタルモノヲ揃ヘ荷造綱一ヲ以テ兩端ヲ結フ(第九圖)



圖九第 方折ノ體幕天 包捆ノ體幕天



包捆ノ柱



電信隊器材

第四十七 電柱

一三

兩端ヲ揃へ圓形ニ整へ柱帽チウバウヲ裝シ其兩締綱ヲ一直線ニ張り電柱ノ中央部ニテ交叉シ尙一回捻リテ十字ニ取り電柱ヲ數周纏ヒ十字ニ取りタル部ニ就キ結フ(第十七圖參照)

第四十八 繼柱ケイ

八

前條ニ準シテ捆包ス

第四十九 折梯子フリハンゴ

二

疊ミタル折梯子ニヲ互ニ反對ノ方向ニ重ネ短荷造綱タン四ヲ用ヒ兩端各、二箇所ニ就キ結フ(第十九圖參照)



架橋縦列器材

第五十 橋礎杭

一一

各杭ヲ頭部ト鑄部トヲ交互ニシ鑲ヲ下ニシテ竝ヘ長荷造綱ニヲ用ヒ鑲ニ通シ杭ヲ纏メテ兩端ヲ束ネ結フ

第五十一 負桁材

三

負桁材ニヲ標栓ヲ外方ニ向ケテ竝ヘ兩材ノ中央ニ殘餘ノ一ヲ標栓ヲ上ニ向ケテ置キ長荷造綱ニヲ以テ兩端ヲ結フ (第二十五圖參照)

第五十二 艦

三

艦腕ト艦幹トニ分解シ セツガフヒンラゼンアヒンライウセン 接合牝螺及前部牝螺遊栓ヲ脱シ艦腕ヲ艦幹ヨリ分離シタル後接合牝螺及前部牝螺遊栓ヲ接合螺桿ニ裝著ス

先ツ艦幹ニヲ重ネ長荷造綱ニヲ以テ兩端ヲ結ヒ其上ニ艦腕ニヲ艦幹ノ保存ヲ害セサルヲ度トシ重心ヲ艦幹ノ中央ニ近ツカシムル如ク載セ長荷造綱ニヲ以テ艦幹ト共ニ二箇所ニ就キ結フ (第二十五圖參照)

艦幹ニヲ重ヌルニハ其二ヲ接合螺桿ヲ上ニ向ケ密接シテ竝ヘ其中央ニ殘餘ノ一ヲ接合螺桿ヲ下ニ向ケテ置キ後部ハ成ルヘク之ヲ重疊スル如ク爲スモノトス

第五十三 桁

三若ハ四

桁ニヲ梱包スルニハ其二ヲ密接シテ竝ヘ殘餘ノ一ヲ其中央ニ置キ長荷造綱ニヲ以テ兩端ヲ結フ



桁四ヲ捆包スルニハ其二ヲ密接シテ竝ヘ他ノ二ヲ同要領ニ依リ  
其上ニ置キ前項ニ準シテ結フ

第五十四 板

七

平ニ重ネ長荷造綱二ヲ以テ兩端ヲ結フ(第二十八圖參照)

第二章 馱載

要則

第五十五 馱載作業ノ要ハ馬背ニ對スル積載品ノ平衡ト安定ト  
ヲ良好ナラシムルニ在リ之カ爲馬背ノ兩側ニ成ルヘク同種同量  
ノモノヲ積ミ其長側ノ中央部ヲ馱鞍ダアンノ中央部ニ一致セシムル如

ク重心中央部ニ在ラサルモノハ鞍トノ接著ノ關係ヲ顧慮シ成ルヘク重心部ヲ馱鞍ノ中央部ニ一致セシム前後ノ位置ヲ定メ又

鞍トノ接著ヲ害セサル限リ低ク積ミ以テ左右ノ平衡ト安定トヲ  
得シメ且其前部ヲ少シク高クシ行進時ノ動搖ヲ防クヘシ

長キ兵器物品ニ在リテハ積載後馱鞍トノ接著ヲ害セサルヲ度ト  
シ荷造綱ヲ以テ其前端ヲ結ヒ合スモノトス

第五十六 數箇ノ兵器物品ヲ一馬ニ積載スルヲ要スルトキハ豫  
メ之ヲ右荷ミギニ及左荷ヒダリニト爲ス如ク捆包シテ積ミ中荷ナカニハ成ルヘク之ヲ  
避クルヲ要ス

中荷ヲ積ムヲ要スルトキハ通常附載品ヲ除キ中荷ヲ正シク馱鞍  
ノ上ニ載セ成ルヘク其高サヲ低クスヘシ而シテ除キタル附載品



ハ中荷積載後適宜ノ箇所ニ之ヲ附載スルモノトス

第五十七 兩側ノ積載品ニ重量ノ差異アルトキハ重キ方ハ輕キ方ヨリ稍、其位置ヲ高クシ或ハ輕キ方ニ附載品等ヲ載セ平衡ヲ得シムル如ク積ムヘシ

第五十八 兵器物品ヲ積載スルニハ鎖アルモノハ之ヲ馱鞍ノ懸鏈鉤ニ掛ケ鎖ナキモノハ先ツ縮綱ヲ以テ梱包シ其鏈ヲ用ヒテ積載スルモノトス場合ニ依リ直ニ縮綱ヲ以テ積載スルコトアリ

第五十九 馱馬ノ積載量ハ附載品蹄鐵、豫備控綱、馬糧、麥除キ二十五貫匁ヲ以テ基準トス  
袋、馬匹手入具、雨覆、水

第六十 積載卸下ハ通常四人一組ニテ之ヲ行フモノトス

第六十一 積載卸下ノ間ニ於ケル兵卒ノ步度ハ駈歩トシ要スレハ速歩ヲ用フルコトアリ

第六十二 卸下ハ概ネ積載ト反對ノ順序ニ行フモノトス

### 馱載一般ノ方法

第六十三 積載前豫メ第二十四ニ準シテ積載スヘキ兵器物品ヲ整置シ馱馬ヲ其後方ニ之ニ面シテ位置セシムルモノトス

第六十四 四人一組ニテ積載ヲ行フニハ兵卒ヲ馱馬ノ右側ニ位置セシメタル後「積ム用意」ノ號令ヲ下ス此號令ニテ兵卒ハ兵器物品ノ後方ニ歩ノ所ニ到リ之ニ面シテ二列ニ集ル

次ニ番號ヲ附シ「積メ」ノ號令ヲ下ス此號令ニテ兵卒ハ作業ヲ始



又作業終レハ「積ム用意」ノ位置ニ復ス

次ニ「解<sup>ワカ</sup>レ」ノ號令ヲ下ス此號令ニテ兵卒ハ駄馬ノ右側ニ復ス

卸下ヲ行フニハ「卸<sup>オロ</sup>ス用意」卸セ」ノ號令ヲ下スモノトス

作業間一番ハ右荷、二番ハ左荷ヲ擔當ス而シテ兵器物品ヲ運フトキハ前列ノ者ハ前端ニ、後列ノ者ハ後端ニ就クモノトス

**第六十五** 駄馬ヲ保持スル兵卒ハ「積ム用意」又ハ「卸ス用意」ノ號令ニテ馬ノ前ニ出テテ之ヲ保持シ「解レ」ノ號令ニテ定位ニ復スルモノトス但積載ニ在リテハ定位ニ復スルニ先チ馬裝及積載ヲ檢シ要スレハ之ヲ修正スルモノトス

**第六十六** 積載卸下ノ爲小銃彈藥箱及器具罐ヲ運フニハ二人ノ

兵卒其兩短側ニ分レ各、片手ニ提把<sup>テイハ</sup>ヲ持チ勉メテ歩ノ調子ヲ揃ヘ併進ス又隊醫<sup>共</sup> 擔架<sup>共</sup> ヲ運フニハ二人ノ兵卒前後ニ分レ積載ノ關係ヲ顧慮シテ擔架ヲ同一方側ノ肩ニ擔ヒ歩ノ調子ヲ揃ヘ重疊シテ行進スルモノトス

**第六十七** 兵器物品ヲ駄鞍ニ著クルニハ鎖アル方ヲ之ニ對セシメ其方側ノ手ニテ鎖ヲ、他ノ手ニテ兵器物品ノ底部ヲ持チ激突セシメサルト正シク積載ノ位置ヲ保タシムルトニ注意シ左右兩側ノ兵卒互ニ連繫ヲ保チ同時ニ行フモノトス

**第六十八** 兵器物品ノ鎖ヲ駄鞍ノ懸鏈鈎ニ掛クルニハ鎖ノ捻レサルコトニ注意シ前後ノ兵卒協力シテ先ツ前方ノモノヲ掛ケ次



ニ後方ノモノニ及ホスモノトス  
縛箱革條ヲ縮ムルニハ積載品ノ位置ヲ正シ最モ短キ線ヲ經テ之ヲ導クモノトス

第六十九 附載品ハ裝鞍前豫メ之ヲ馱鞍ニ附載ス其法通常蹄鐵囊、豫備控綱、馬糧囊、麥袋馬匹手入具ヲ收ム雨覆ノ順序ヲ以テ鞍ノ上ニ重ネ縛囊革條ニ用ヒテ之ヲ縛定シ其上ニ水囊ヲ伏セ紐ニ殘餘ノ縛囊革條ヲ通シテ縛定ス 三三式輻重馱馬具ニ在リ

第七十 雨覆ヲ用フルトキハ雨水ヲ布面ニ溜ラシメサル如ク緊張シ且風ノ爲ニ翻ラサル如ク確實ニ之ヲ纏フヲ要ス

各種兵器物品ノ馱載

步兵通信器材

第七十一 器具 罐 收入品 及蓋共  
線出線掛

二三  
二三 (二捆)

鎖ヲ以テ積載ス

步兵小行李衛生材料、彈藥及器具

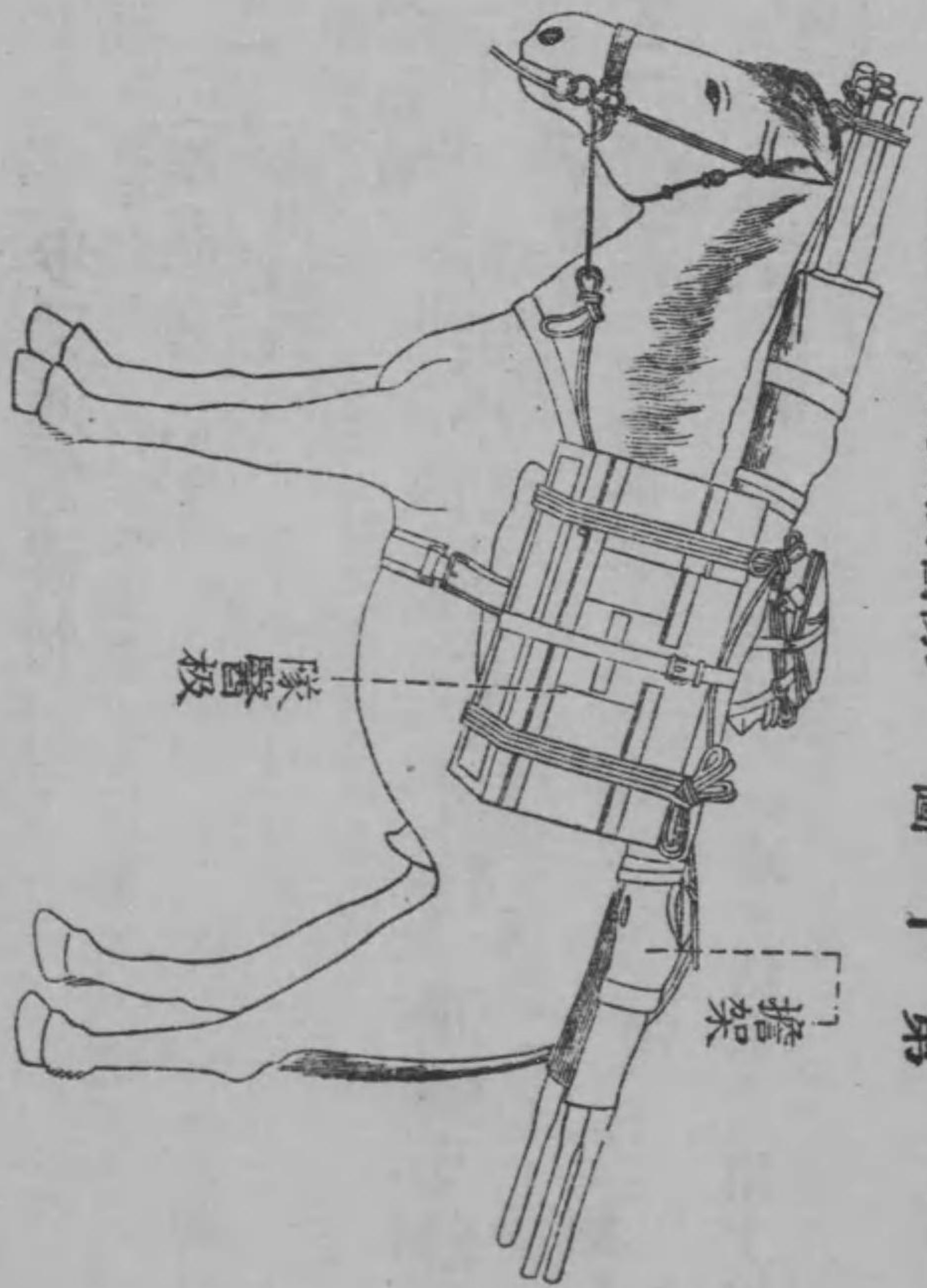
第七十二 隊醫板 擔架

二二  
四 (二捆)

鏈ヲ以テ積載シ荷造綱ヲ以テ擔架ノ前端ヲ結束ス(第十圖)



載駄ノ架擔及級醫隊 圖 十 第



第七十三 小銃彈藥箱

鎖ヲ以テ積載ス

器具罐

共 下敷

二

第七十四

鶴 嘴

七號袋

一號鐵條 六入

一〇 (二捆)

鎖ヲ以テ積載ス

工兵小行李器材

第七十五

器具箱 大槌

二

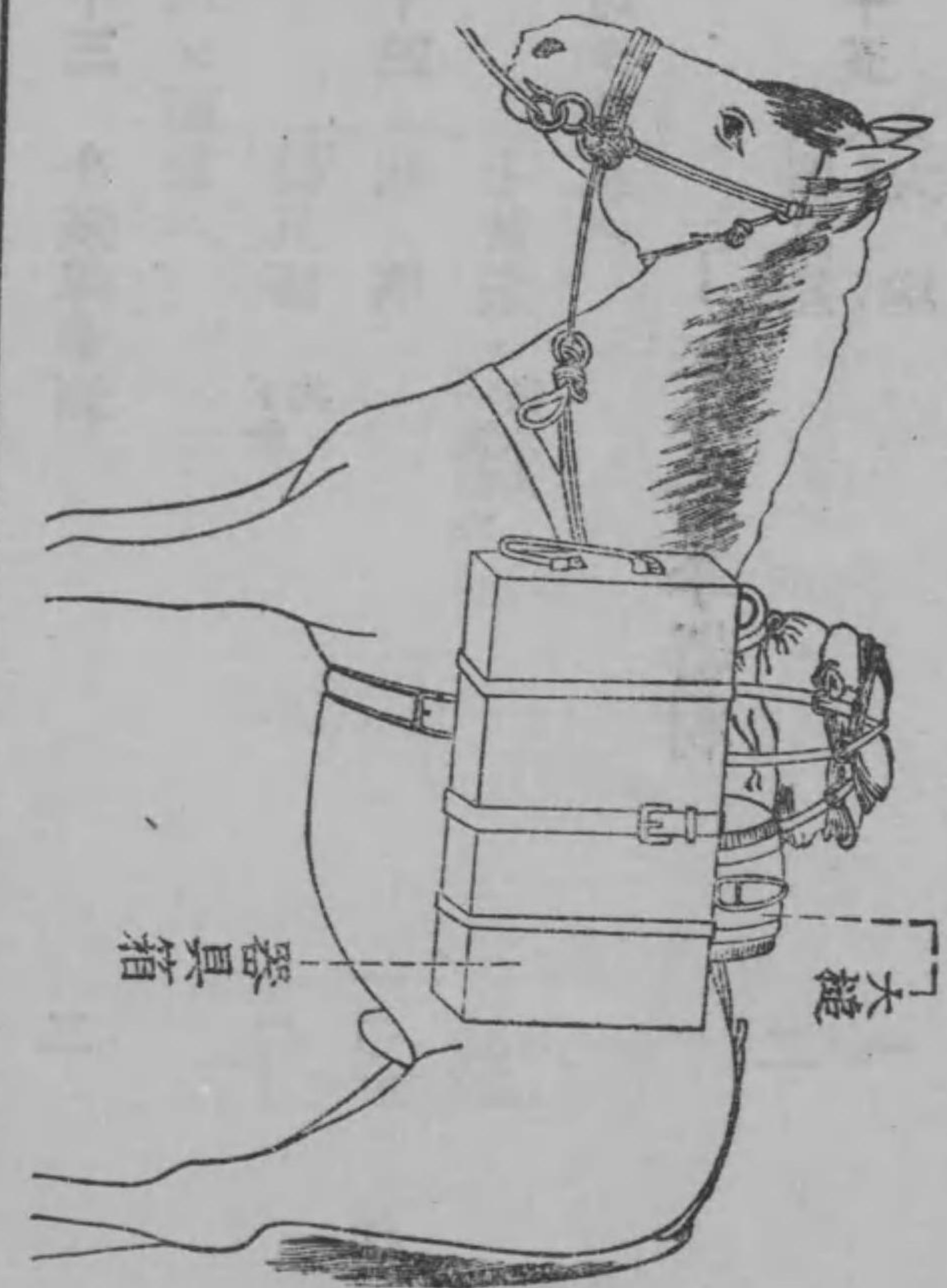
一

先ツ大槌ヲ取り長荷造網一ヲ以テ槌ノ頭部ヲ左側ニシ平ニ後穹

コウキウ



載駄ノ箱大及箱具器 圖一十第



鐵<sup>アツ</sup>ノ内側ニ結著シタル後鎖ヲ以テ器具箱ヲ積載ス(第十一圖)

### 第二章 車載

#### 要則

第七十六 車載作業ノ要ハ車輛ニ對スル積載品ノ安定ヲ良好ニシ其重量ノ配當ヲ適切ナラシムルニ在リ之カ爲車軸<sup>シヤボク</sup>ニ對シ平行若ハ直角ト爲シ成ルヘク低ク之ヲ積ミ積載品相互及積載品ト車<sup>シヤ</sup>臺<sup>ダイ</sup>トノ接著ヲ勉メテ自然ニシ以テ其安定ヲ得シメ又左右兩車輪<sup>シヤリン</sup>ノ受クル重量ヲ均一ニシ且車臺ノ前方ヲ稍、重カラシムルヲ要ス



長キ兵器物品ハ通常其前端ヲ轆木ノ外方ニ出タシ車臺上ニ斜ニ積ムモノトス

第七十七 輜重車ノ積載量ハ附載品踏鐵囊、野繫勒、同豫備糧、馬糧囊、麥袋、馬匹手入具、雨覆、水囊ヲ除キ五十貫匁ヲ以テ基準トス

已ムヲ得ス一時積載量ヲ増加スル場合ト雖平易ナル地形ニ於テ七十五貫匁ヲ超ユヘカラス

第七十八 轆木端ノ重量車臺ヲ水平ニシ轆木ノ扶鉸ノ中央ニテ衡ルハ定量ヲ積載シタル

トキ約四貫匁ヲ以テ標準トス此標準ハ兵卒ヲシテ積載品ノ位置ニ依リ漸次判知シ得ルニ至ラシムルヲ要ス

第七十九 積載ハ通常二人一組ニテ行ヒ先ツ兵器物品ヲ運ヒテ

車臺上ニ整置シ然ル後荷綱ニツナヲ掛クルモノトス但架橋縦列器材中鐵舟ハ通常六人、冠材クラマツヤイ、板及大籐籠等ダイトウカゴハ各、二人以上ニテ運フモノトス

第八十 積載卸下ノ間ニ於ケル兵卒ノ歩度ハ第六十一ニ依ルモノトス

第八十一 卸下ハ概ネ積載ト反對ノ順序ニ行フモノトス

第八十二 教育ノ初期又ハ教育上特ニ必要アルトキハ繫駕スルコトナク車載ヲ行フコトアリ

### 車載一般ノ方法

第八十三 積載スヘキ兵器物品ノ整置、輓馬及兵卒ノ位置、號



令竝諸動作ハ第六十三乃至第六十五ニ準ス但荷綱及附載品ハ積載前豫メ車臺ノ後端下ニ之ヲ卸スモノトス

第八十四 一人ニテ積載品ヲ運フニハ通常之ヲ肩ニ擔フモノトス

第八十五 二人ニテ積載品ヲ運フニハ第六十六ニ從フ但手ニテ運フ積載品ニシテ提把ナキモノハ兩手ヲ以テ底部ヲ持ツモノトス

第八十六 重キ積載品ヲ肩ニ擔フニハ助手ヲ用フルヲ可トスルコトアリ

第八十七 四人以上ニテ積載品ヲ運フニハ兵卒ハ半數ツツ積載

品ノ兩側ニ分レ概ネ身長ノ順序ニ位置シテ動作スル外第六十六隊醫極ノ運方ニ準シテ行フモノトス

第八十八 四人以上ニテ積載品ヲ運フトキハ各兵卒ノ動作ヲ一致セシムル爲右側後端ノ兵卒ハ肩ニ擔ヒ若ハ卸ストキハ「擔へ」「卸セ」又前進、停止ニハ「前へ」「止レ」ト唱フルモノトス

第八十九 積載品ヲ車臺上ニ置クニハ通常其前部ヨリ後部ニ及ホシ激突又ハ摩擦セサルト正シク積載ノ位置ニ置クコトトニ注意シテ行フモノトス

第九十 積載品ニ荷綱ヲ掛クルニハ最モ短キ綱徑ヲ取り成ルヘク各積載品ニ綱ノ掛カル如クスルヲ要ス

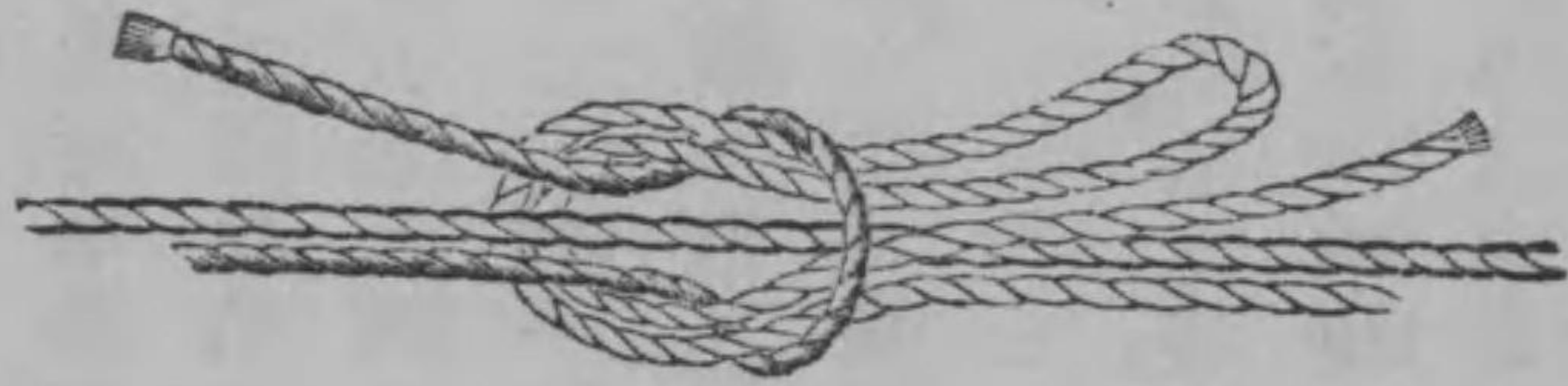


第九十一 積載品ニ荷綱ヲ掛ケ縮ムルニハ概ネ捆包ニ於ケル荷造綱又ハ繩ヲ縮ムル要領ニ從ヒ特ニ兩側ノ兵卒同時ニ縮ムル場合ニ在リテハ氣勢ヲ揃ヘテ行フヲ要ス又縮メタル荷綱ヲ荷綱掛<sup>ニ</sup>鉤<sup>ニ</sup>掛クルニハ其基脚ニ密接セシメ且通常之ヲ順<sup>ニ</sup>導クモノトス

積載品ニ荷綱ヲ掛ケ縮ムルニ方リ要スレハ脚ヲ車輛ニ掛ケ行フコトアリ

第九十二 縮メタル荷綱ヲ結フニハ綱ノ兩端ヲ取リテ相交叉シ一端ヲ折リ返シテ既ニ纏ヒタル綱ノ下ニ通シ之ヲ縮メ次ニ折リ返シタル綱ノ端ヲ交叉點ノ内ニ在ラシメ然ル後折り返シタル綱

第二十圖  
荷綱ノ結方



ヲ他ノ綱ノ端ト結フ(第十二圖)荷綱ノ繼方ハ第三十五荷造綱ノ繼方ニ同シ

第九十三 荷綱ヲ掛クルニハ積載品ノ種類ニ依リ其方法ヲ異ニスト雖概ネ左ノ二法ヲ適用シテ行フモノトス

一 右(左)方ノ兵卒ハ荷綱一條ヲ取リ其蛇口ヲ前ノ右(左)荷綱掛鉤ニ掛ケ積載品ヲ越エテ綱ヲ後方ニ



取リ後ノ右(左)荷綱掛鉤ノ内側ヨリ車臺ノ下ヲ經テ右(左)第四荷綱掛鉤ニ導キ積載品ヲ越エシメ左(右)方ノ兵卒ノ荷綱ト取リ換ハシ再ヒ右(左)第四荷綱掛鉤ニ掛ク次ニ縦ニ取リタル左(右)荷綱ニ掛ケ右(左)第一荷綱掛鉤ニ導キ積載品ヲ越エシメ左(右)方ノ兵卒ノ荷綱ト取リ換ハシ再ヒ右(左)第一荷綱掛鉤ニ掛ケ積載品ノ上ニ於テ結ヒ餘端ハ之ヲ束ネテ掛ケタル綱ニ挿ム(第三圖參照)

積載品ノ種類ニ依リ後ノ右(左)荷綱掛鉤ノ内側ヨリ車臺ノ下ヲ經テ右(左)第五荷綱掛鉤ニ導キ積載品ヲ越エテ左右ノ荷綱ヲ取リ換ハシ右(左)第四荷綱掛鉤ニ掛ケ又縦ニ取リタル左(右)荷綱

ニ掛ケタル後右(左)第二荷綱掛鉤ニ掛ケ左右ノ荷綱ヲ取リ換ハシ右(左)第一荷綱掛鉤ニ掛ケ更ニ積載品ノ前方ニテ取リ換ハシ縦ノ綱ニ就キ結フコトアリ

二 右(左)方ノ兵卒ハ荷綱一條ヲ取リ其蛇口ヲ積載品ト縦木トノ間ヨリ右(左)第一荷綱掛鉤ニ掛ケ綱ヲ外方ニ導キ支材シザイノ下方ヲ經積載品ト轅木トノ間ヨリ出ダシテ積載品ヲ纏ヒ右(左)第一荷綱掛鉤ニ掛ケ外方ヨリ斜ニ積載品ヲ越エテ内方ニ導キ右(左)第三荷綱掛鉤ニ掛ク次ニ内方ヨリ斜ニ積載品ヲ越エテ外方ニ導キ縦木ノ内方ヨリ綱ヲ折リ返シテ右(左)第五荷綱掛鉤ノ所ニ出ダシ同鉤ニ掛ク次ニ積載品ヲ越エテ綱ヲ導キ後ノ右(左)荷綱掛



鈎ニ掛ケテ積載品ヲ一周纏ヒ然ル後左(右)方ノ兵卒ノ荷綱ト取  
 リ換ハシ右(左)第五荷綱掛鈎ニ掛ケ再ヒ荷綱ヲ取り換ハシ積載  
 品ノ上ニテ十字ニ交叉シ既ニ掛ケタル横ノ綱ニ依リ後ノ中央荷  
 綱掛鈎ニ掛ケ締メ結フ(第二十八圖参照)  
 積載品ノ種類ニ依リ右(左)第一荷綱掛鈎ヨリ積載品ヲ越エ斜ニ  
 内方ニ導キタル荷綱ヲ右(左)第二若ハ第三荷綱掛鈎ニ掛ケ車臺  
 ノ中央部ニ在ル積載品ヲ越エテ左右ノ荷綱ヲ取り換ハシ適宜ノ  
 荷綱掛鈎ニ掛ケ再ヒ荷綱ヲ取り換ハシ右(左)第三若ハ第四荷綱  
 掛鈎ニ掛ケタル後積載品ヲ越エ斜ニ外方ニ導キ右(左)第五荷綱  
 掛鈎ニ掛ケタルコトアリ

第九十四 附載品ハ第六十九ニ準シテ重ネ積載品重量ノ配當ト  
 其積載ノ状態トヲ顧慮シ適宜ノ箇所ニ附載スルモノトス  
 第九十五 雨覆ヲ用フルトキハ第七十二ニ從フ

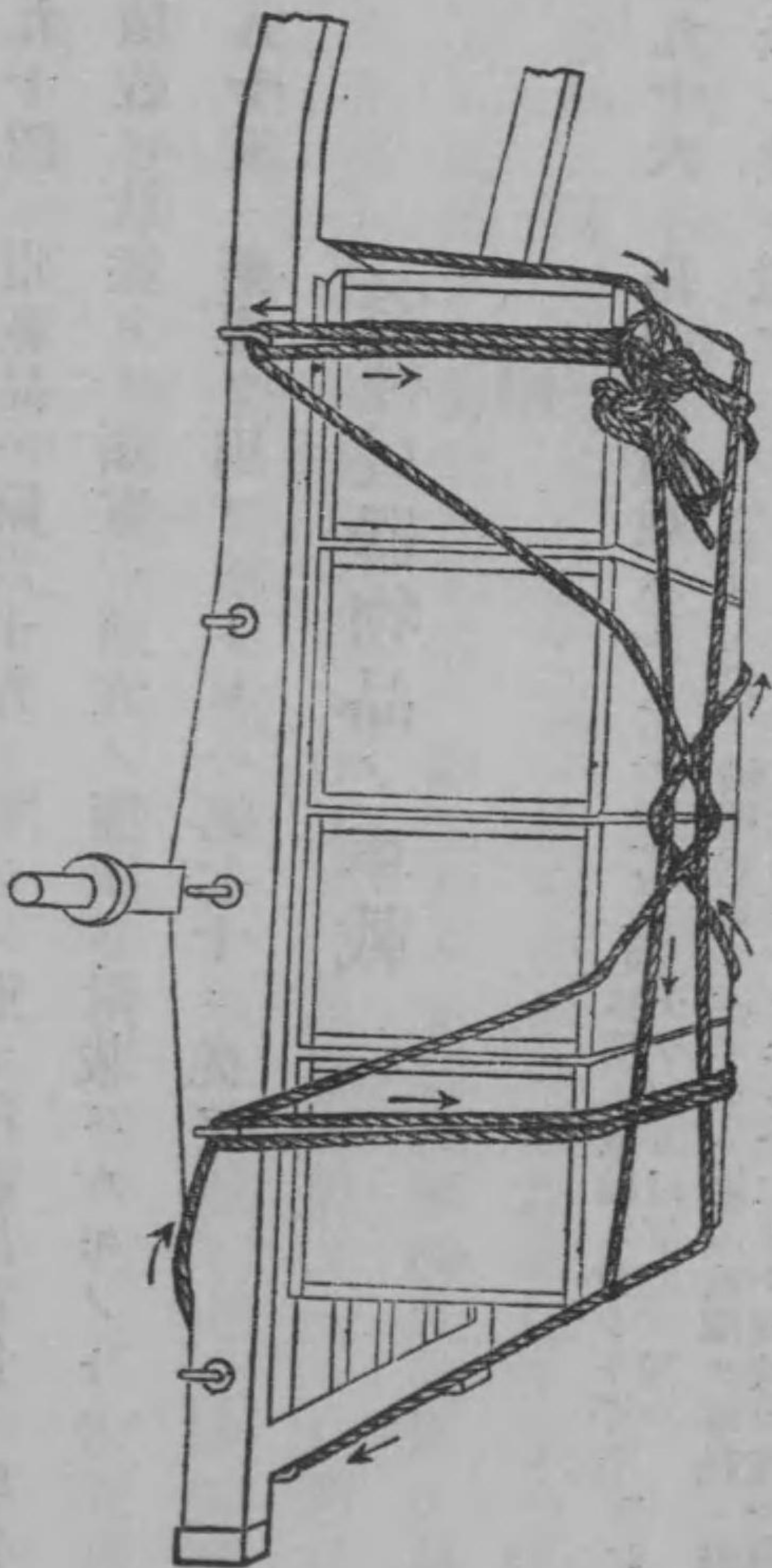
各種兵器物品ノ車載

箱

第九十六 箱四ヲ積載スルニハ之ヲ横長側ヲ車軸ニ對シテ平行ニシテ  
ナラシム以下之ニ同シ  
 前後ニ竝ヘ置ク三六式及三八式ニ輪輻重車ニ在リテハ縦(長側ヲ車軸ニ對シ  
テ直角ナラシム以下之ニ同シ)ニシテ二ツツ前後ニ竝ヘ置ク  
 (第十三圖)



圖三十一 箱載車ノ箱



大行李物品

第九十七 米 呎

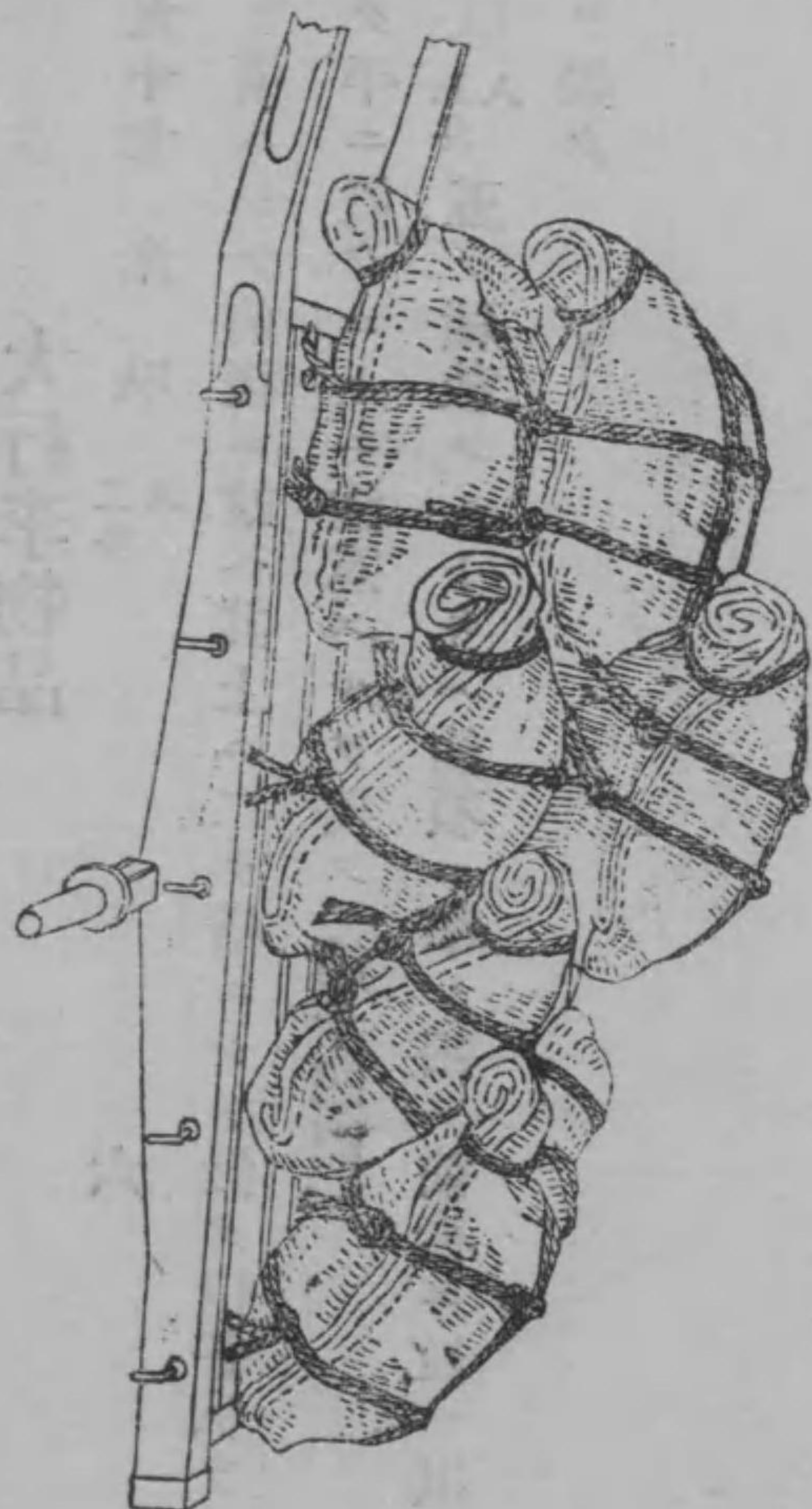
二斗入

六

四ヲ横ニシテ前後ニ竝ヘ其上ニ二ヲ横ニシテ置ク但各呎ヲ成ル  
 ヘク平ニ置クコトニ注意スルヲ要ス(第十四圖)  
 麥<sup>三斗</sup>入<sup>五</sup>ヲ積載スルトキハ前項ニ準シ四ヲ前後ニ竝ヘ其上ニ  
 一ヲ置ク



圖 四 十 第  
載 車 ノ 叭 米



第九十八 公用(將校)行李

一二

四ヲ縦ニシテ二ツツ前後ニ竝ヘ次ニ同要領ニ依リ三層ニ重ネ置ク

公用(將校)行李ト共ニ金櫃<sup>キンキ</sup>ヲ積載シ又ハ金櫃ノミヲ積載スルトキハ其輕重ヲ顧慮シ積載スヘキ員數竝之カ配置等ヲ定ムルヲ要ス

第九十九

鍊鐵平釜

收入品共

三

鐵竈

二

二ツ組米洗桶

三ツ組湯桶共

一

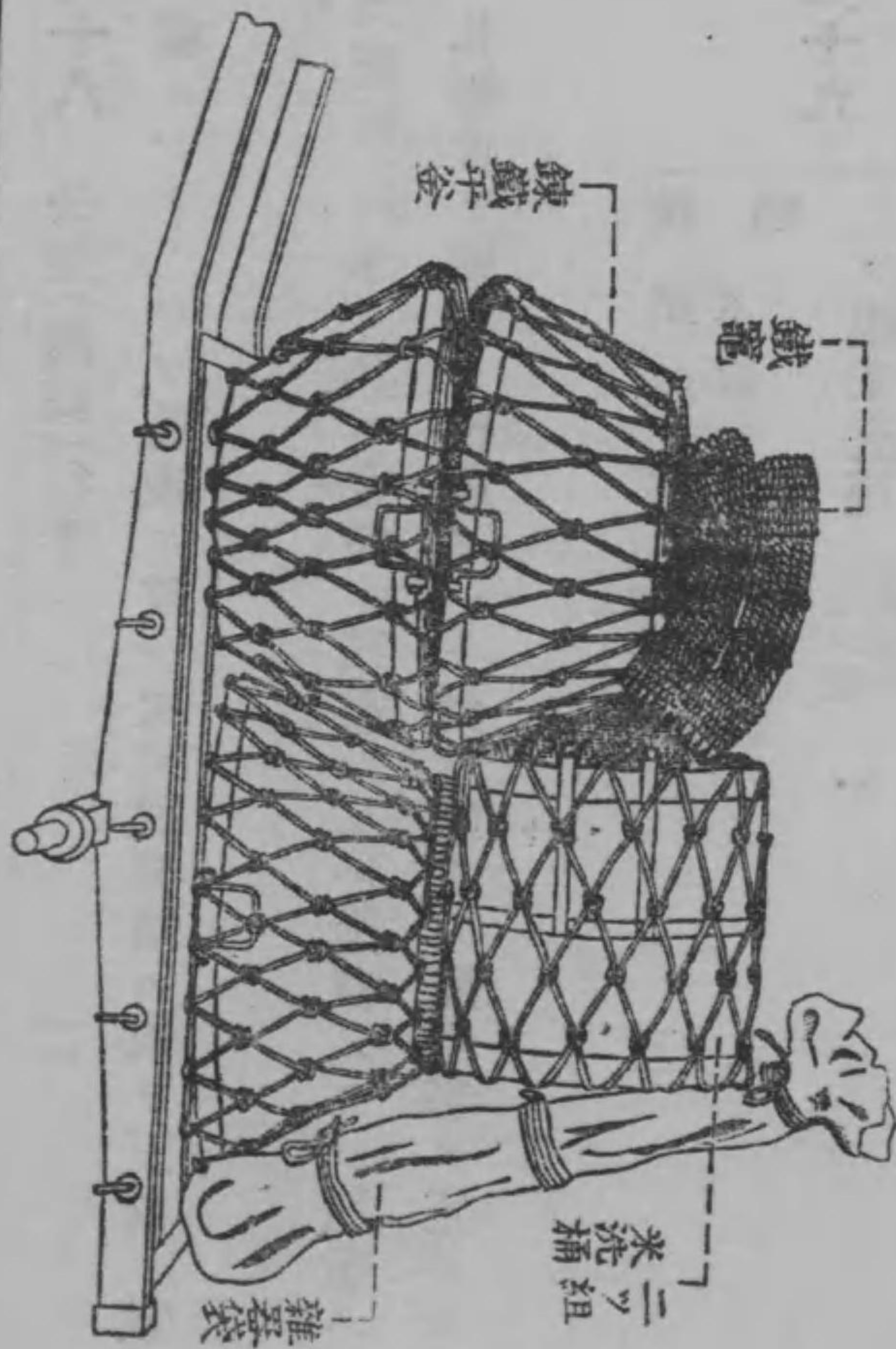
雜器袋

收入品共

一



載車ノ具炊 圖五十一第



鍊鐵平釜ニヲ互ニ口ヲ合セテ重ネ車臺ノ前部ニ置キ其後方ニ他  
 ノ一ヲ伏セ其上ニ二ツ組米洗桶ヲ縦ニシ口ヲ前ニ向ケテ置キ次  
 ニ鐵籠ニヲ重ネ前部ニ在ル鍊鐵平釜ノ上ニ横ニシテ載セ然ル後  
 雜器袋ヲ車臺ノ後部ニ立テ掛ク  
 鍊鐵平釜ハ提把ヲ車臺ノ兩側ニ向クル如ク置クモノトス（第十  
 五圖）

電話隊器材

- 第百
- 中線卷匣 チウセンマキキヤウ
  - 中被覆線 チウヒフクセン
  - 炭化石灰箱 タンクワセキクワイバコ
- 中線卷匣 チウラック
- 中被覆線 シヤ
- 炭化石灰箱 車共

一二卷

一



チウラクシヤダイ  
中絡車臺ヲ裝著シタル輻重車ニ前記ノ諸品ヲ之ニ相當スル區畫  
内ニ入ル

〔電話器具箱〕

三

第一百 繰出線掛

三(一捆)

折梯子

一

電話器具箱ニヲ縦ニシテ前後ニ置キ其上ニ一ヲ縦ニシテ載セ折  
梯子及繰出線掛ヲ車臺ノ左側ニ置ク

衛生隊小行李衛生材料

第二百

〔衛生隊醫級〕

三

隊醫級

一

衛生隊醫級二及隊醫級一ヲ横ニシテ前後ニ並ヘ其上ニ衛生隊醫  
級一ヲ横ニシテ置ク 三六式及三八式ニ輪輻重車ニ在リテハ衛生隊醫級三  
ヲ横ニシテ前後ニ並ヘ其上ニ隊醫級ヲ縦ニシテ置ク

野戰病院衛生材料

一〇(一捆)

〔擔架〕

一

〔顯微鏡箱〕

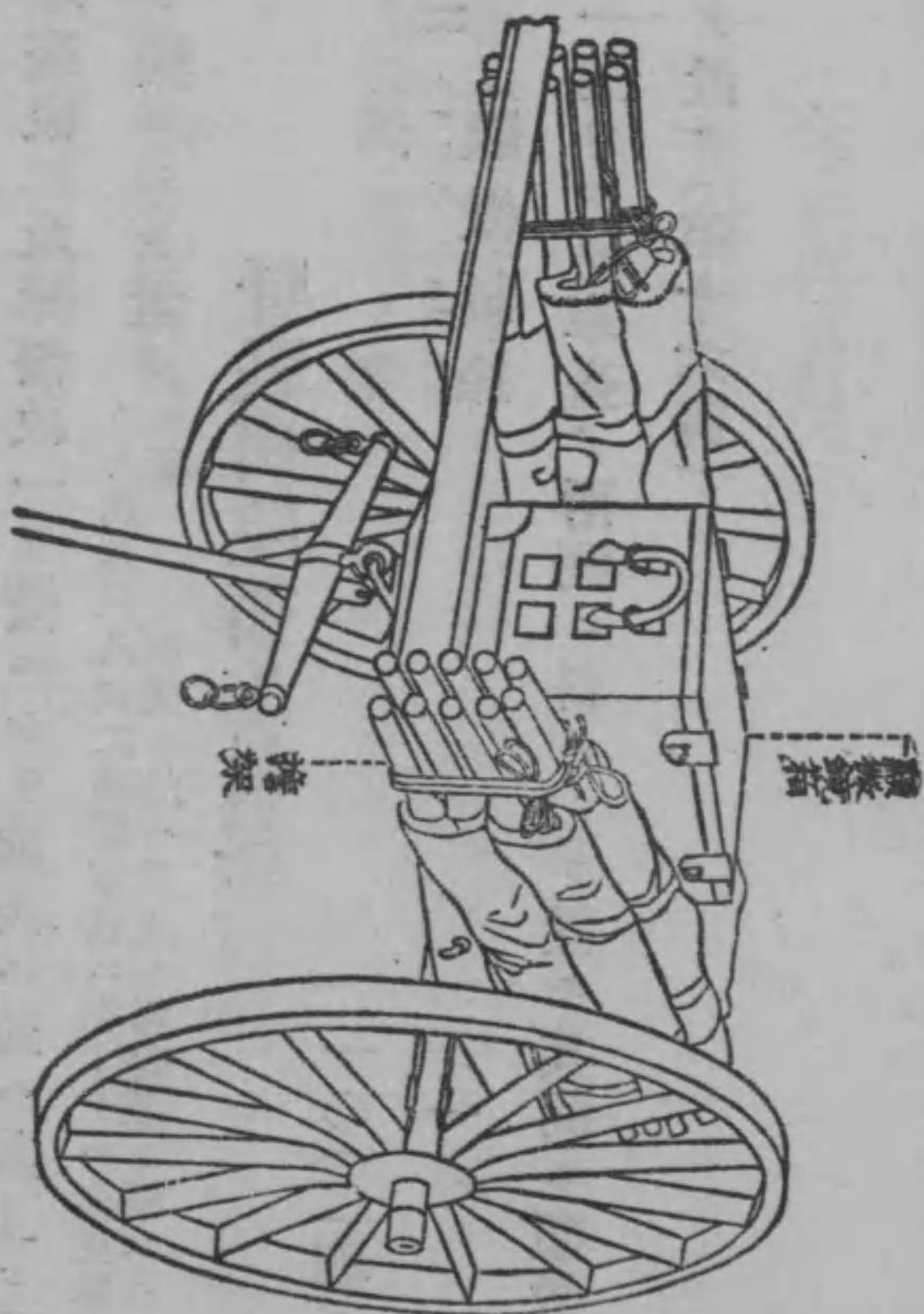
擔架一捆ツツヲ車臺ノ兩側ニ斜ニシテ置キ其間ニ顯微鏡箱ヲ縦  
ニシテ置ク(第十六圖)

第二百三



載車ノ箱鏡微顯及架擔

圖六十第



歩兵彈藥縱列彈藥

第四百 小銃彈藥箱

四

第九十六ニ準シテ積載ス但鎖ノアル方側ヲ交互ニ對向セシムルヲ要ス

第五百 三年式機關銃甲彈藥箱

一〇

六ヲ縱ニシテ三ツツ前後二列ニ竝ヘ其上ニ四ヲ縱ニシテ二ツツ前後二列ニ竝ヘ置ク

砲兵彈藥縱列彈藥

第百六 三八式野砲縱列用彈藥箱

五

一ヲ横ニシテ車臺ノ前部ニ置キ其後方ニ三ヲ縱ニシテ竝ヘ最後



ニ一ヲ横ニシテ置ク

### 電信隊器材

第七百七 電柱及繼柱ノ積載ニハ電柱架ヲ裝著シタル輜重車ヲ用  
フ

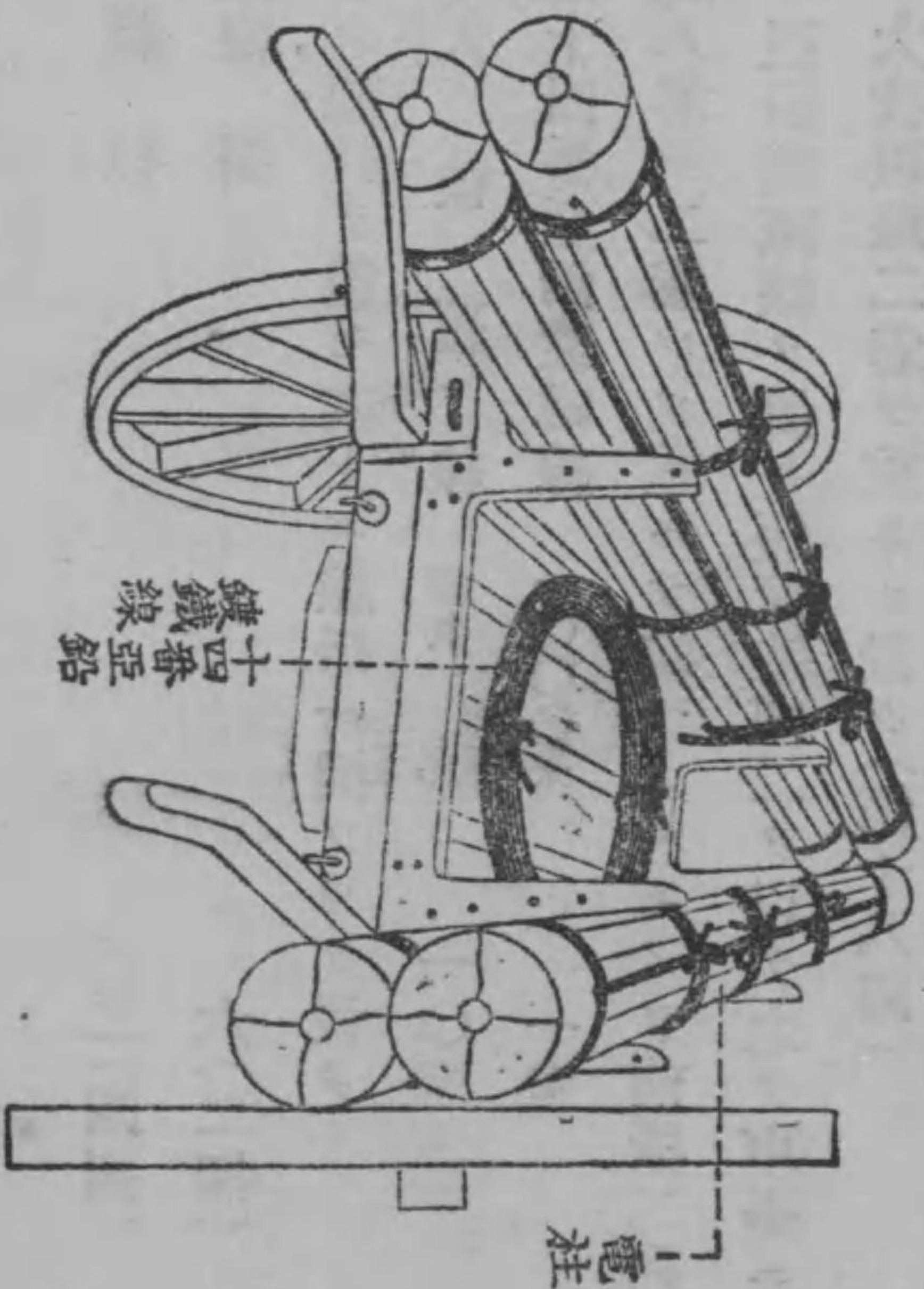
第八百八 電柱

十四番亞鉛鍍鐵線 一五〇米

五二(四捆) 一卷

亞鉛鍍鐵線ヲ車臺ノ後部ニ短荷造網ニテ以テ結ヒ著ケ次ニ電柱架ニ電柱ヲ鑄ヲ前ニシテ左右各、二捆ツツヲ入レ電柱架附屬ノ緊網ニテ結束ス(第十七圖)  
架設又ハ撤收作業中ニ在リテハ通常荷網ヲ用ヒス單ニ緊網ニテ

載車ノ線鐵鍍鉛亞番四一及柱電 圖七十第





結束ス

第三百九  
 繼柱  
 線掛  
 三二(四捆)  
 六(二捆)

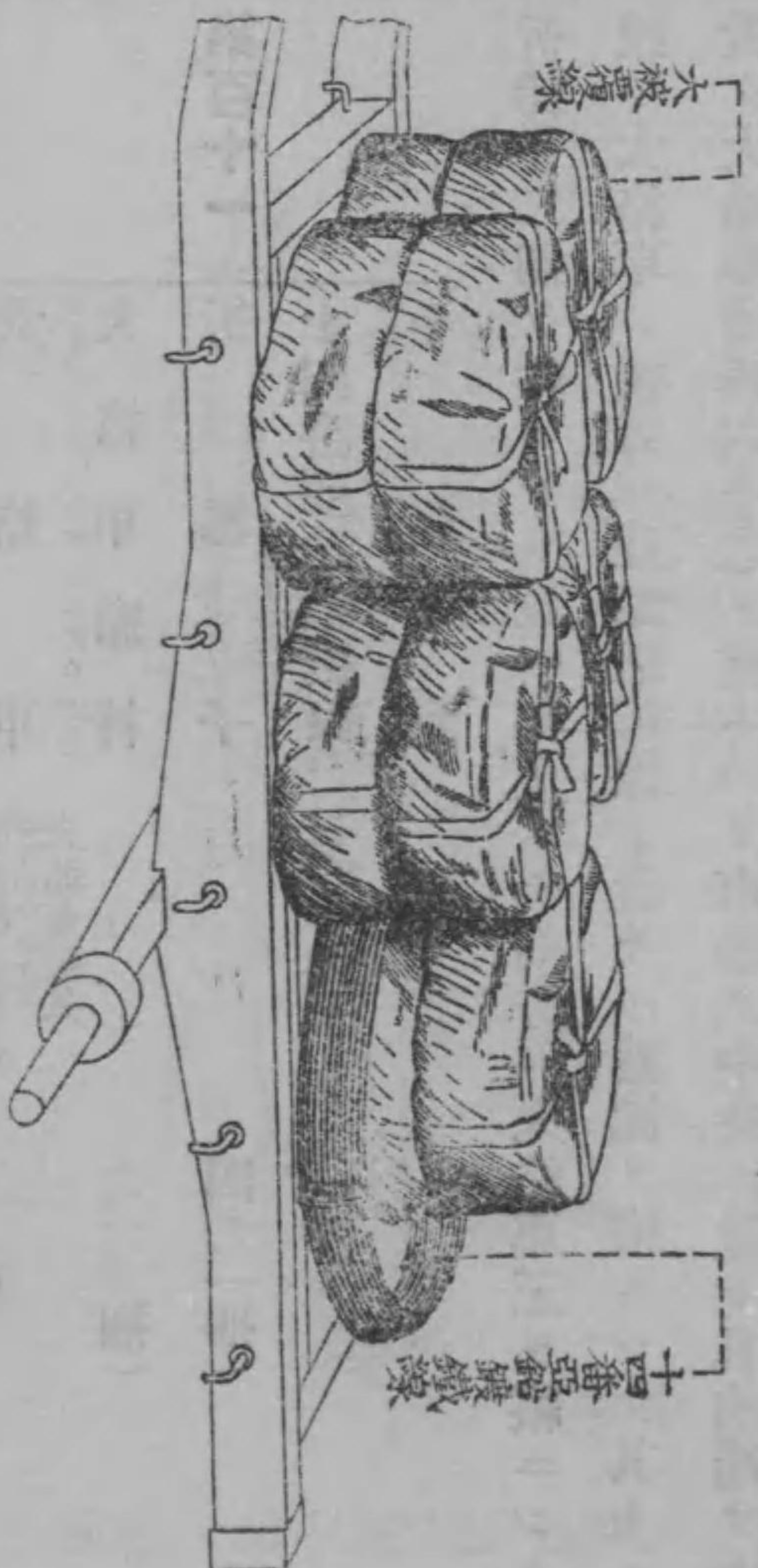
前條ニ準シ繼柱ヲ載セ其上ニ線掛一捆ツツヲ置ク

第三百十  
 大被覆線 袋共 一〇卷  
 十四番亞鉛鍍鐵線 一卷

大被覆線八卷ハ二卷ツツ重ネテ竝ヘタルモノヲ前後二列ニ置キ  
 其後方ニ亞鉛鍍鐵線ヲ置キ短荷造網ニヲ以テ之ヲ車臺ニ結ヒ著  
 ケ其上ニ大被覆線二卷ヲ重ネテ置ク(第十八圖)

圖 八 十 第

載車ノ線鍍鉛亞番四十及線覆被大

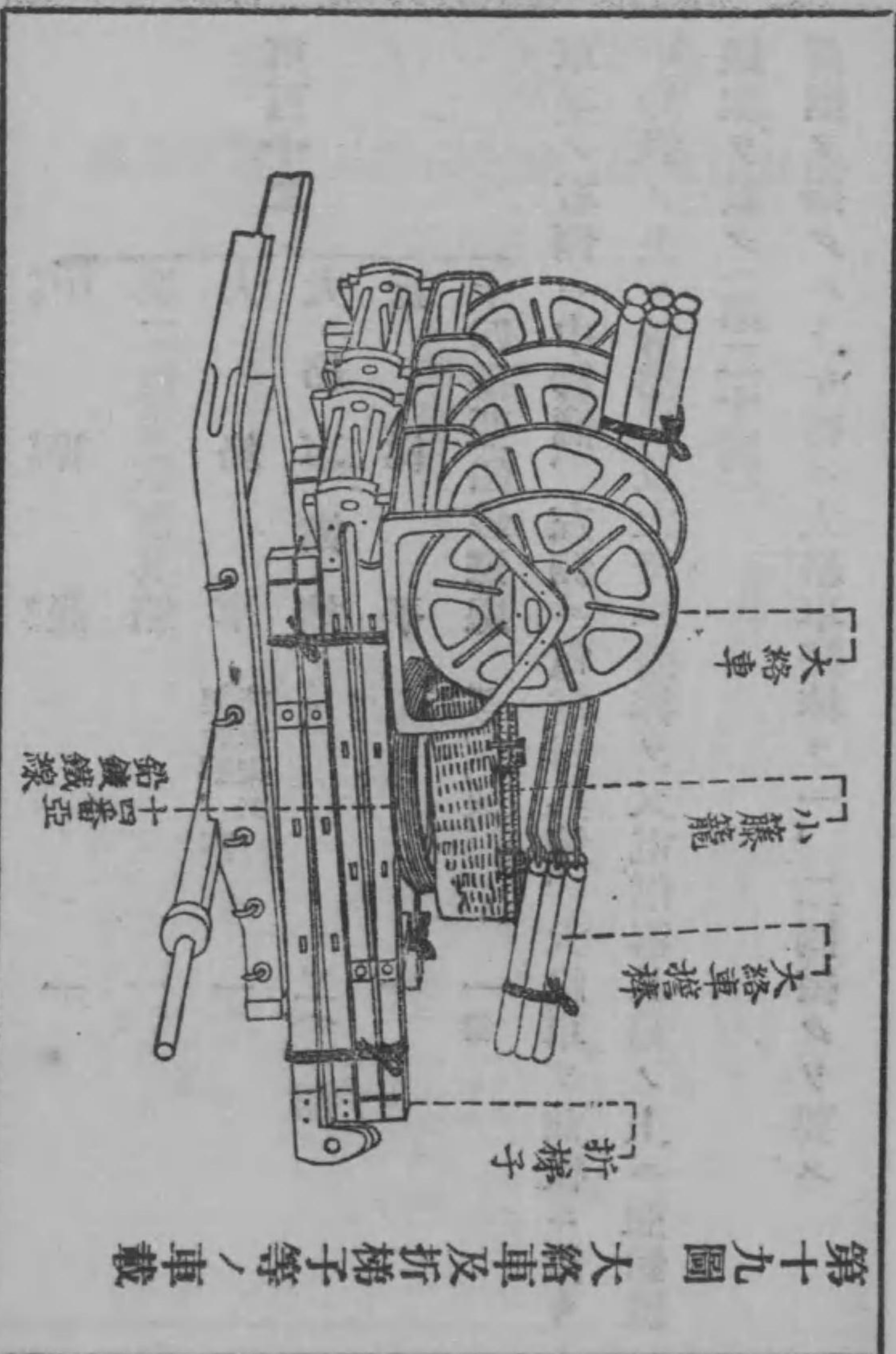




第一百十一

大 <sup>ダイ</sup> 大 <sup>ダイ</sup> 絡 <sup>ラク</sup> 車 <sup>シャ</sup> 擔 <sup>ニナヒ</sup> 棒 <sup>ボウ</sup> 車 <sup>シャ</sup>	大 <sup>ダイ</sup> 絡 <sup>ラク</sup> 車 <sup>シャ</sup> 擔 <sup>ニナヒ</sup> 棒 <sup>ボウ</sup> 車 <sup>シャ</sup>	折 <sup>セウ</sup> 梯 <sup>トウ</sup> 子 <sup>コ</sup>	十四番亞鉛鍍鐵線	小 <sup>セウ</sup> 籃 <sup>トウ</sup> 籠 <sup>カゴ</sup>
三	六(一捆)	四(二捆)	三〇〇米	一卷
架 <sup>ガ</sup> 設 <sup>セツ</sup> 脚 <sup>ドウ</sup> 轉 <sup>テン</sup> 把 <sup>バ</sup>	大 <sup>ダイ</sup> 絡 <sup>ラク</sup> 車 <sup>シャ</sup> 架 <sup>ガ</sup> 共 <sup>キョウ</sup>			一

折梯子二捆ヲ縦ニシテ竝ヘ其上ニテ前方ニ大絡車三ヲ縦ニシテ  
 竝ヘ大絡車ノ後方ニ亞鉛鍍鐵線ヲ置キ小籃籠ヲ縦ニシテ其上ニ  
 置ク大絡車擔棒六ハ之ヲ縦ニシテ車臺ノ中央ニ置キ其前端ヲ中  
 央ノ大絡車ニ托ス(第十九圖)













縦ニシテ兩側ニ置ク(第二十一圖)  
 電槽ヲ取扱フニハ横或ハ倒ニスヘカラス  
 荷綱ヲ掛ケタル後短荷造綱ニヲ以テ圓匙及片鶴嘴ヲ荷綱ニ結ヒ  
 著ク

架橋縦列器材

第百十四 鐵舟ノ積載ニハ三九式輜重車乙ヲ又板、桁等ノ如キ  
 長キ材料ノ積載ニハ支材ヲ裝著シタル輜重車ヲ用フ

タテ 腕 覆及  
 モキリガマ 棹共  
 藻切鎌

第百十五 一號箱

— — —

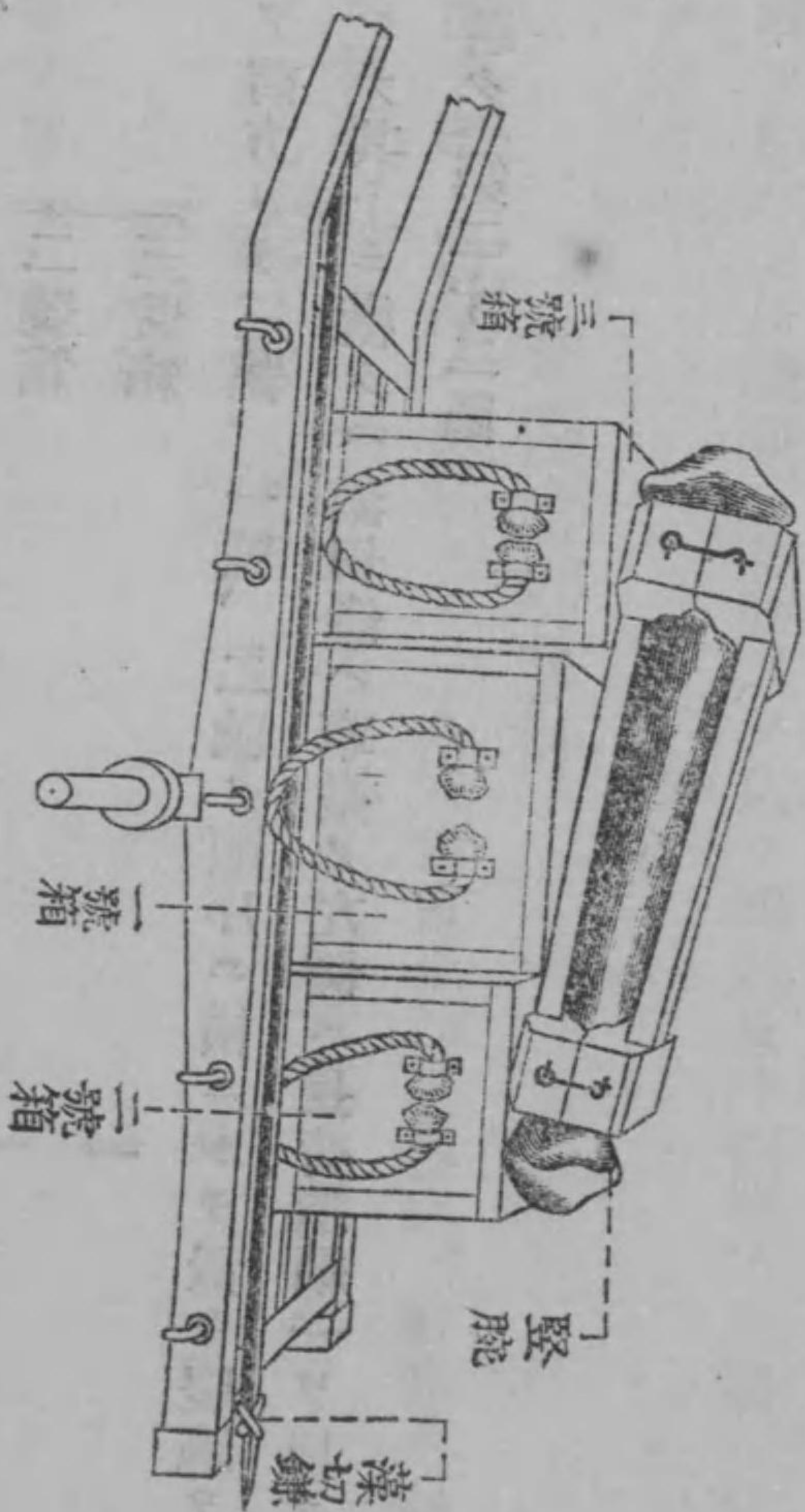
二號箱  
 三號箱

— —

箱ヲ前方ヨリ三號、一號、二號ノ順序ニ横ニシテ置キ堅腕ヲ縦  
 ニシテ其上ニ横タヘ藻切鎌ハ車臺ノ左側ニ長荷造綱一ヲ以テ結  
 ヒ著ク(第二十二圖)



圖二十一 堅腕及藻切鎌ノ車載



負桁材

二

波除

一

錨網

一卷

共絡車

橋礎杭

二二三(二捆)

第一百十六

負桁材一ツツヲ車臺ノ兩側ニ斜ニシテ置キ其間ニ橋礎杭及錨網ヲ置キ次ニ波除ヲ負桁材ノ上ニ載セ長荷造網ニヲ以テ之ニ結ビ著ク(第二十三圖)







第一百十八

尖形舟  
踏板  
斗

一 二 一

尖形舟ノ尖部ヲ後方ニシ前條ニ準シテ積載ス

舟梁

三(一捆)

負桁材

三(一捆)

艙

三(一捆)

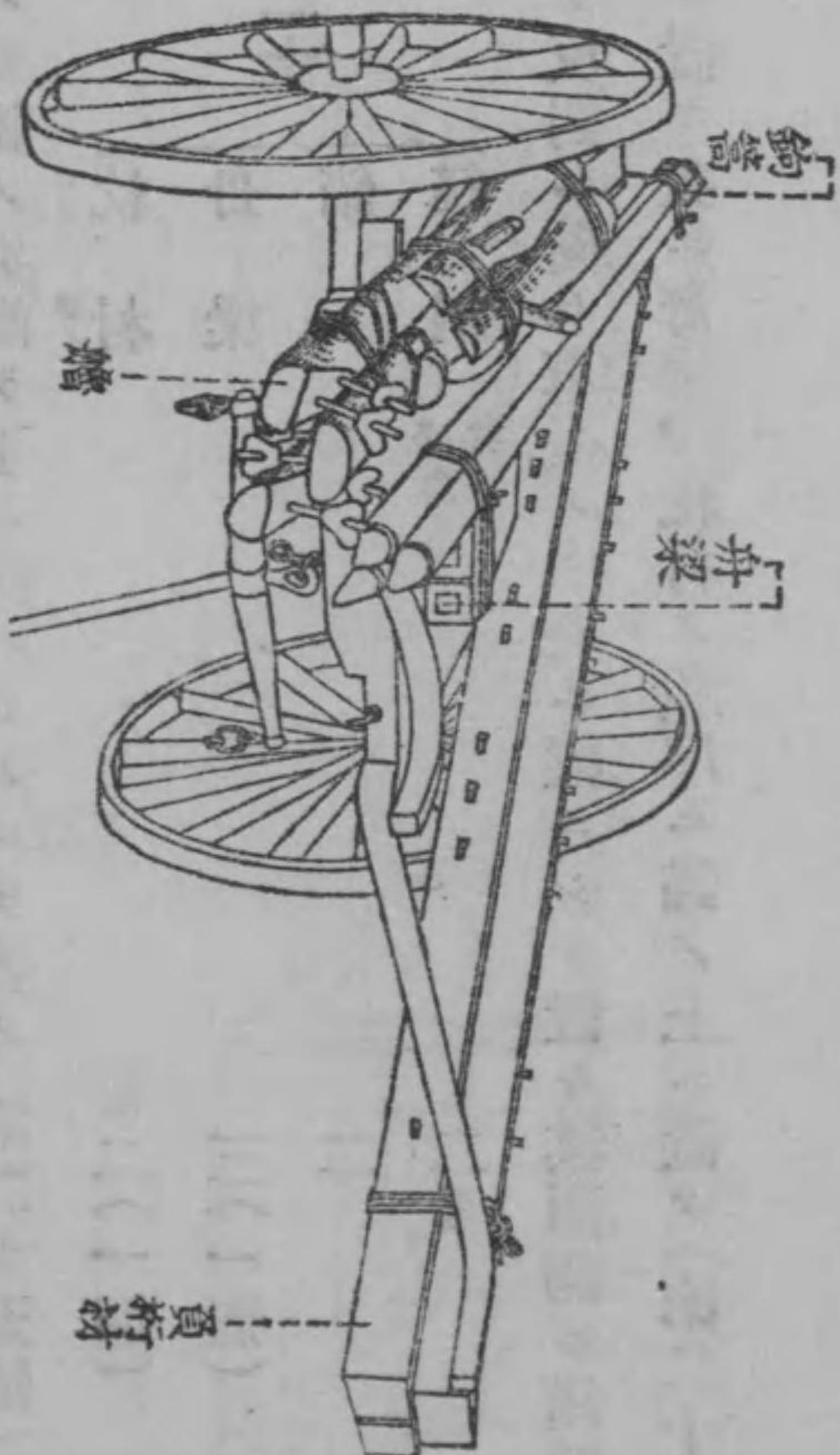
鉤筒

三(一捆)

第一百十九

車臺ノ右側ニ艙及鉤筒ヲ、左側ニ負桁材ヲ共ニ斜ニシテ置キ其間ニ舟梁ヲ置ク

圖五十二 第 載車ノ等艙及材桁負





鉤篙ハ其鉤ノ尖端ヲ下ニ向ハシムルヲ要ス(第二十五圖)

第二百二十

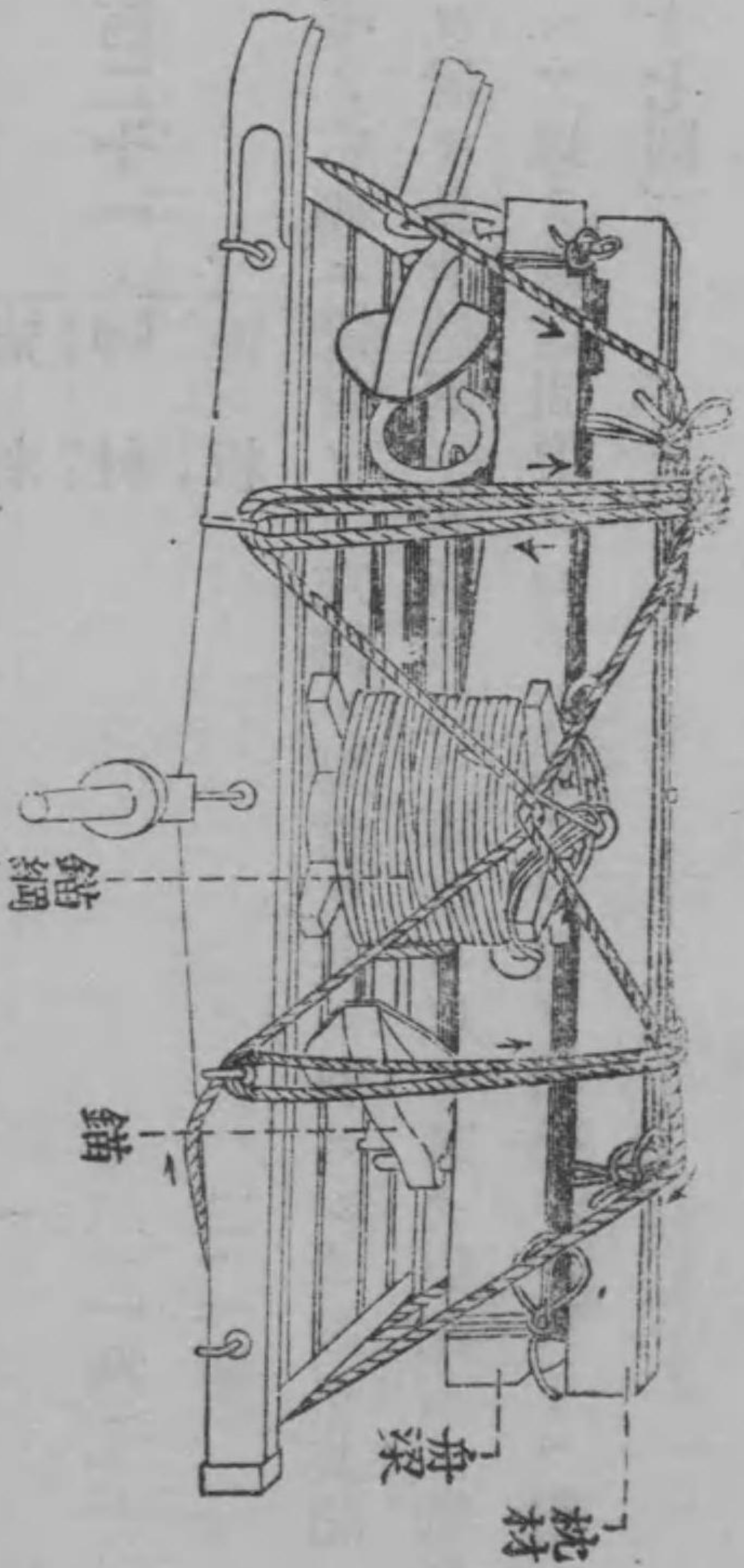
枕	舟	錨	錨
材	梁	綱	網
共	絡	車	

- 二(一捆)
- 三(一捆)
- 二
- 二卷

錨ニヲ反對ニ向ケ車臺ノ中央ニ縦ニシテ置キ其兩側ニ錨綱一卷ツツヲ置キ次ニ舟梁、枕材ノ順序ニ錨ノ上ニ置ク(第二十六圖)

圖六十二 第

載車ノ等錨及梁舟、材枕





第二百二十一

冠材  
脚材  
蹠板

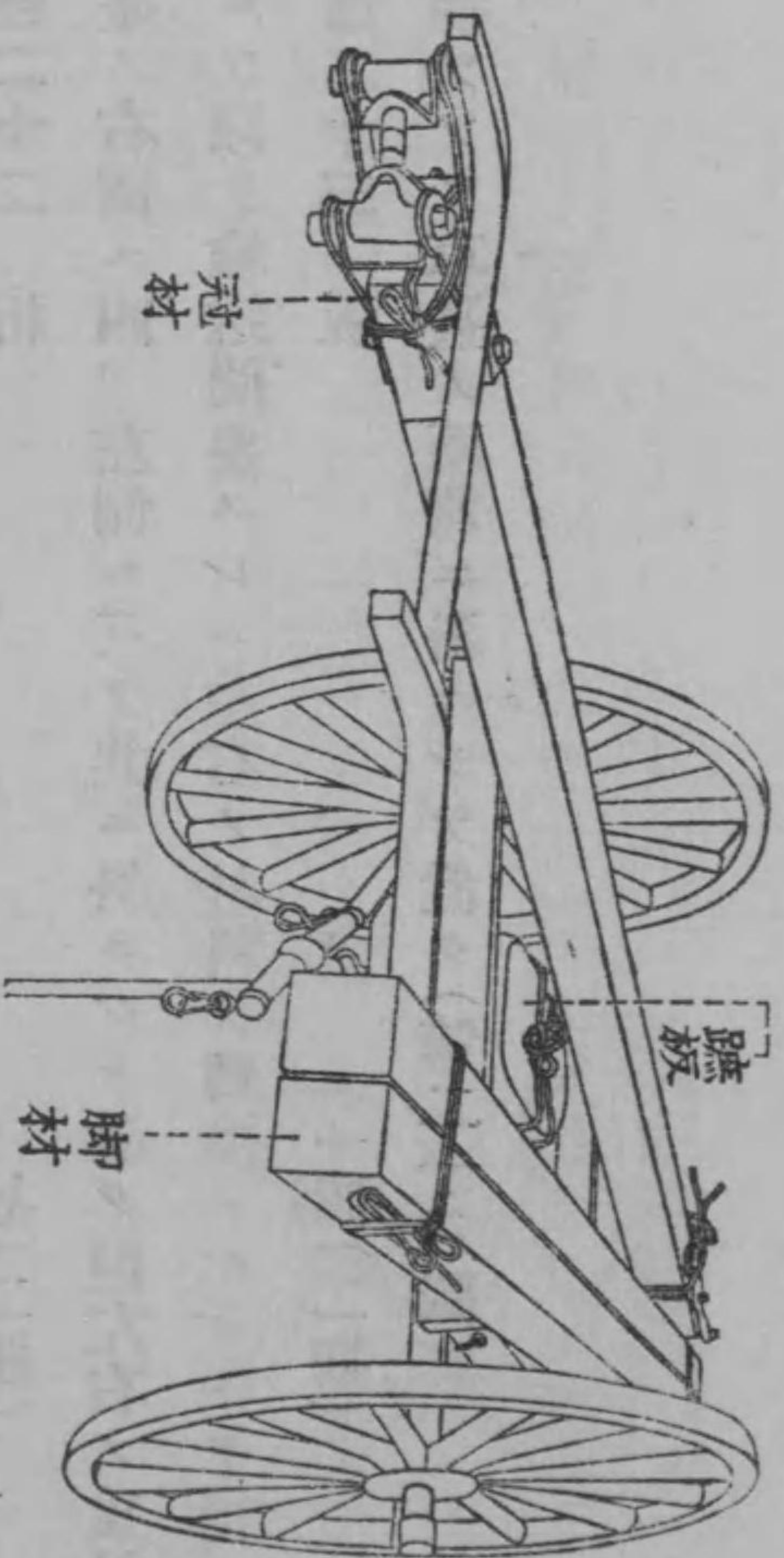
一

二(一捆)

二(一捆)

車臺ノ右側ニ冠材ヲ、左側ニ脚材ヲ共ニ斜ニシテ置キ其間ニ蹠板ヲ置キ長荷造綱一ヲ以テ之ヲ車臺ニ結ヒ著ク但左右ノ重量異ナルヲ以テ輸送間要スレハ左右ノ材料ヲ轉換スルコトヲ得(第二十七圖)

圖七十二 載車ノ等材脚及材冠





第二百二十二 桁

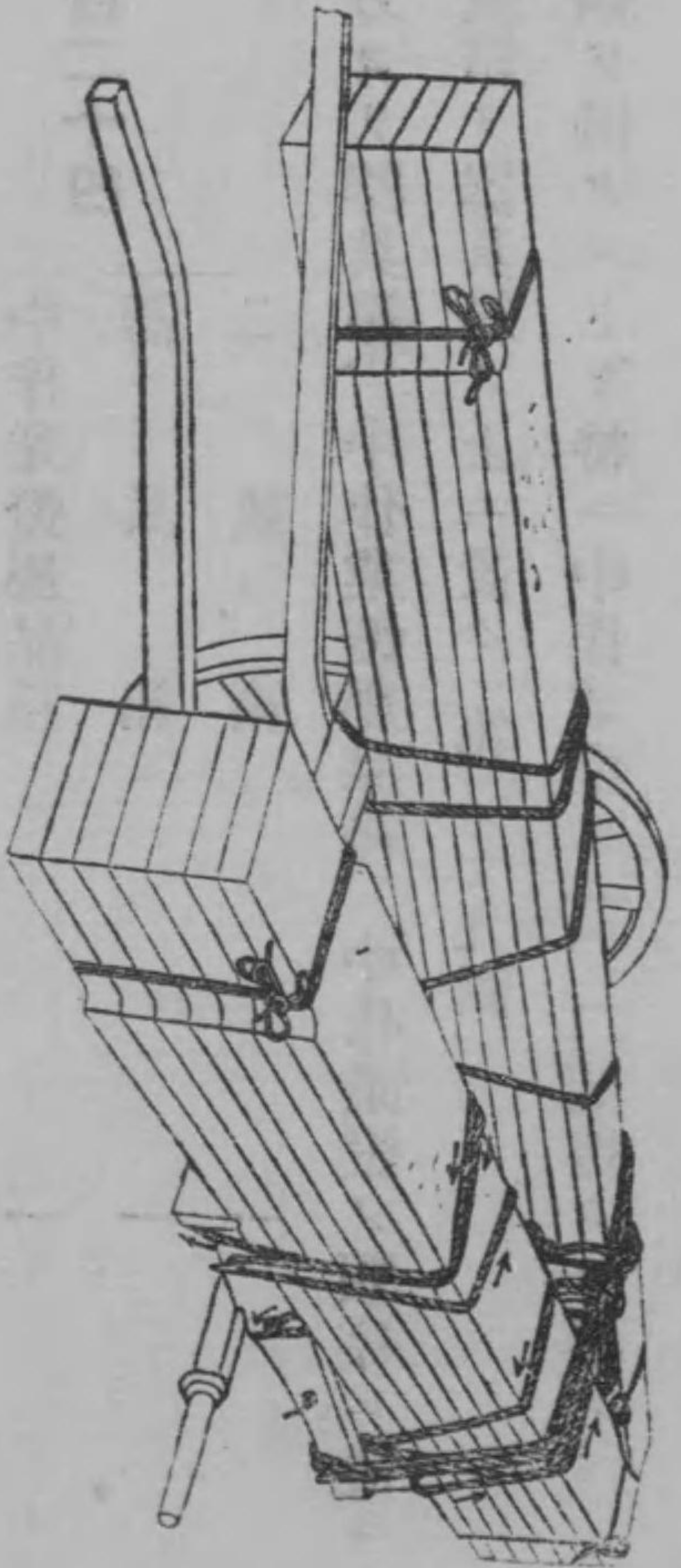
七(二捆)

車臺ノ右側ニ四、左側ニ三ヲ共ニ斜ニシテ置ク但左右ノ重量異ナルヲ以テ輸送間要スレハ左右ノ材料ヲ轉換スルコトヲ得

一四(二捆)

第二百二十三 板  
一捆ツツヲ車臺ノ兩側ニ斜ニシテ置ク(第二十八圖)

圖 八十二 第  
載 車 ノ 板



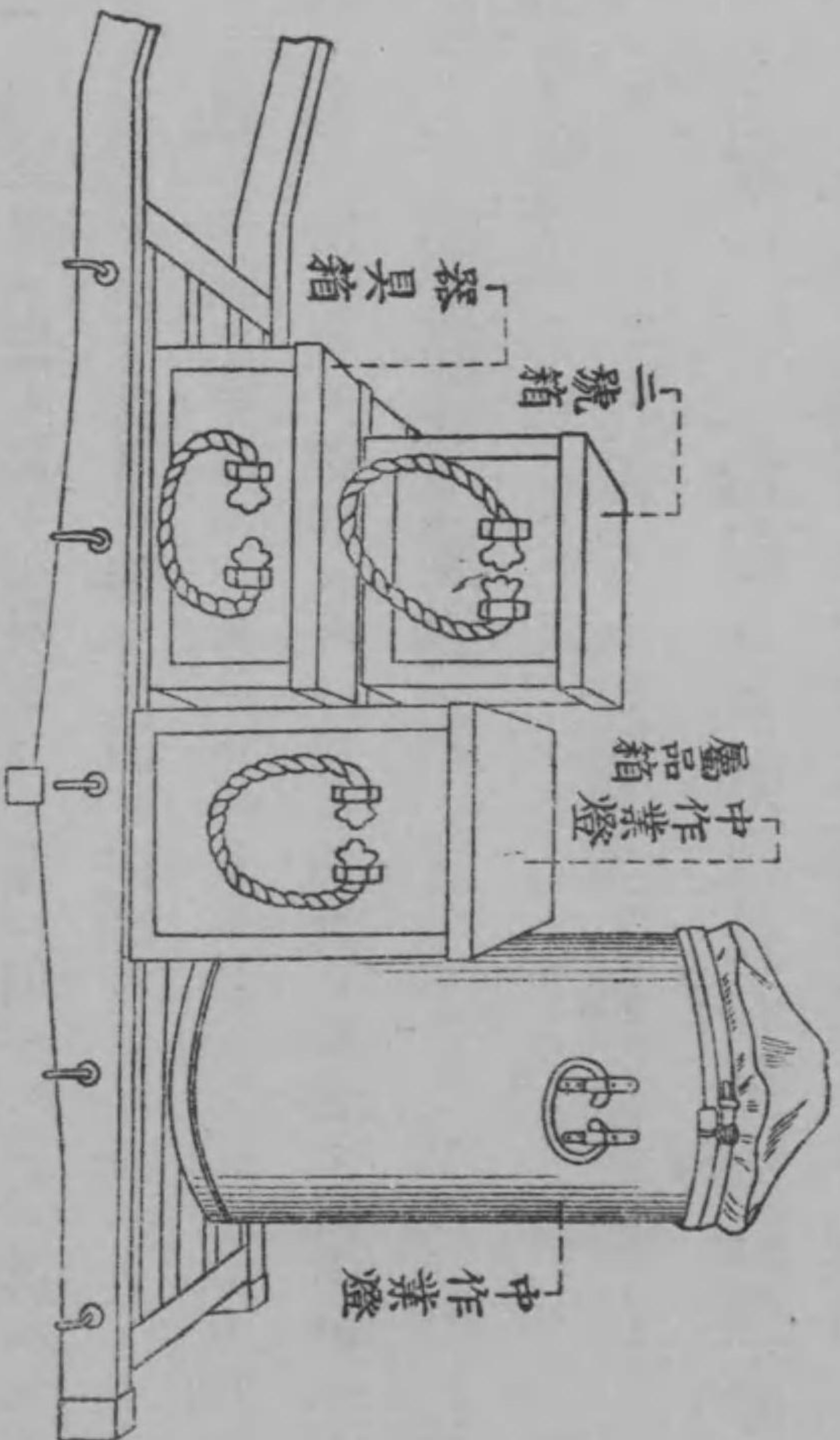


第二百二十四

中 <sup>チウ</sup> 作 <sup>サ</sup> 業 <sup>グ</sup> 燈 <sup>トウ</sup> 覆共	中作業燈屬品箱	器具箱	二號箱
—	—	—	—

前方ヨリ器具箱、中作業燈屬品箱、中作業燈ノ順序ニ置キ次ニ二號箱ヲ器具箱ノ上ニ置ク(第二十九圖)  
荷綱ヲ掛クルトキ特ニ中作業燈ヲ一、二回捲クヲ要ス

圖九十二 第 載車ノ等箱器具及燈業作中





捆包積載教範終

捆包積載教範附錄

第一章 馱馬具及輓馬具ノ裝脫並積載

卸下ノ爲馱馬、輓馬ノ保持

馱馬具ノ裝脫

第一 馬ニ馱馬具ヲ裝スルニハ良ク馬體ニ適合シ且各部ノ裝著ヲシテ嚴ニ其適度ヲ保タシメサルヘカラス否サレハ雷ニ馱載ノ確實ヲ害スルノミナラス延イテ馬ヲ損傷スルニ至ルモノトス

第二 馱馬具ハ豫メ馬ニ適合セシメ常ニ同一ノ馬ニ裝スル如ク

附錄

馱馬具及輓馬具ノ裝脫並積載  
卸下ノ爲馱馬、輓馬ノ保持



スルヲ要ス而シテ一タヒ適合セシメタル駄馬具ト雖之ヲ装スル  
ニ方リテハ必ス其状態ニ注意ヲ拂フヲ要ス

第三 駄鞍ヲ馬ニ適合セシムルニハ先ツ輕ク極褥ノ裏面ヲ叩打  
シテ其硬直ヲ緩和シタル後鞍下毛布ヲ用フルコトナク鞍ヲ輕ク  
馬背ニ置キ極褥膚接ノ景況ヲ視察シ所要ニ應シテ穹鐵ノ開度ヲ  
規正シ尙極褥ノ膚接ヲ良好ナラシムル如ク褥心ノ配置ヲ修正ス  
ルモノトス良ク適合セラレタル鞍ハ廣キ褥面ヲ以テ馬背ニ膚接  
シ極褥留鐵附近ニ於テ極褥ノ裏面ト肋トノ間ニ平手ヲ挿入シ得  
ルヲ度トシ局壓ノ箇所ナク前部ハ後部ヨリ稍、高キ位置ニ在ル  
モノトス

第四 鞍下毛布ヲ馬背ニ置クニハ之ヲ四ツ折ト爲シ折目ヲ前及

右ニシ其中央ヲ背線ニ一致セシメ先ツ其前縁ヲ肩胛骨後端ヨリ

前方ニ握以上ノ所ニ在ラシムル如ク置キ次ニ毛竝ニ從ヒ靜ニ之

ヲ後方ニ引キ肩胛骨後端ヨリニ握程ノ所ニ移スモノトス

第五 裝鞍ハ通常二人ニテ之ヲ行フ其法鞞、鞞及腹帶ヲ記載ノ

順序ニ駄鞍上ニ載セ兵卒ハ其兩側ニ分レ各、前、後穹木ノ下端

ヲ持チテ高ク上ケ馬ノ後方ヨリ背上ニ致シ極褥ノ前端ヲ肩胛骨

後端ヨリ後方ニ指程ノ所ニ在ラシムル如ク置キ髻甲及背線ヲ壓

セサル如ク鞍下毛布ヲ引キ上ケ腹帶ヲ締メ鞞及鞞ヲ装スルモノ

トス 三式輻重駄馬具ニ在リテハ駄鞍ヲ馬背定位ノ稍、後方ニ置キ鞞ヲ  
装シタル後鞍ヲ定位ニ進メ鞍下毛布ヲ引キ上ケ腹帶ヲ締メ鞞ヲ装ス



馱馬具及轆馬具ノ裝脫並積載  
卸下ノ爲馱馬、轆馬ノ保持

腹帶ヲ裝スルニハ毛竝ヲ整ヘ長腹帶ヲ正シク帶徑ニ導キ短腹帶  
 ニ裝著ス二三式輻重馱馬具ニ在リテハ右帶ノ縮革ヲ左帶ノ縮革ニ外方ヨリ通シ  
 二掛ケ一握程ノ環ヲ作り其餘端ヲ以テ環ヲ根ノ方ヨリ捲キ末端ヲ環ニ通シ折り返ス其適度ハ帶徑トノ間ニ平手ヲ  
 間隔ハ積載前ニ於テ概ネ二握程ノ餘裕ヲ存セシムルモノトス  
 鞅ヲ裝スルニハ尾毛ヲ纏メ尾根ト共ニ持チ上ケテ之ニ通ス其適  
 度ハ尾根トノ間ニ概ネ三指程ノ餘裕ヲ存セシムルモノトス  
 鞞ヲ裝スルニハ正シク之ヲ胸前ニ當テ左ノ鞞托銀ニ裝著ス其適  
 度ハ胸前トノ間ニ一拳ヲ入ルル餘裕ヲ存セシムルモノトス  
 第六 馱馬勒ヲ裝スルニハ兵卒ハ左手ニ勒ヲ取り牽綱及控綱ヲ

左臂ニ掛ケ馬ノ頭ノ左側ニ到リ右手ノ食指ト中指トヲ右口角ニ  
 入レテ之ヲ保チ左手ニテ裝著シアル頭絡ヲ脱シ馱馬勒ヲ銜ミ換  
 ヘ銜ハ輕ク口角ニ接セシメ咽紐ハ咽喉トノ間ニ一拳ヲ入ルル餘  
 裕ヲ存セシメ引解ニ結フ次ニ控綱ヲ左右ノ鞞托銀二三式輻重馱馬具  
ニ在リテハ控綱  
 第七 縛囊革條及縛箱革條ヲ用ヒサルトキハ各、其兩脚銀ノ間  
 ニ纏ヒ其端ヲ遊環革ニ通シ止ムルモノトス  
 第八 締綱ヲ有スル馱鞍ニシテ之ヲ使用セサルトキハ附載品ト  
 シテ携行スルモノトス二三式輻重馱馬具ニ在リテハ締綱ノ蛇口ヲ馱鞍力木ノ  
 端ニ掛ケ前後ノ綱ヲ交叉シ鏈ヲ鞍ノ方ニ向ケ繫革ヲ鞍  
 ノ上ニ在ラシムル如クシ綱ヲ穹木ノ割割部ニ内ヨリ通シテ引キ締メ更ニ一回通シテ  
 同長ノ三條ニ揃ヘ前後ノモノヲ合シ鞍ニ近ク引解ニ束ネ環トナリタル部分ヲ二分シ

附錄 馱馬具及轆馬具ノ裝脫並積載  
卸下ノ爲馱馬、轆馬ノ保持



附録

馱馬具及轆馬具ノ裝脱並積載  
卸下ノ爲馱馬、轆馬ノ保持

力木ノ端ニ掛ケテ引キ締メ餘端ヲ  
纏メテ束ネタル部ノ内方ニ挿ム

第九 小綱ヲ用ヒサルトキハ之ヲ適宜ノ環ニ纏メテ束ネ後方左

穹鐵ノ剝割部三式輻重馱馬具ニ在リテハ左轆繫環ニ裝著スルモノトス

第十 馱馬具ヲ馬ヨリ脱スルニハ概ネ之ヲ裝スルトキト反對ノ  
順序ニ行フモノトス

轆馬具ノ裝脱

第十一 轆馬具ノ裝脱ニ就キテハ以下示スモノノ外馱馬具ノ裝  
脱ニ準スルモノトス

第十二 鞍下毛布ハ之ヲ六ツ折折方ハ鞍下毛布ノ保  
存ヲ顧慮シ適宜定ムト爲シテ用フル  
モノトス

第十三 裝鞍ハ一人ニテ之ヲ行フ其法頸上革及緩喉革、ケイジヤウカク クワシコウカク 轆索ヒキグサリツカネカハ 右

ニテ控ヘ右轆索ノ轆鉤ヲ緩喉革ノ右鏈鎖ニ掛ケハカマカハハシカハ 鞞及袴革、エンボクウケガネヒカヘ 轆木受金控

革、腹帶ヲ記載ノ順序ニ轆鞍ノ上ニ載セ前、後穹木ノ頂部ヲ持  
チ馬ノ左側ヨリ背上ニ置キ腹帶ヲ締メ轆木受金控革ヲ控ヘ鞞及

袴革ヲ裝シ緩喉革ヲ著ケ其左鏈鎖ニ左轆索ノ轆鉤ヲ掛クルモノ  
トス

袴革ヲ裝スルニハ鞞ノ裝法ニ準シテ行フ而シテ其適度ハ左右均  
等ニ垂下シタルトキ其下端後膝ノ直上ニ在リテ水平ヲ保ツヲ要  
ス

頸上革及緩喉革ヲ裝スルニハ先ツ髻甲部ノ毛竝ヲ整ヘ正シク頸

附録 馱馬具及轆馬具ノ裝脱並積載  
卸下ノ爲馱馬、轆馬ノ保持



上革ヲ裝シ次ニ緩喉革ノ左端ヲ馬ノ左側ニ致シ頸上革ニ裝著ス  
ルモノトス而シテ頸上革ハ適當ニ轆鞍ニ近接シ緩喉革ハ概ネ水  
平ニシテ其下端肩端ノ上部ニ在ルヲ度トス

積載卸下ノ爲馱馬、轆馬ノ保持

第十四 積載卸下ノ爲馱馬又ハ轆馬ヲ保持スルニハ兵卒ハ馬ノ  
前ニ出テテ之ニ面シ約半歩足ヲ踏ミ開キ右手ハ牽綱又ハ韁ヲ放  
チ兩手ノ拇指ト食指ノ第二關節トヲ以テ銜ノ環ヲ撮ム又一人ニ  
テ數馬ヲ保持スルニハ馬列ニ面シ上記ノ姿勢ヲ取り適宜兩手ニ  
牽綱又ハ韁ヲ分チテ保チ要スレハ一手ノ牽綱又ハ韁ヲ他ノ手ニ  
移シ馬ヲ制スルモノトス

第二章 部隊捆包

第十五 兵卒各個ノ捆包作業ニ習熟スルニ至レハ分隊ヲ以テス  
ル作業ヲ行ヒ以テ分隊長ノ號令ニ從ヒ整正確實ニ作業ヲ實施シ  
得シメ且分隊長ヲシテ其指揮法ヲ練磨セシムルヲ要ス

第十六 分隊ヲ以テ作業ヲ行フニハ左ノ方法ニ依ルモノトス  
捆包スヘキ兵器物品及捆包材料ハ通常三步ノ間隔 兵器物品ノ中心  
ヨリ中心マテ  
六歩ノ距離 兵器物品ノ後端  
ヨリ後端マテニ其後端ヲ揃ヘテ二線ニ排列ス  
分隊ハ兵器物品線ノ中央後ニ二列ニ集合ス分隊長ハ各兵卒又ハ  
各組ノ擔當區分其他必要ノ件ヲ指示ス



次ニ「捆包用意」ノ號令ヲ下ス此號令ニテ兵卒ハ駈歩ヲ以テ示サレタル兵器物品ノ所ニ到リ定位ニ就ク  
次ニ「始メ」ノ號令ヲ下ス此號令ニテ兵卒ハ作業ヲ始メ作業終レハ「捆包用意」ノ定位ニ復ス  
分隊長ハ兵器物品ノ種類等ノ關係ヲ顧慮シ要スレハ作業ヲ終リタル兵卒ヲ指命シテ他ノ兵卒ノ作業ヲ援助セシムルモノトス  
第十七 分隊捆包ニ習熟スルニ至レハ數分隊ヲ合シテ作業ヲ行ヒ以テ各分隊ノ協同動作ヲ演練シ指揮官ヲシテ統一指揮ノ要領ヲ會得セシムルヲ要ス

### 第三章 車載品ヲ馱載スル爲ノ捆包

#### 及馱載

#### 捆包

第十八 本教育ニ在リテハ公用(將校)行李、鍊鐵平釜、電柱、鐵舟及板ヲ以テ教育上基礎トナルヘキ兵器物品ト爲スモノトス但演習材料ノ關係ニ依リ要スレハ他ノ類似ノ兵器物品ヲ用フルコトヲ得

#### 大行李物品

#### 第十九 公用(將校)行李

三



先ツ二ヲ重ネ本教範第三十八ニ準シ縮網ヲ以テ梱包シ其上ニ殘餘ノ一ヲ重ネ縮網ノ餘端ヲ外側ヨリ上方ヲ經テ内側ニ致シ縮網ノ環ノ直上ニ於テ前ノ行李ニ纏ヒタル網ニ掛ケテ返シテ外側ニ致シ前ノ行李ニ纏ヒタル網ニ掛ケテ結フ

棕梠網

一

鍊鐵平釜

中釜  
共

一

米揚箕

一

第二十

飯運袋

四ツ折  
ト爲ス

五

飯包布

二五ツツ一  
括ト爲ス

二五〇

飯斗

二

(雨 覆

十六折  
ト爲ス

一

本教範第四十二ニ依リ梱包シタル後縮網ヲ取り其兩環ヲ鍊鐵平釜ノ縁ニ當テ兩網ヲ平行セシメテ蓋ノ方ヨリ底ノ方ニ廻ハシ底ノ中央ニテ交叉セシメ各、蛇口ニ通シ之ヲ返シテ底ノ中央ニ持チ來タシ網ノ交叉點ニ掛ケ左右ニ分チテ蓋ノ方ニ廻ハシ既ニ纏ヒタル二條ノ縦ノ網ノ中遠キ方ノモノニ折り返シテ掛ケ兩網ヲ結ヒ餘端ヲ鏈ノ第一環ニ通ス

衛生隊小行李物品

天幕體

一

第二十一 方錐形天幕 一柱

一



〔囊甲、乙二甲ハ大杭四、中杭二、支臺一入乙ハ小杭二、四、鏈、經始綱、荷造綱各一入〕  
 天幕體及囊ハ本教範第四十六ニ準シテ梱包ス但上下ノ折方ハ兩端ヨリ四分一ツツ折り返シテ二ツ折ノ長サト爲ス如クシ又囊ヲ天幕體ノ輕キ端ノ折目内ニ在ラシムルヲ異ナリトス  
 柱ハ分解シテ揃ヘ荷造綱ノ中央部ヲ以テ尖端ヨリ約四分一ノ長サノ所ヲ結フ

### 步兵彈藥縱列彈藥

#### 第二十二

三年式 機關銃 甲彈藥箱

二

二ヲ重ネ本教範第三十八ニ準シ縮綱ヲ以テ梱包シタル後餘端ヲ鏈ノ第一環ニ通シ中央ニテ結フ

### 電信隊器材

#### 第二十三 電 柱

一三

本教範第四十七ニ依リ梱包シ次ニ本教範第三十八ニ準シ鐸ヲ後方ト爲ス如ク縮綱ヲ以テ梱包シタル後餘端ヲ鏈ノ第一環ニ通ス

#### 第二十四 大被覆線 袋共

二卷

二卷ヲ重ネ短荷造綱一ヲ以テ結束シタル後附錄第二十二ニ準シ縮綱ヲ以テ梱包ス

### 架橋縱列器材(舊式)

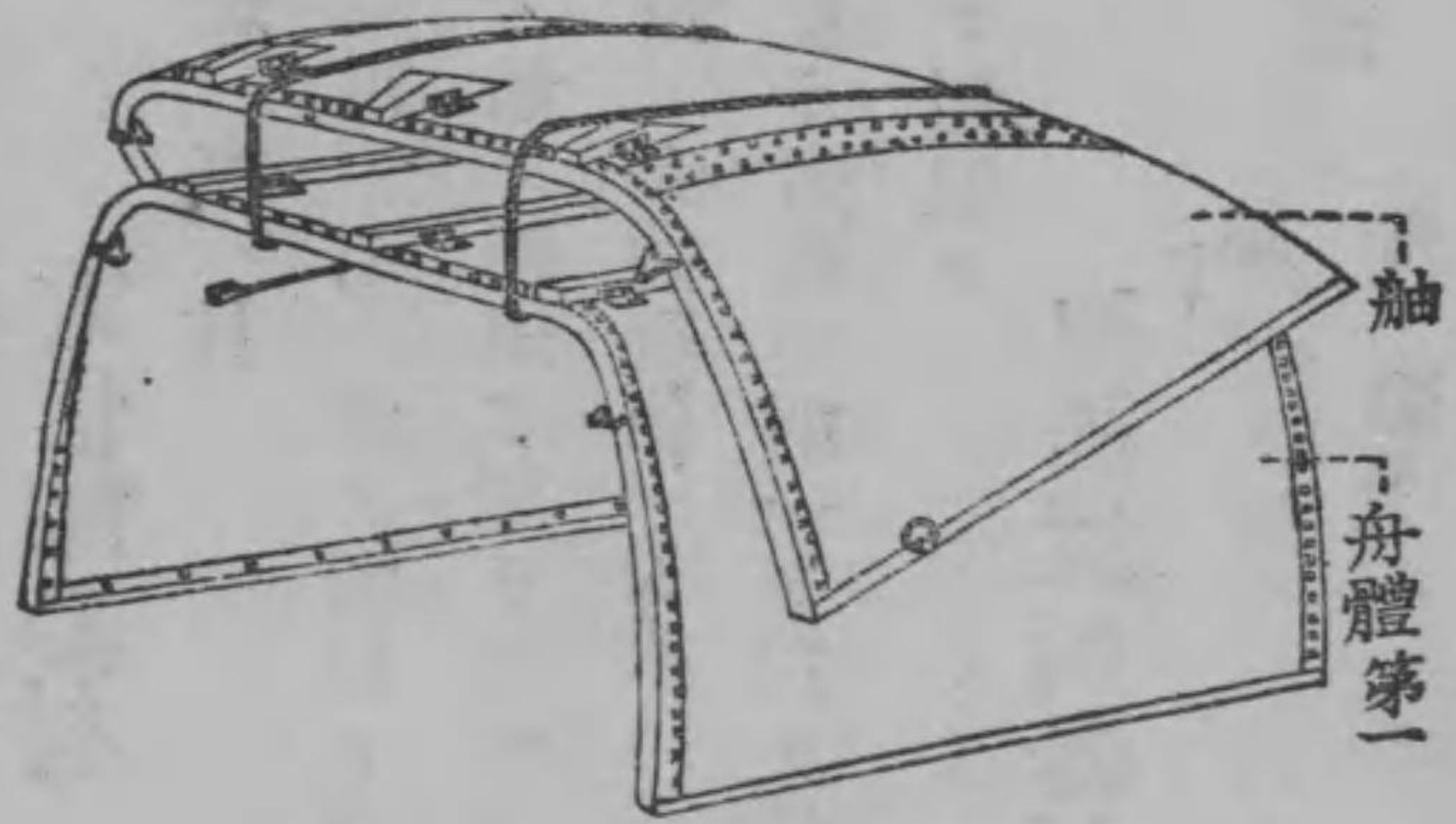
#### 第二十五

〔舟 體第一〕

一 一



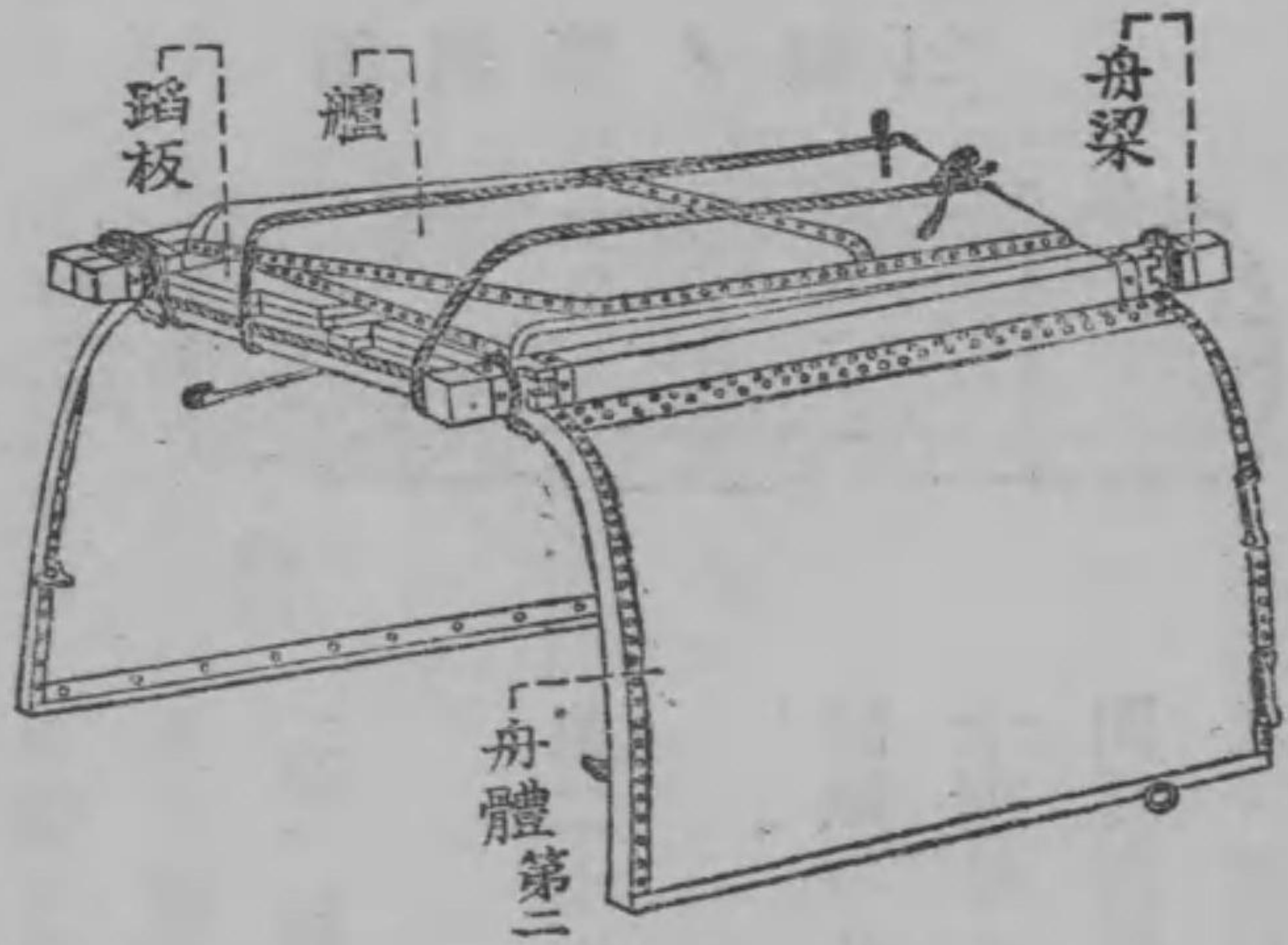
包捆ノ體舟及舳 圖一第



舟體ノ斜柱ヲ倒シテ鞍止環  
ノ枝ニ掛ケ舟楳ヲ倒シ駐栓  
ノ鍵ヲ以テ斜柱ニ纏ヒタル  
後舟體ヲ斜柱ヲ前方ニシテ  
伏セ其上ニ舳ヲ接合部ヲ前  
方ニシ舟楳ヲ倒シテ重ネ長  
荷造綱ニヲ繼キタルモノニ  
ヲ用ヒ兩側ニ就キ舟體ト共  
ニ纏ヒ結フ(第一圖)

(舟體第二一)

包捆ノ等體及體舟 圖二第



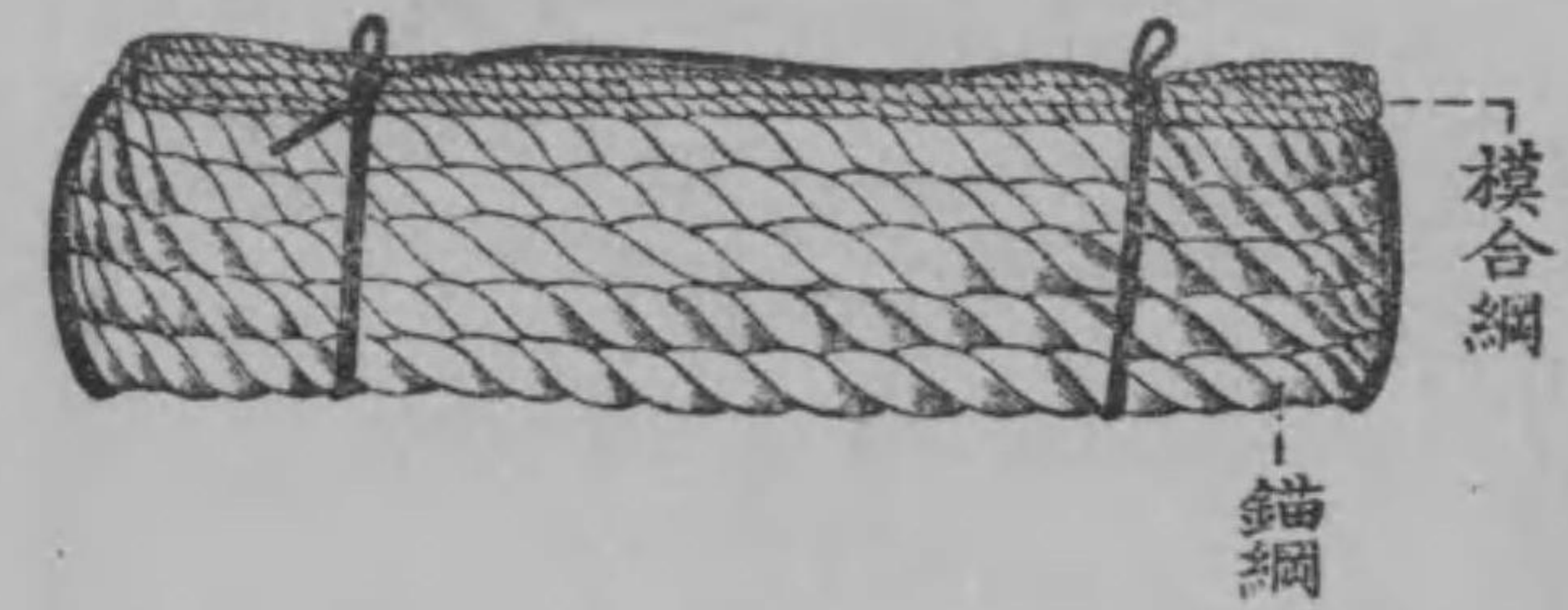
第二十六

舳	踏板	舟梁	舟體
二	四	三	二

舟體ハ斜柱ヲ倒シテ鞍止  
環ノ枝ニ掛ケ斜柱ヲ前方  
ニシテ伏セ其上ニ踏板ニ  
ツツ重ネテ竝ヘ舟梁ヲ一  
ト二トニ分チ兩側ニ置キ  
長荷造綱ニヲ繼キタルモ  
ノヲ用ヒ舟梁ヲ舟體ニ結



第三圖  
錨網ノ等梱包



ヒ著ク次ニ艦ニヲ載セ長荷造網ニヲ用ヒ兩側ニ就キ舟體ト共ニ纏ヒ結フ (第二圖)

第二十七

錨網  
緊木ノ網  
模合網

一 一 二

錨網ハ其中央ヨリ兩端ニ向ヒ各四十珊米ノ長サヲ餘シ各半部ヲ以テ外周長方約八十珊米内空長方約六十珊米ノ横長ノ環ヲ作ル如ク捲キ長荷造

網一ツツヲ用ヒ各環ノ兩端ニ就キ結ヒ然ル後兩環ノ上ニ緊木ノ網及模合網ヲ分チテ置キ長荷造網一ツツヲ用ヒ各環ヲ二箇所ニ就キ結フ (第二圖)

第二十八 板

七

本教範第五十四ニ依リ梱包シタル後本教範第三十八ニ準シ縮網ヲ以テ梱包ス

第二十九

負桁材  
錨

一 一

積載ノ關係ヲ顧慮シ負桁材ノ外側トナルヘキ方側ニ錨ヲ環ノ部ヲ前ニシテ置キ長荷造網ニヲ以テ前後二箇所ニ就キ結ヒ本教範



第三十八ニ準シ縮網ヲ以テ捆包ス  
 錨ハ銓ヲ脱シ横鐵ヲ錨幹ニ沿ハシメ長荷造網一ヲ以テ結束スル  
 モノトス

第三十 緊木ノ網

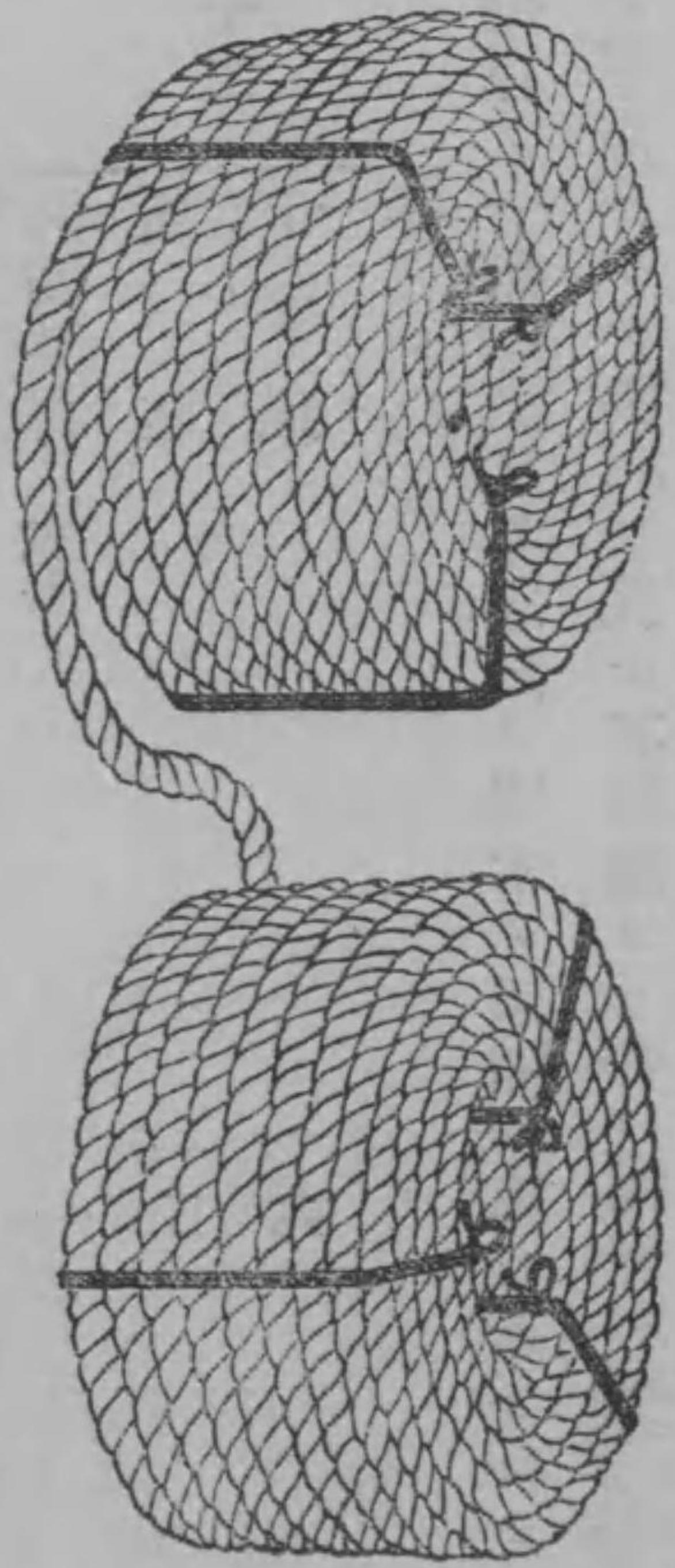
八 八 八

緊木ヲ揃ヘ其網ヲ纏メテ輕ク結ヒ結目ヲ緊木ノ上ニ在ラシム次  
 ニ緊網ヲ揃ヘ四ツ折ト爲シ緊木ノ上ニ置キ長荷造網一ヲ以テ緊  
 木ト共ニ結フ

第三十一 大網

一

中央ヨリ兩端ニ向ヒ各四十珊米ノ長サヲ餘シ各半部ヲ以テ外  
 周ノ中徑約八十珊米内空ノ中徑約二十珊米ノ環ヲ作り長荷造網  
 包 捆 ノ 網 大 圖 四 第



三ツツヲ用ヒ各環ヲ三箇所ニ就キ結ヒタル後附錄第二十二ニ準シ



締綱ヲ以テ捆包ス(第四圖)

橢圓擔桿 ダエンタンカン 網共

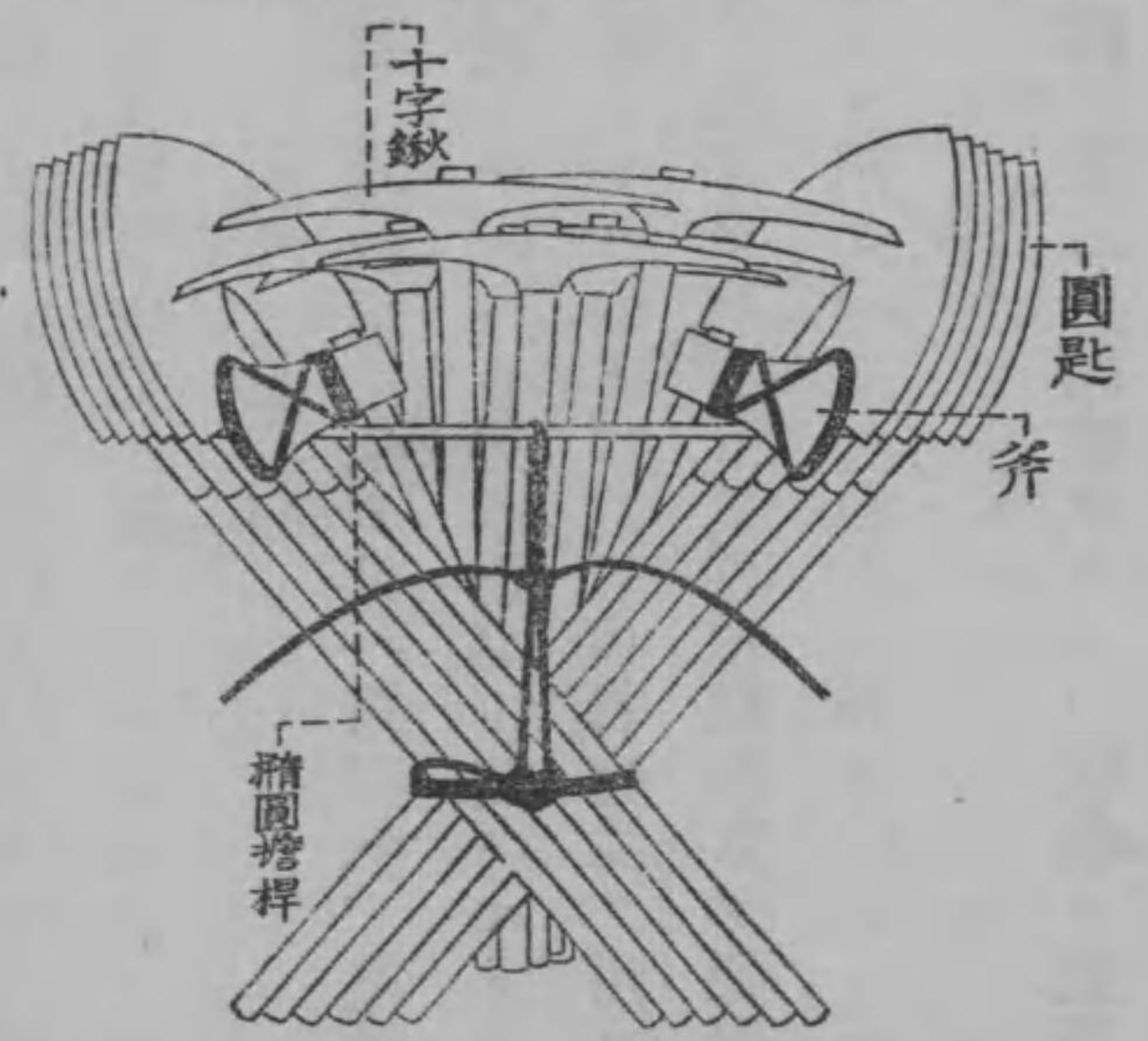
第三十二

圓匙  
十字鋏  
斧

一 二 六 二

橢圓擔桿ノ一側ニ鎖ヲ其間隔ヲ穹木ノ間隔ニ等シカラシメテ置  
キ之ヲ下方ニシテ擔桿ヲ保チ其兩端ヨリ各、圓匙六、鐵部ノ凹面ヲ上  
ノ方ニ、斧一、又覆ヲ裝シ又部ヲ擔 十字鋏三、鐵部ノ尖部ヲ擔桿 ツツヲ挿シ入レ  
各器具ノ柄ヲ集メテ交叉シ、斧及十字鋏ノ柄ヲ最モ下方ニ置キ後方ノ圓匙ノ  
柄ヲ其上ニ斜ニ置キ之ト反對ニ前方ノ圓匙ノ柄 橢圓擔桿附屬ノ綱ヲ以テ交叉部ヲ數回捲キ本教範第九十二

第五圖 圓匙及十字鋏等ノ捆包



ニ依リ綱ヲ結ヒ 綱ノ中央  
部ヨリ捲キ始メ之ヲ結ヒタ  
ルトキ一方ノ餘端ヲ他ノ方  
ノモノヨリ少シタル後長  
ク長カラシム、タル後長  
キ方ノ餘端ヲ擔桿ノ  
外側ニ下方ヨリ通シ  
他ノ餘端ト相俟テ輕  
ク緊張シ既ニ擔桿ニ  
掛ケタル綱ニ掛ケ結  
ヒ其餘端ハ假ニ之ヲ  
纏メ置ク(第五圖)



斧ニ換フルニ大槌一ヲ以テスルトキハ擔桿ニ十字鍬ヲ挿シ入  
レタル後大槌ヲ中央ニ挿シ入ルルモノトス

### 駄載

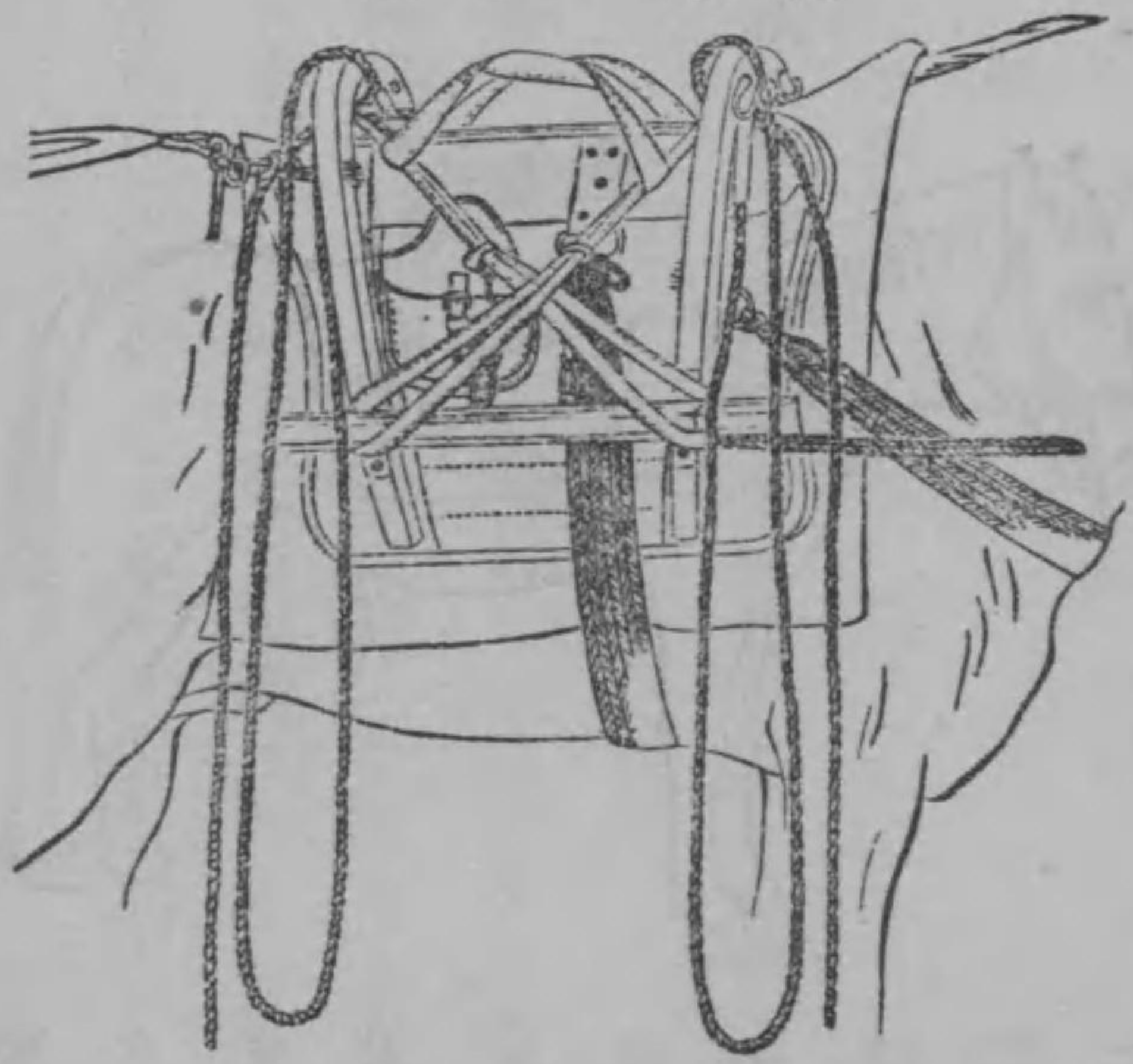
第三十三 本教育ニ在リテハ箱、叭、電柱、鐵舟及板ヲ以テ教  
育上基礎トナルヘキ兵器物品ト爲スモノトス但演習材料ノ關係  
ニ依リ要スレハ他ノ類似ノ兵器物品ヲ用フルコトヲ得

本教育ニ在リテハ三三式輜重駄馬具ヲ用フルモノトス五年式輜  
重駄馬具ヲ用フルトキハ之ニ準ス

### 箱

第三十四 箱ニヲ積載スルニハ駄鞍ニ裝著シアル締綱ヲ各、三

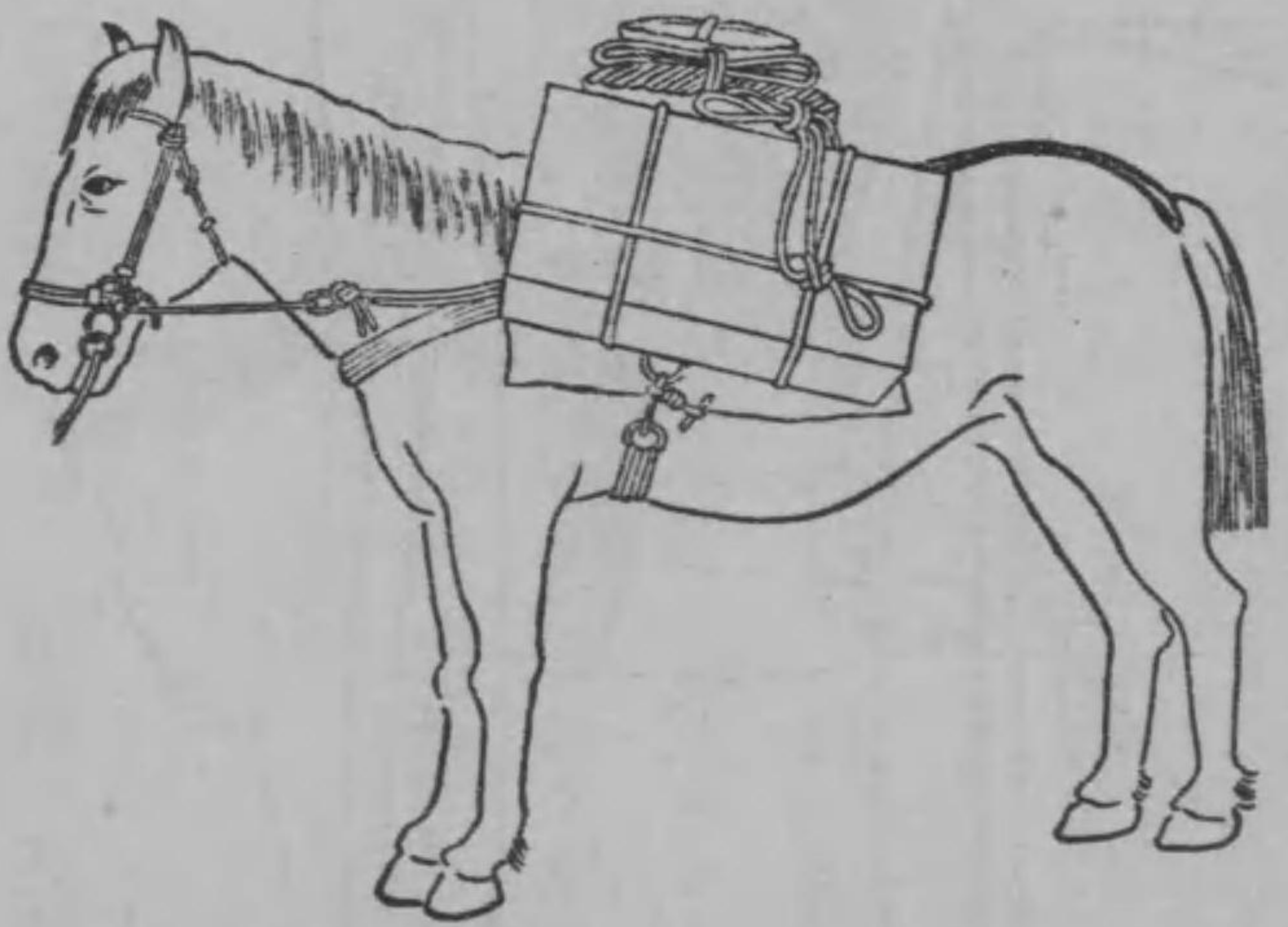
第六圖  
締綱ノ準備



條ト爲シテ垂下  
シ箱ノ大サニ應  
シテ環ヲ整ヘ其  
内方ノ部分ヲ外  
方ニ翻シ上部ヲ  
穹木ノ頂部ニ掛  
ケ外方ノ部分ヲ  
力木ノ上ニ在ラ  
シム(第六圖)  
次ニ箱ヲ駄鞍ニ



第七箱  
馬ノ載圖



著ケ縮網ノ環ヲ掛ケ  
テ引キ縮メ前後ノ網  
ヲ箱ノ内側ニ於テ力  
木ニ掛ケテ取り換ハ  
シ之ヲ外側ニ致シテ  
箱ヲ纏ヒ後部ニ掛ケ  
タル縦ノ網ニ依リテ  
結ヒ餘端ハ之ヲ束ネ  
箱ノ上ニテ網ニ挿ム  
(第七圖)

大行李物品

第三十五 叭

二

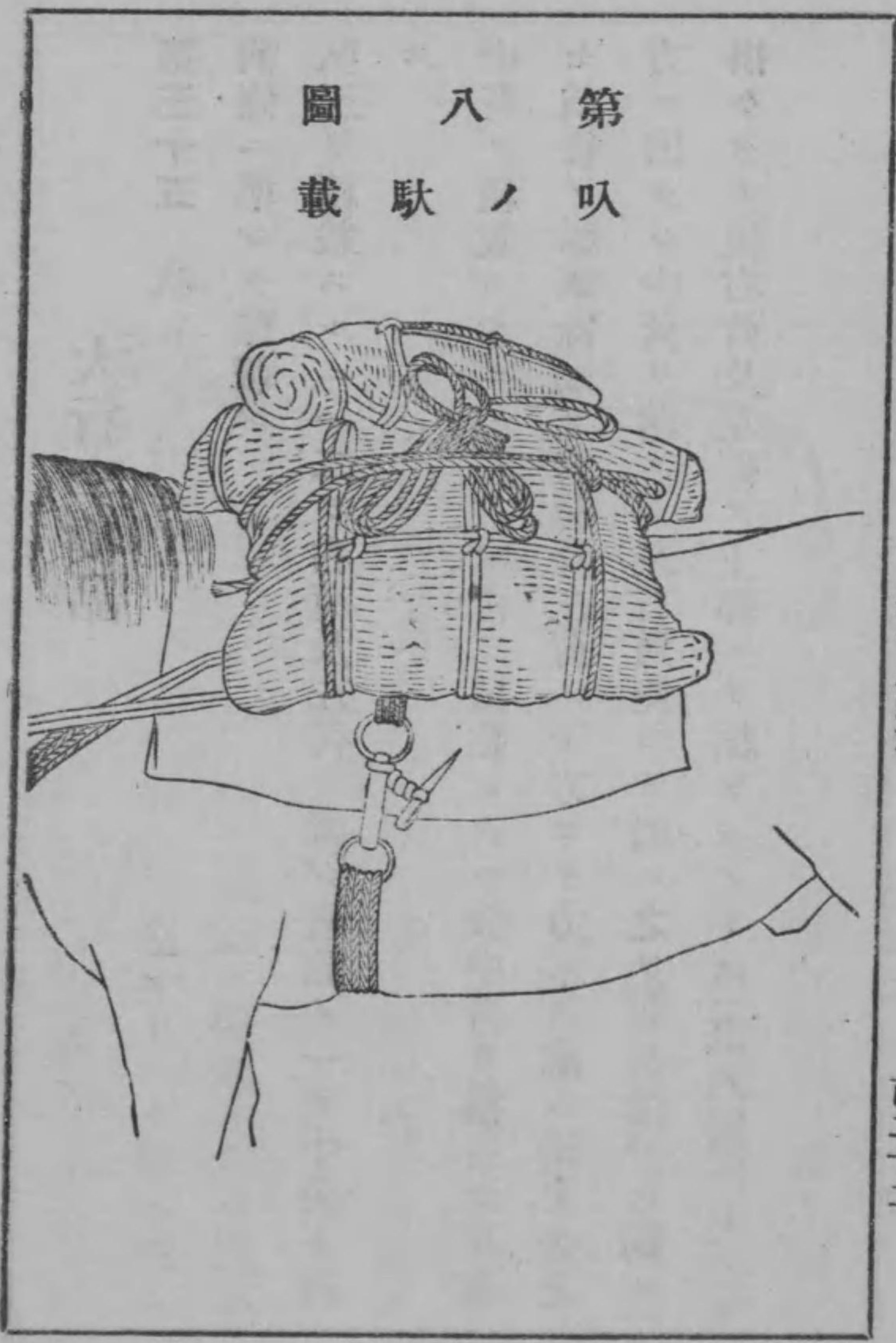
前條ニ準シテ積載ス

叭三ヲ積載スルニハ二ヲ右荷及左荷ト爲シ殘餘ノ一ヲ中荷ト爲ス

中荷ヲ積載スルニハ左右兩荷ヲ積載シタル後中荷ヲ横ニシテ載セ前後ノ縮網餘端ヲ右荷及左荷ノ下方ヨリ力木ノ端ニ掛ケテ上方ニ出タシ中荷ヲ越エテ左右兩側ヨリ斜ニ之ヲ取り換ハシ鉤ニ掛ケタル後右荷及左荷ノ上部ニテ結フモノトス(第八圖)



第八圖  
駄ノ載圖



第三十六 公用(將校)行李  
鏈ヲ以テ積載ス

六(二捆)

第三十七 (鍊鐵平釜 收入品共)  
(鐵 竈)  
鍊鐵平釜ニヲ鏈ヲ以テ積載シ次ニ鐵竈ニヲ重ネ附錄第三十五ニ  
準シ中荷トシテ積載ス

二 二

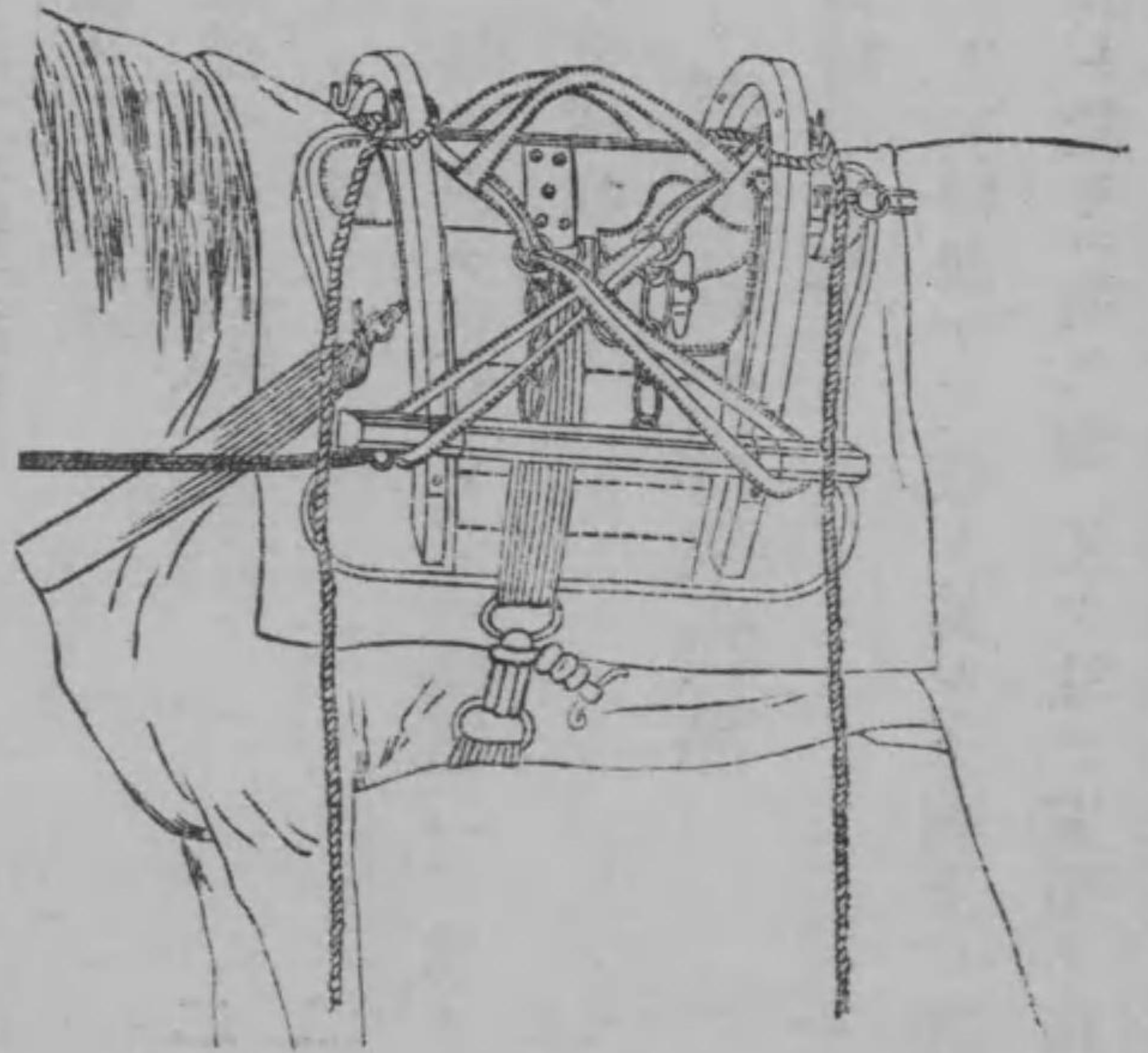
衛生隊小行李物品

第三十八 方錐形天幕  
駄鞍ニ裝著シアル縮綱ヲ三條ト爲シテ垂下シ其端ヲ引キテ各  
之ヲ一條ト爲シ置キ(第九圖 先ツ柱ヲ尖端ヲ前方ニシテ兩側ニ

一(二捆)

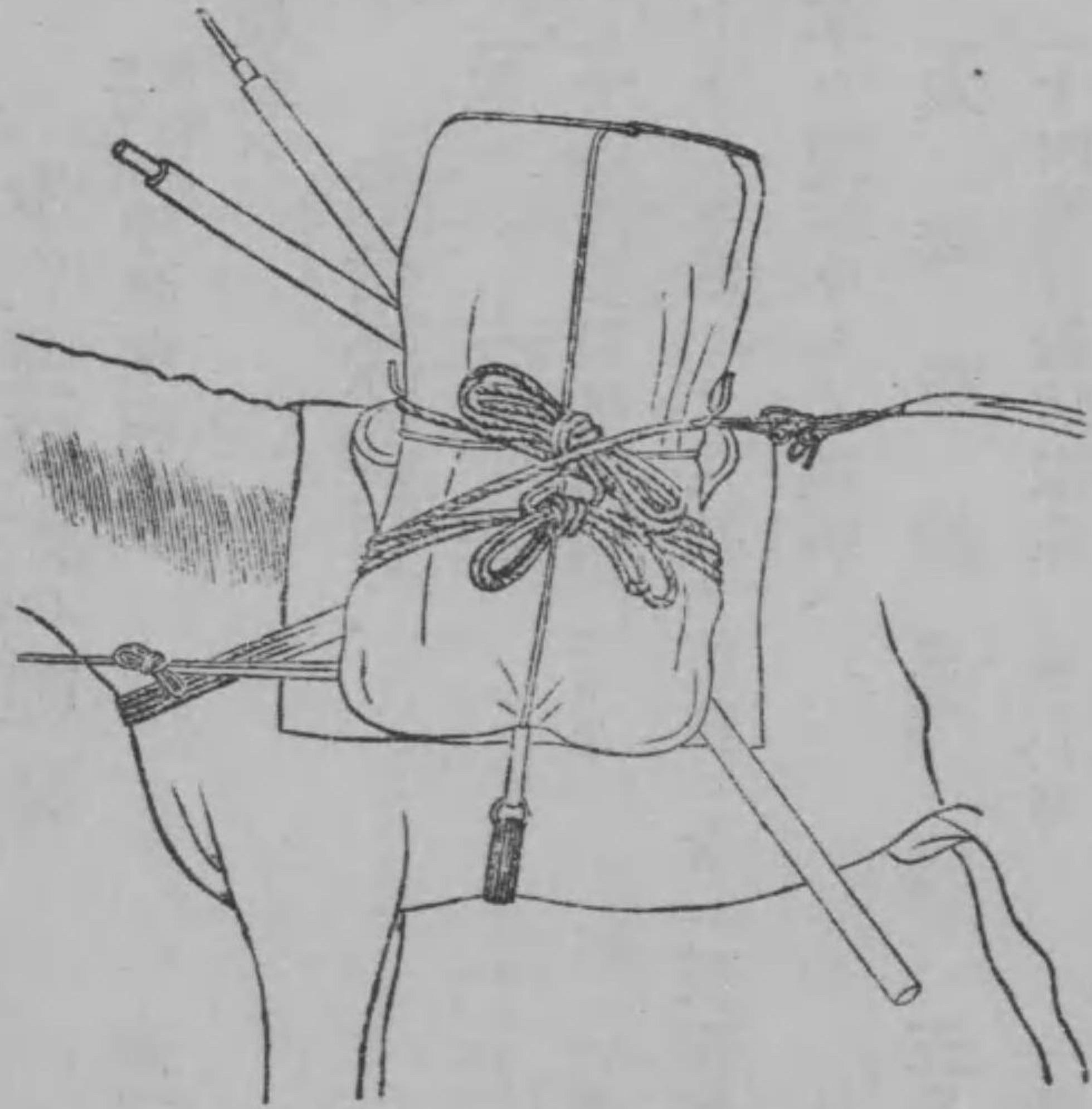


第九圖 縮綱ノ準備



分チ梱包ニ用  
ヒタル荷造綱  
ノ餘端ヲ以テ  
駄鞍ニ結著シ  
次ニ天幕體ヲ  
四人ノ兵卒ニ  
テ高く上ケ馬  
ノ後方ヨリ横  
ニ駄鞍ノ上ニ  
致シテ積ミ前

第十圖 方錐形天幕ノ駄載



後ノ縮綱ヲ斜  
ニ取り換ハシ  
力木ニ掛ケ外  
側ニ於テ結フ  
(第十圖)



步兵彈藥縱列彈藥

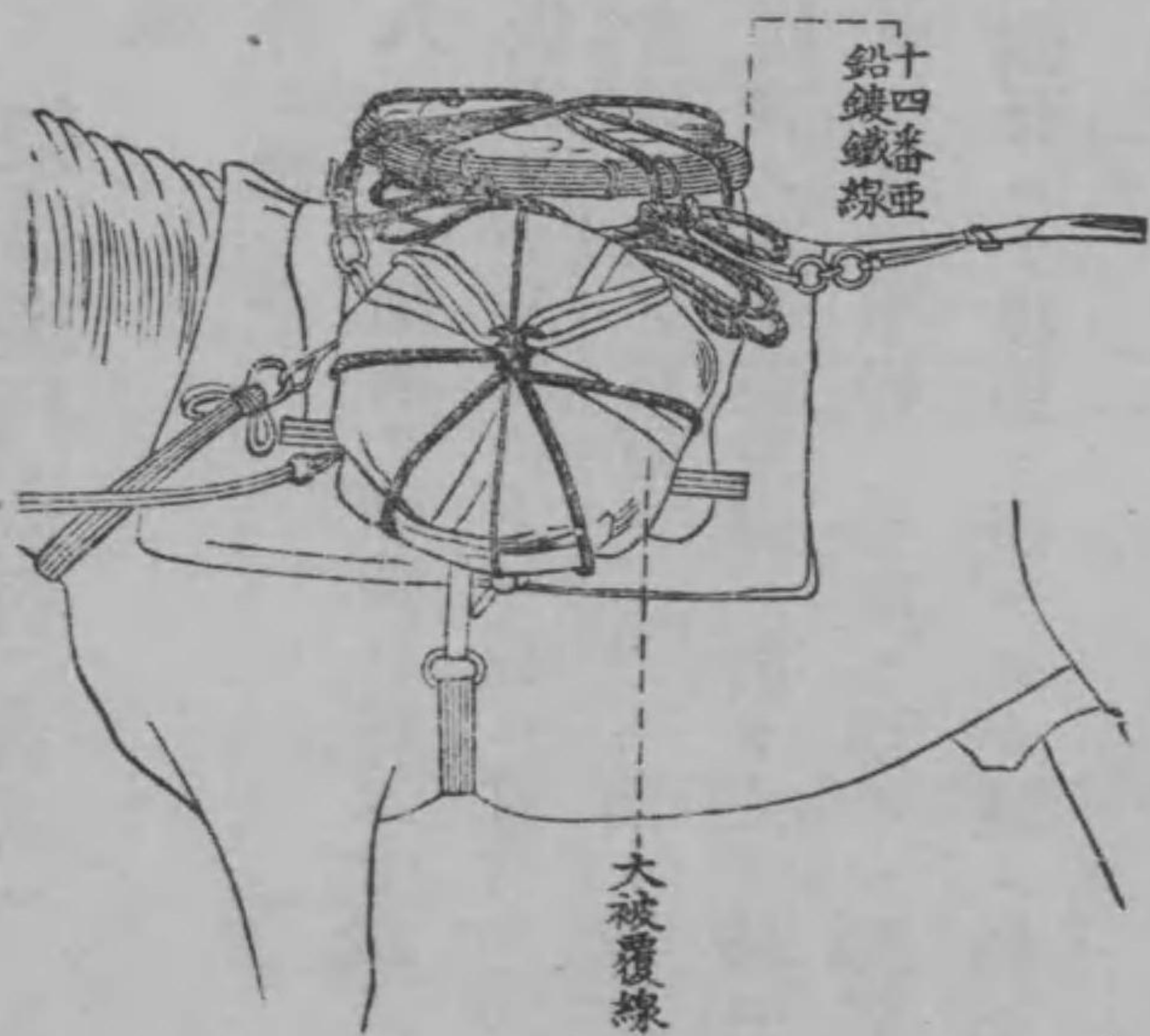
- 第三十九 三年式 機關銃 甲彈藥箱 四(二捆)  
 鏈ヲ以テ積載ス

電信隊器材

- 第四十 電柱 二六(二捆)  
 十四番亞鉛鍍鐵線 七五米 一卷
- 本教範第七十二ニ準シテ電柱ヲ積載シ次ニ亞鉛鍍鐵線ヲ附錄第三十五ニ準シ中荷トシテ積載ス
- 第四十一 大被覆線 袋共 五卷(二捆ト)  
 十四番亞鉛鍍鐵線 五〇〇米 一卷

第十圖

大被覆線及十四番亞鉛鍍鐵線ノ駄載



大被覆線二捆  
 ヲ鏈ヲ以テ積載シ次ニ大被覆線一卷及亞鉛鍍鐵線一卷ヲ附錄第三十五ニ準シ中荷トシテ積載ス  
 (第十一圖)

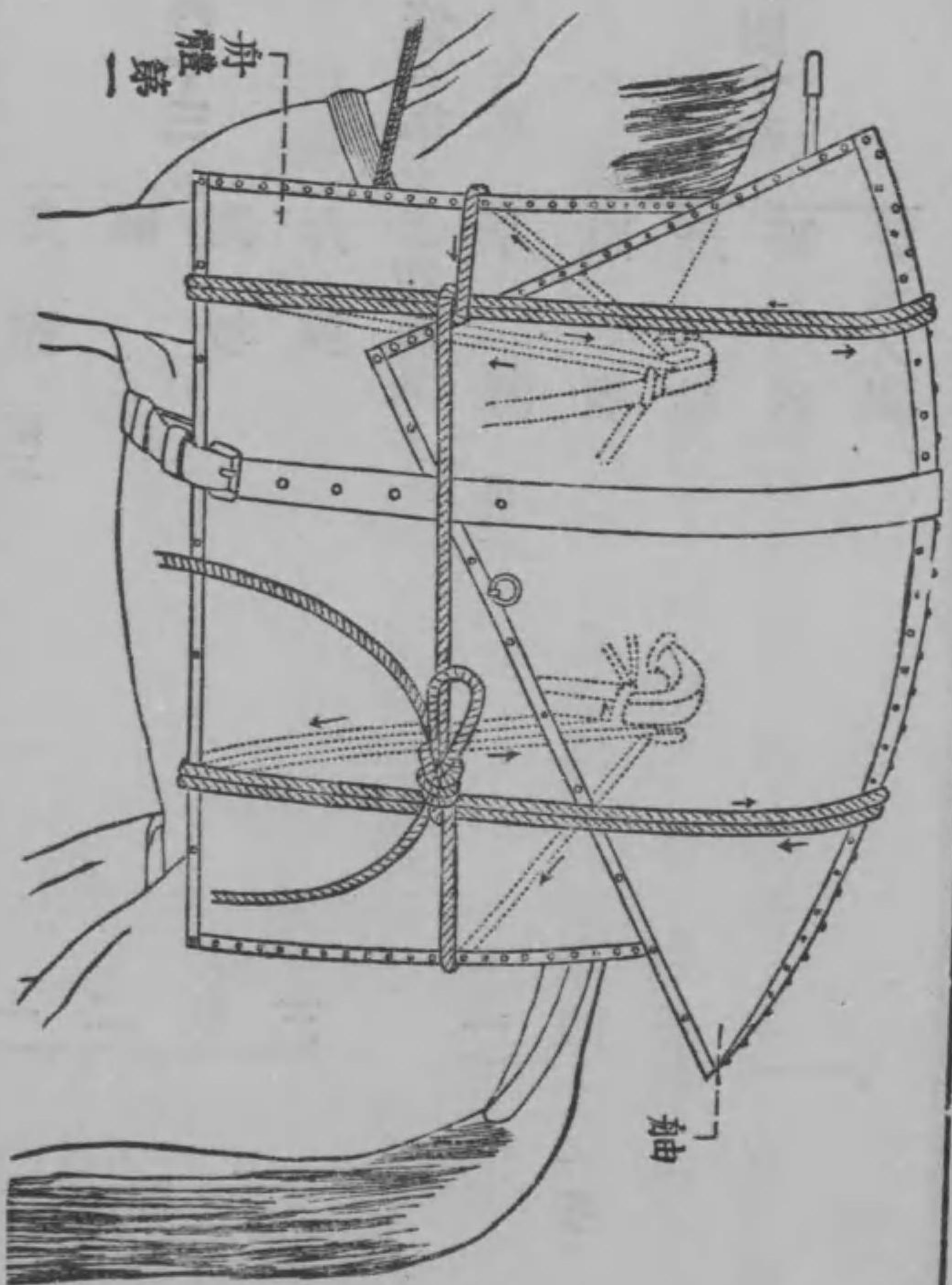


架橋縦列器材(舊式)

第四十二 舳 舟體 第一

一 } (一捆)

附錄第三十八ニ從ヒ縮網ヲ準備シ舳及舟體ヲ四人ノ兵卒ニテ高ク上ケ馬ノ後方ヨリ舟架ノ上ニ載セ縦骨ヲ舟架ノ溝ニ嵌メ鞍止環ヲ舟架ノ折釘ニ嵌メ折釘ヲ下方ニ向ケ鐵舟縛條ヲ舟體ノ上部ヨリ廻ハシ腹帶ノ上ヲ經左側ニ於テ之ヲ縮ム次ニ舟體ヲ越エテ縮網ヲ左右兩側ヨリ平行シテ取り換ハシ舟體ノ内方ヲ經テ鉤ニ掛ケ舟體ノ側面ニテ後部ニ掛ケタル縦ノ綱ニ依リ結フ (第十二圖)



第十二圖 舳及舟體ノ駄載



第四十三

舟體 第二  
船 體  
踏 板  
舟 梁

二 二 三 四  
└───┘  
（一捆）

前條ニ準シテ積載ス

第二

第四十四

舟體 第二  
踏 板  
舟 梁  
錨 網  
緊木ノ網

一 二 三 四  
└───┘  
（一捆）

（模合網

二）

附錄第三十四ニ依リ縮網ヲ準備シ先ツ錨網、緊木ノ網及模合網ヲ右荷及左荷ト爲シ縮網ノ環ヲ掛ケテ引キ縮メ網ヲ鈎ニ捲キテ止メ次ニ附錄第四十二ニ準シ舟體其他ヲ積載ス

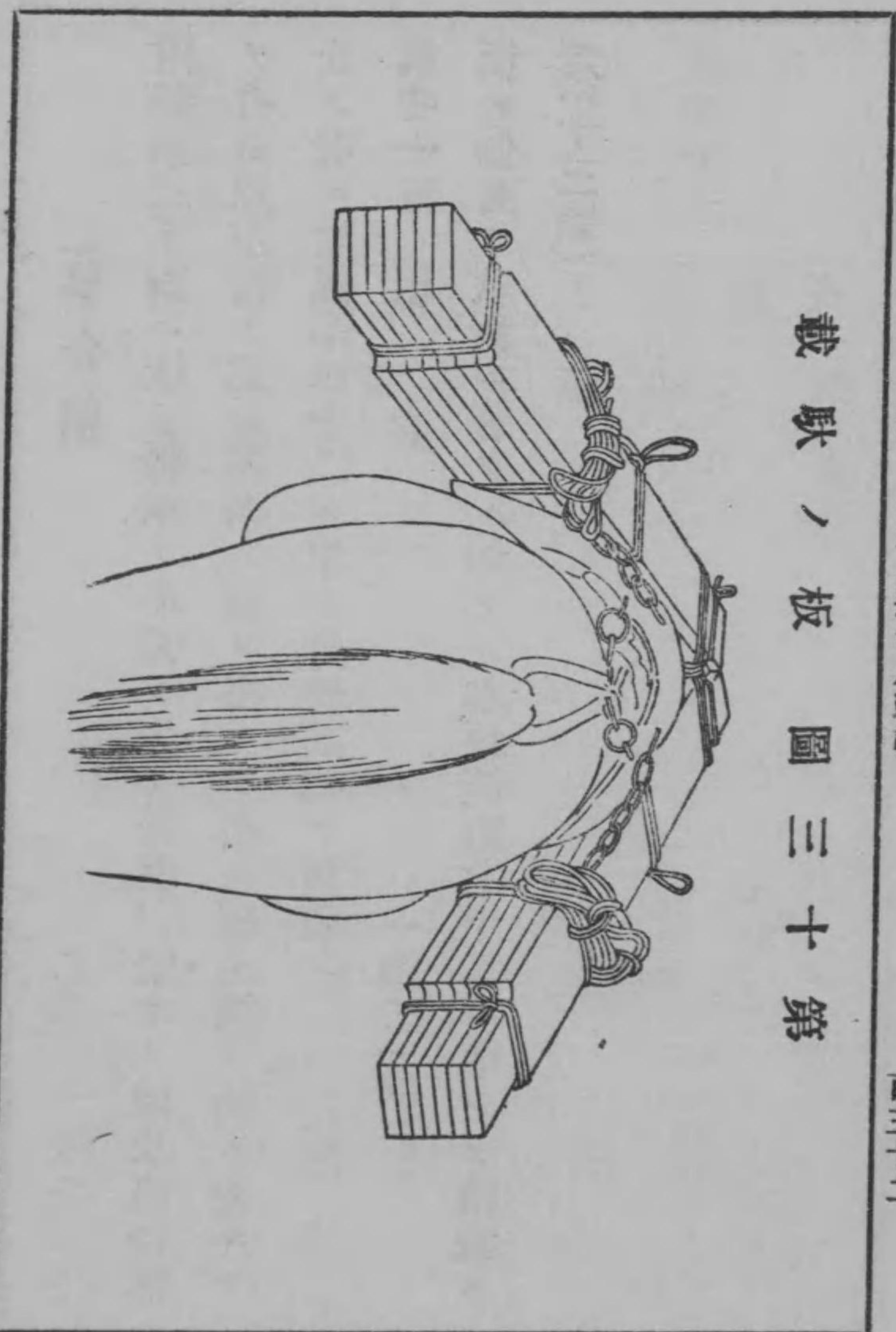
第四十五 板

一四（二捆）

板ノ側面ヲ駄鞍ニ著クル如クシ本教範第七十二ニ準シテ積載ス（第十三圖）



載 驮 ノ 板 圖 三 十 第



負 桁 材

錨

第 四 十 六

緊 網

緊 木

二 二  
二 (二捆)  
八 八 八  
八 (一捆)

負 桁 材 及 錨 ヲ 本 教 範 第 七 十 二 ニ 準 シ テ 積 載 シ 次 ニ 緊 網、 緊 木 及 緊 木 ノ 網 ヲ 附 錄 第 三 十 五 ニ 準 シ 中 荷 ト シ テ 積 載 ス

第 四 十 七

冠 脚 蹠  
材 材 板

一  
二 (一捆)  
二 (一捆)



（ガチウ）架柱ノ細具袋 （サイグアクロ） 收入品共

一

脚材ヲ右荷 （アチ）方ニス 冠材ヲ左荷トシ本教範第七十二ニ準シテ積載シ次ニ一番ノ前列ノ者ハ細具袋ヲ、其後列ノ者ハ蹠板ヲ取り先ツ細具袋ヲ脚材ノ上ニ載セ其上ニ蹠板ヲ締綱ノ餘端ヲ孔ニ通シテ載セ附錄第三十五中荷ノ積載ニ準シテ積載ス

第四十八 大綱

一

鍵ヲ以テ積載ス

（アチ）圓匙

二四

（アチ）十字鍬

一二

第四十九 斧

（アチ）斧

二二  
（二捆）

（アチ）大槌

一一

鎖ヲ以テ積載シ橢圓擔桿附屬ノ綱ノ餘端ヲカ木ノ内方ニ掛ケ之ヲ返シテ縦ノ綱ノ所ニテ結フ

### 第四章 自動貨車ニ積載スル兵器

#### 物品ノ梱包及積載

第五十 兵器物品ヲ自動貨車ニ積載スルニハ通常之カ梱包ヲ要セサルモノトス然レトモ兵器物品ノ種類ニ依リ破損紛失ヲ防ク等ノ爲特ニ梱包ノ必要アルトキハ本教範第十七ノ要旨ニ基キ適宜之ヲ行フモノトス



梱包ニ關シテハ本教範第十六乃至第三十五ノ規定ヲ準用スルモノトス

第五十一 自動貨車ノ積載量ハ積載品ノ容積之ヲ許ス場合ニ於テ四噸自動貨車ニ在リテハ四百貫匁、三噸自動貨車ニ在リテハ二百七十貫匁ヲ以テ基準トス

第五十二 自動貨車ニ對スル積載ニ於テハ特ニ本章ニ於テ規定スルモノノ外本教範第七十六、第八十、第八十一、第八十四乃至第九十二、第九十四及第九十五ノ規定ヲ準用スルモノトス

第五十三 兵器物品ヲ積載スルニハ其重量ヲ荷匡内ニ平等ニ配當シ特ニ其下積シタヅミヲ確實ナラシムルヲ要ス

第五十四 數種ノ兵器物品ヲ一車ニ積載スルトキハ其種類、形態、重量等ヲ顧慮シ特ニ其保全ト安定トヲ害セサル如ク積載ノ方法ニ注意スルヲ要ス

第五十五 重量輕ク容積大ナル兵器物品ヲ積載スルトキハ其安定ヲ害セサルヲ度トシテ高ク積ムコトヲ得ヘシト雖其幅ハ通常荷匡ノ側板外ニ出テサル如クナルヲ要ス

第五十六 長キ兵器物品ヲ積載スルニハ通常荷匡ノ後板ゴウバンヲ開キ兵器物品ノ餘端ヲ荷匡外ニ出タス如クシテ積ムモノトス若長度又ハ重量過大ナル爲此方法ニ依リ難キトキハ荷匡ノ後端ニ枕木又ハ支材ヲ裝置シ所要ニ應シ兵器物品ノ後部ヲ高ク支持シ車體



ニ對スル配重其他ノ關係ヲ良好ナラシムル如ク積ムモノトス

第五十七 積載卸下ハ通常四人一組ニテ行フモノトス

第五十八 積載スヘキ兵器物品ハ本教範第二十四ニ準シテ集積シ其後方ニ車輛ヲ後端ヲ兵器物品ニ對セシメ成ルヘク之ニ近ク位置セシムルモノトス但積載前豫メ荷匡ノ後板ヲ開キ荷綱及附載品ヲ車輛ノ後端下ニ卸スモノトス

第五十九 四人一組ニテ積載卸下ヲ行フニハ本教範第六十四ニ準ス但一番ハ積載品ヲ運ヒ二番ハ荷匡内ニ在リテ動作スルモノトス

第六十 積載品ヲ荷匡内ニ積ミ重ヌルニ方リ要スレハ積載品ノ

種類妨ナキモノニ限り既ニ積ミタルモノニ上リテ動作スルコトアリ

第六十一 積載終レハ荷匡ノ後板ヲ閉ツルモノトス而シテ荷綱ハ積載品ノ容積過大ナル等特別ノ場合ノ外通常之ヲ掛クルヲ要セザルモノトス

## 梱包積載教範附録終



大正八年十二月五日印刷  
大正八年十二月十日發行

(摺包積載教範奧附)

(定價金貳拾五錢)

陸軍省  
檢閱濟

翻刻  
發行者

東京市麴町區準町四番地

兵用圖書株式會社

印刷者

東京市麴町區準町四番地

代表者 小林又七

印刷所

陸軍省構内

小林又七工場

電話九段四一九番  
電話九段八五〇番

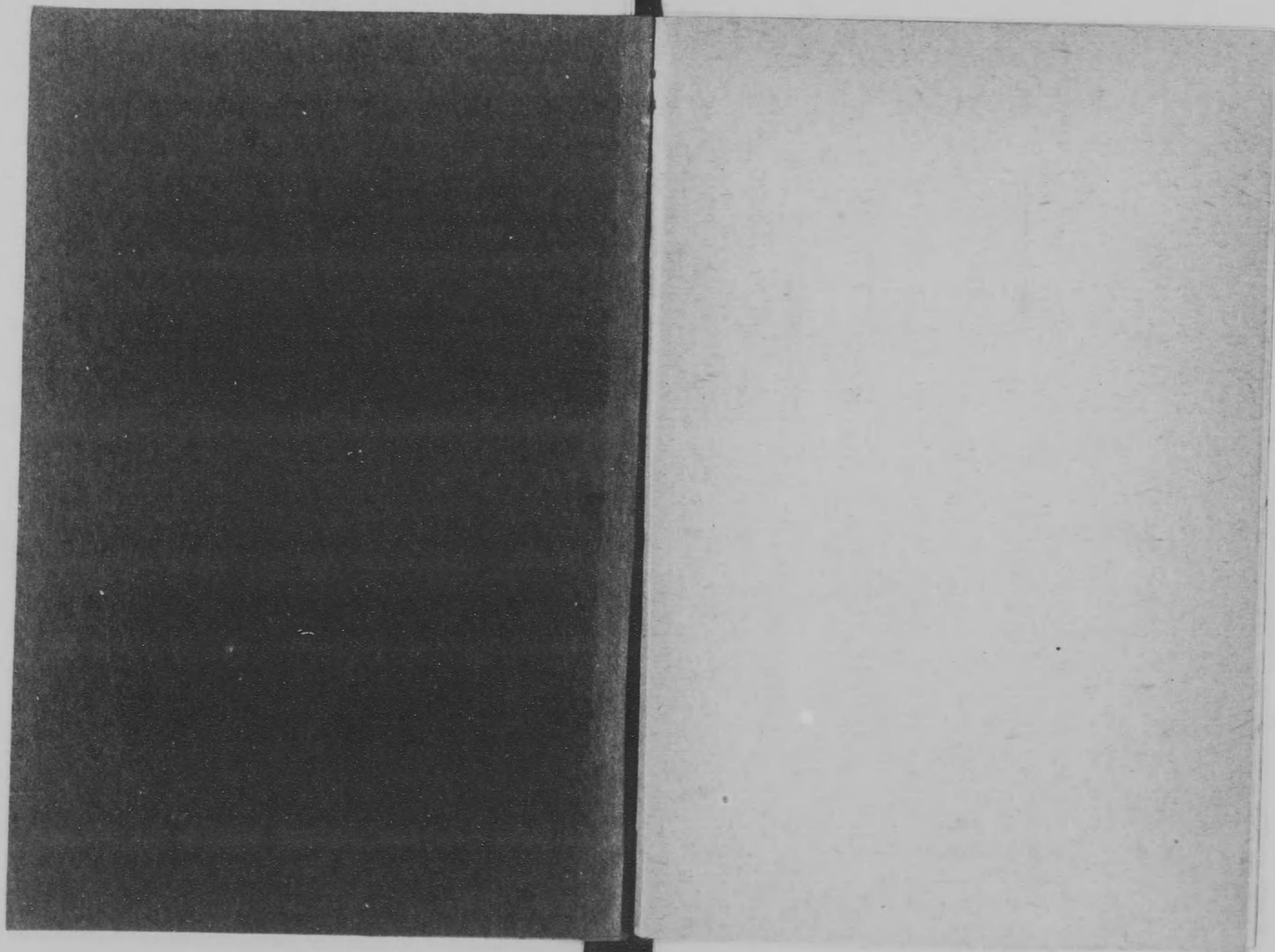
發行所

東京市麴町區準町四番地

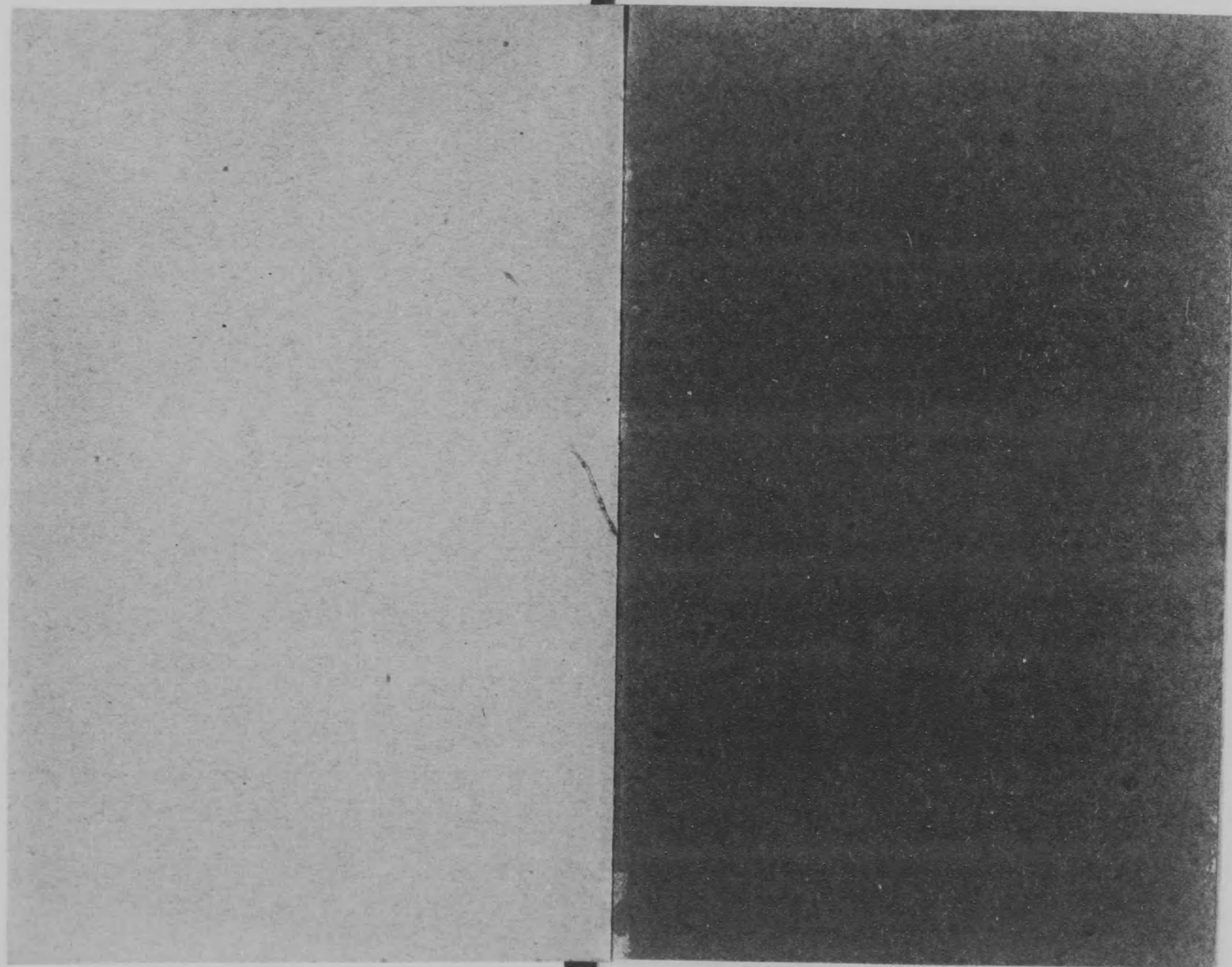
兵用圖書株式會社

振替貯金東京一八〇八八番











388  
187

9.1.12



終

